建築と社会

特　集

- “らしさ”のデザイン
- 建物を綾どる小粋なモノの仕掛人

1
1999

日本建築協会

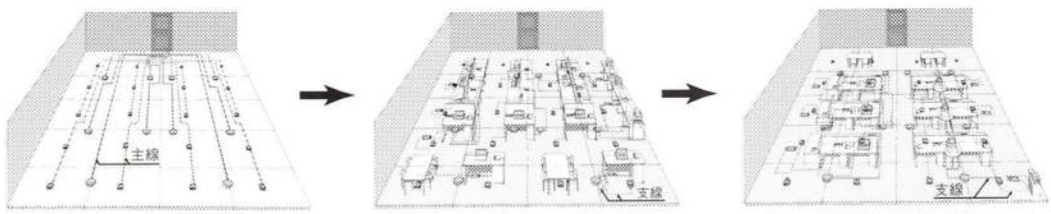
National 松下電工

さらば、クモの巣配線。

オフィスのごちゃごちゃ配線が、スッキリきれいに変わります。



見える先行配線で、レイアウト変更にも柔軟に対応できます。



ます主線を先行配線。

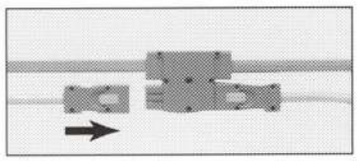
レイアウトに合わせて支線・アウトレット類を敷設。

レイアウト変更時も支線・アウトレット類を移設・増設するだけ。

独自の"見える先行配線"により、OA機器やファニチャーなどのレイアウトを決める前に、先行して主線の配線工事ができます。配線はフロアパネルの上から溝に入れるだけなので、フロアパネルをはがす作業や、前もって配線を考えておく必要はありません。しかも、配線が上から見える半透明カバーにより、カーペットをめくるだけで配線状態が一目瞭然。

ワンタッチ接続でカンタン省施工。

主線と支線・アウトレット類との接続は、ワンタッチのハーネス接続により、面倒な結線作業がなくなりました。ロック式により接続の信頼性もアップし、ホコリもシャットアウトします。



フロア 一体型 配線システム

フルワイヤリング フロアシステム

A&i 快適を科学します

●商品に関するお問い合わせは、
〒571-8686　大阪府門真市門真1048　松下電工・配管機材事業部　電話(06)6908-1131まで。

1999年を迎えて

社団法人 日本建築協会会長　市川　宏

新しい年を迎え、会員の皆様のご多幸と建築界の繁栄を心からお祈りいたします。

毎年、年頭のご挨拶を考えるとき、過ぎ去った一年をふり返りながら今年こそよい年になってほしいという祈りをこめてペンを走らせて参りました。しかしここ何年か、私ども民間の感覚とは裏腹に、「ゆるやかな回復に向かっている」はずであった平成の大不況は、実は私どもの憶測どおり徐々に傷口を拡げていたわけです。

一昨年暮れ近くに成立した財政構造改革法は、当時すでに三洋証券や北海道拓殖銀行の破産など、赤字減らしの緊縮財政を行うべき情勢にはなかったにもかかわらず、なおもそれに固執し通し、ようやく昨年末の臨時国会で凍結されたのでありますが、すでに遅きに失したと言うべきで、この間発生した銀行の貸し渋りのために倒産する企業は単に一般の中小企業のみにとどまらず、私どもの建設界にも直接・間接の被害、影響を及ぼして参りましたし、長期にわたる誤った政策と相俟って、金融システム破綻への流れの顕在化とともに遂に大爆発を引き起こし、わが国経済はいまだかつて経験したことのない深刻な情況となっているわけです。

昨年11月に発表された24兆円にのぼる緊急経済対策は、寸刻を争う非常事態の中での政府の対応としては相も変わらぬ too slow とは言え、本年1999年度には「はっきりとしたプラス成長」を、2000年度には「回復軌道に乗せる」という目標を明示したことは珍しく、これまでの先の見通しのわからないための心理的不況感に対しても効果が期待できます。

マスコミの中には相変わらず否定的意見も見られるようですが、この際はいずれにしても前向きに積極的に受けとめるべきでしょう。自民・自由の提携についても賛否両論相半ばのようですが、現在のような非常事態の中では、最近の世界的な企業合併同様、規模、内容が異なり多様な意見を集約する中からこそ思いがけない発展も期待できるというもの。党利党略などこの際忘れていただいて、経済の建て直しに全力をあげていただきたいものです。

建築界の動向は私ども建築協会の入退会状況によっても推察することができます。不況をまともに受けて退会なさる方もいらっしゃいました。しかしまた一方で皆さんがいかにしてこの不況を克服するかに全力をあげていらっしゃるご様子も拝察しております。たしかに現在景気が底をついたとは確言できないかも知れませんが、何となくそのような感じはいたします。そこへ発表された恒久減税や貸し渋り対策を含めた緊急経済対策は、誠によいタイミングとは言えないでしょうか。先の見通しは明るくなってきたと思います。ただ、そのような流れの中にあるとは言いながら、私どもの建築界が本年いっぱい、さらに一層の努力が必要なことも確かです。

改めて皆様の一層のご健闘をご期待申しあげ、ご繁栄とご多幸を心からお祈り申しあげる次第です。

編集委員会

今こそ、価値ある仕事を

編集委員長
與謝野　久

新年を迎え、会員の皆様には、厳しい年であった昨年を振り返りながらも、一層厳しい様相を呈しつつあるこの年をいかに実り多い年にするか、全身を引き締めてお考えのことと存じます。
昨年の年頭の抱負でふれました「Openness（開放による自己鍛錬）の精神」は、いよいよ、頭の中の理念としてでなく、自らの肉を削っての実践行動として、着実に取り組まねばならない待ったなしの年になったと言えます。
あわせてこのような時期にこそ、良好な社会的資産を形成するための価値ある企画提案の真価が厳しく問われることになるとも言えましょう。歴史を振り返ってみて、社会の経済発展ボリュームがさほど大きくない厳しい時代の建築の中に、後世多くの人々に親しまれた名建築を見ることができる事実を今、われわれは自身の職能を発揮する環境の中で謙虚にとらえるべき時であると考えます。
本年の皆々様のご健闘をお祈りいたします。

事業委員会

会員の皆様が事業委員です

事業委員長
多井　幸男

新年を迎え、会員の皆様には日頃より協会の事業に格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
常設委員会は編集、教育、出版、建材各委員会を含めてすべて協会の事業でありますので、毎年申し上げているように相互の連絡を密にして広範囲な意見をまとめ、一層協会の発展に尽くさねばなりません。全会員の参加による委員会でありますので、各事業の行動と業績が会員各位のメリットに還元されるのが当然であります。
事業委員会の数十年続いている見学会に、近年は有名建築の見学会と歴史的町並みの見学を加えて多くのご参加を得ております。
また、従来の広報を情報小委員会と改め、一層時代に即した委員会といたしました。若い会員の集いの催しと、さらに年一回くらいの大型企画を予算化し、ますます従来の活気を増すよう努力いたしたいと思いますので、より多くのご意見を賜り総合的な事業として発展させる所存でございます。
本年も従来以上のご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶といたします。

教育委員会

若い力に手応えを感じて

教育委員長
片倉　健雄

「工高生デザインコンクール」は、協会の事業の中でも長い歴史を持つものですが、昨年第44回は応募校数が過去最高になりました。これは、最近同種のコンクールが増えた中で、伝統と、一貫した建築教育と社会をつなぐ姿勢が評価されていることと、設計のテーマが適切であったことによるものと思っております。
担当の委員各位と審査委員長以下諸分野の審査委員の方々の熱心なご協力によるものと感謝しております。審査会と表彰式の場でこれらの方々から、応募した若い工高生に対して、その独創性や設計に対する集中力、社会性などに賛辞が寄せられました。意義ある事業として今年も積極的に取り組んで参りたいと思います。
今ひとつの中心事業である「建築工事実務講習会」も、新しい内容を加えるなどして、不況の中でも熱心な参加を得ております。実務レベルのニーズに対応できる内容を充実させるよう、委員の方々と今年も取り組んでゆく所存です。

出版委員会

いい著者をご紹介してください

出版委員長
山田　　修

当会は、他の会とは異なった性格をもっています。それは、本という文化商品を生み出す仕事と、当協会の経済的発展につくす責任です。
いい単行本を出すことは、いい著者を探しだすことです。その著者さがしに当会は、探照灯を当てて必死に探しているのですが、思うように進んでいません。探照灯の精度が落ちてきたのかも知れませんねエ。
どうぞ、会員の皆様がた、いい著者をご紹介してください。また、こんなものを書いてみたい、と自薦してください。本を出版することは、人生の生きがいを作り、心の遺産を残すことです。
いま、建設業界は不況のまっただなかにあります。「とても本を書くヒマなどありませんよ」の声が聞こえてきそうです。くわえて、活字ばなれと少子化が進み、本を読まない時代となりました。
が、当会は新しい本を作りだす務めを背負っております。この務めだけは、何とか果たしたいのです。

建材委員会

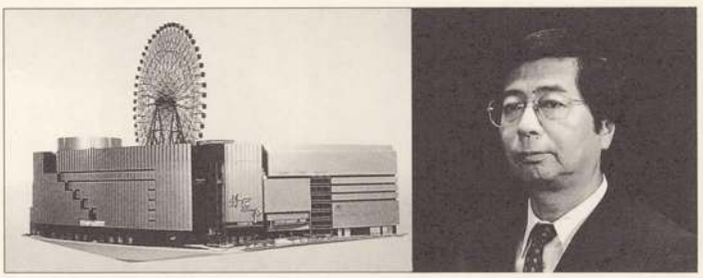
改正建築基準法の施行時期近づく

建材委員長
和田　克朗

改正建築基準法の施行時期が近づいた。改正の大きな要点は、
（1）特定行政庁に限られていた建築確認業務の、民間の指定確認機関への開放
（2）仕様規定から性能規定への変更
があるが、（2）については改正法文が示されていないこともあって、なかなか実態が見えてこない。
準防火地域での木造３階建てを可能にする改正が施行され、すでに８年が経過した。外圧を動機とした規制緩和（経済戦略）のひとつとして、大型輸入住宅の量的拡大を意図してのものと思われるが、実態は意に反して、小規模戸建てに限られ、現在、大阪市域では小規模木造戸建て住宅の80%近くが木造３階建てとなった。が残念なことに、その多くが防火上、構造上多くの問題（法令違反）を抱えているといわれている。
建築物の性能（とりわけ部材料の強度や防火性能）を外見から判断することは、例示仕様があるとはいえ非常に難しい。今回の改正は、この判断を建築士に委ねることになるわけだが、法令違反に類した多くの問題が拡大しないか心配している。
建材委員会でも、できるだけ多くの機会をとらえて、こうした情報も提供していきたい。

話題建築を聞く
第28回
HEP FIVE
観覧車のあるビル

日　時　1999年 1 月26日(火)
　　18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　林　達雄
　　竹中工務店設計部副部長
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
　　学生1,000円引
　　＊飲物・税込
申　込　１月19日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：話題建築を聞く
　　②氏名
　　③個人会員､団体会員､一般の別
　　④職場･学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を１月20日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会情報小委員会
　　担当主査：天野直樹/竹中工務店

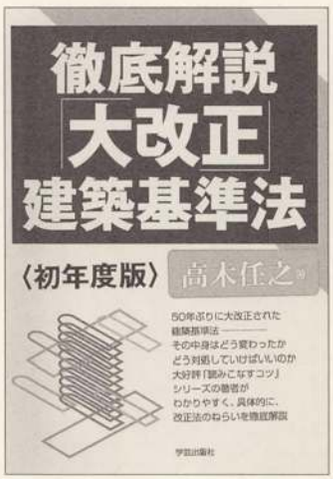


大阪・キタの商業中心地に位置し「空のある街」として、長年親しまれてきた阪急ファイブも、より強い刺激を求めて変貌する商業施設の波の前には、再生への道を歩まざるをえない状況にあった。隣接するコマ劇場の移転にともない、敷地を一体にして規模を倍増し、次世代の都心型テーマパークを複合した商業施設として新生させることが、このプロジェクトの最大の課題であった。
「スニーカーの似合う街」の創出は、10代から20代の若い世代をターゲットとした旧阪急ファイブの新生のメインコンセプトであり、その具現化のため、建物に半ば暴力的に挿入された真紅の大観覧車は、都市がその本質として、宿命的に内包するある種の危うさの象徴に他ならない。
今回の講演会では、「観覧車のあるビル」実現までのプロジェクトの軌跡を、計画案の変遷を辿りつつ、法的課題や技術的課題の克服についても触れながら、ご紹介する予定です。（林　達雄）

林　達雄（はやし　たつお）
1948年京都市生まれ
　71　京都大学建築第2学科卒業
　73　同大学院修士課程修了
　　竹中工務店入社
現在　同、大阪本店設計部副部長
主な作品
ロンシャン第２ビル、松蔭女子学院大学・短期大学、長瀬産業本社ビル、阪急学園池田文庫、三基商事東京支店ビル、宝塚大劇場、阪急電鉄本社ビル、松蔭女子学院大山ロッジ

●建築概要
所 在 地　大阪市北区角田町3-1
主要用途　商業施設
建 築 主　阪急不動産㈱
　　㈱阪急ファイブ
設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中工務店・大林組・森組JV
敷地面積　5,542.14㎡
建築面積　4,878.35㎡
延床面積　52,755.02㎡
構造規模　S･SRC･RC､B3･10F･P1
最高高さ　48.8m（建物）
観 覧 車　直径75m
　　ゴンドラ52篭（４人乗）
　　最高高さ106m
設計期間　1989年４月～1998年11月
工　　期　1996年６月～1998年11月

出版委員会企画
<プロのノウハウ>シリーズ
新刊頒布のお知らせ



徹底解説「大改正」建築基準法<初年度版>
高木任之著
1998年10月10日刊
A5判　208頁
定価　本体2,000円＋税
発行　学芸出版社



建築と音のトラブル
田野正典、中川清、縄岡好人、平松友孝著
1998年10月25日刊
四六判　224頁
定価　本体2,300円＋税
発行　学芸出版社

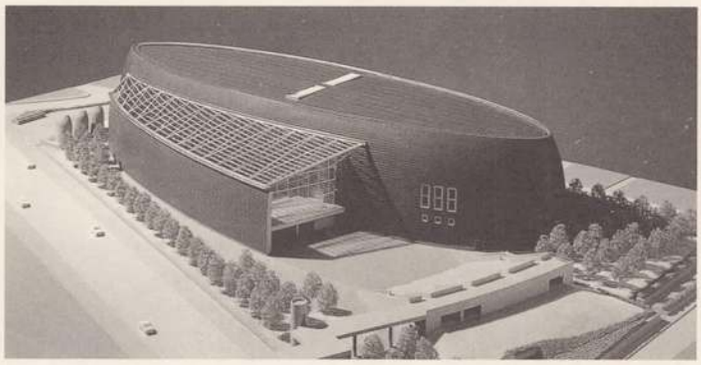


建築の現場管理システム－実践と評価のために
伊東貞夫著
1998年11月25日刊
四六判　192頁
定価　本体1,800円＋税
発行　学芸出版社

●購入ご希望の方は本会事務局までご連絡下さい。
　ご来会の方には会員特価（本体価格のみ）で頒布いたします。郵送の場合は送料をご負担願います。
事務局：大阪市北区梅田1-1-3-2100（大阪駅前第３ビル21階）　TEL.06-6348-0635　FAX.06-6348-0634

なら100年会館 見学会（再掲）

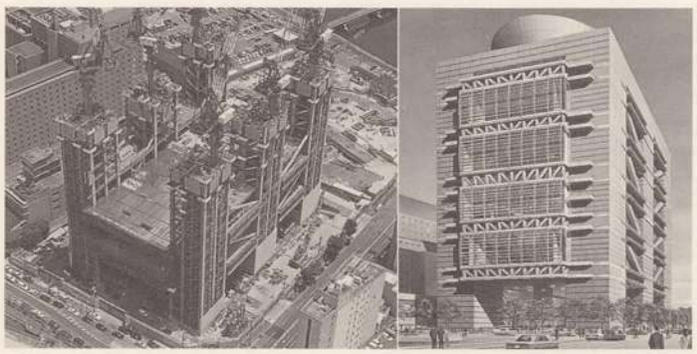
日　時　1999年 1 月19日(火)
　　13:30—16:30
講　師　多気　衷／奈良市・JR奈良駅整備課長
　　宇野　亨／磯崎新アトリエ
　　宮嶋秀則／奈良市民ホールJV副所長
定　員　60人
　　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
　　＊JR「奈良」駅西口前
参加費　会員1,000円、一般2,000円／税込
申　込　1月11日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名:なら100年会館見学会
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月12日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会
　　担当主査：逸崎三郎／大林組



開発整備の遅れたJR奈良駅の西側で再開発事業「シルクロードタウン21」計画が進められている。その中で、国際的な文化交流の拠点として位置づけられているのが、「なら100年会館」であり、国際コンペの当選案である。この建物には、1720人収容の大ホール、448人収容の中ホール等がある。
なら100年会館は、プレキャスト板を240枚組み合わせた巨大な曲面の外壁を持ち、PC板は最大で3m×13m、重さ18tにのぼる。組み立てには、この外壁PC板3500tと中央部の鉄骨160t、屋根1000tの合計4660tを一気に完成形状まで押し上げるパンタドーム構法が採用された。パンタドーム構法は、法政大学の川口衛教授が考案された特許構法で、過去5件の実績がある。97年12月にジャッキアップが行われ、98年10月に竣工した。

●建築概要
所在地　奈良市三条宮前町35-4
発注者　奈良市
設計監理　磯崎新アトリエ
　　川口衛構造設計事務所
　　環境エンジニアリング
施　工　大林組・鴻池組・大日本土木・
　　森本組・浅川組・尾田組・中村建設・
　　木村建設・ホクシンJV
敷地面積　16,061.76㎡
建築面積　6,416.01㎡
延床面積　22,682.26㎡
構造規模　RC・S、B1・5F
工　期　1996年4月～1998年10月
オープン　1999年2月1日（予定）

大阪国際会議場（仮称）建設工事 見学会（再掲）



撮影：1998年5月

大阪が「世界都市」として21世紀に飛躍するために、人・モノ・情報の国際交流を推進する中核施設、学術・文化の相互交流と新たな価値の創造の場、また広く府民にも開かれた交流の場として、高品質かつ開放的な空間を提供することをコンセプトに計画された。設計における特徴としては、逆円錐の形状を持つシンボリックな屋上の特別会議室、スーパーコラムによる天井高15.5mの巨大なピロティ状吹き抜けのグランドゲート、また敷地規模の制約からスーパーフレーム形状を採用し大会議場の無柱大空間や中小会議室群の積層化をはかる等、新しいタイプの国際会議場として、1999年12月の完成を目指し現在工事中である。
見学予定の99年1月にはメガトラス建方リフトアップを終え、随所に先端技術の粋を見ることができる予定です。ぜひこの機会にご見学ください。

●建築概要
所在地　大阪市北区中之島5-3外
発注者　大阪府
設　計　大阪府建築都市部公共建築室
　　黒川・イブスタイン・アラップJV
監　理　大阪府建築都市部公共建築室
　　大阪府建設監理協会
　　黒川紀章建築都市設計事務所
施　工　竹中・大林・フジタ・錢高・松村・
　　シャール・大末・西武・大鉄・今西JV
敷地面積　9,952.81㎡
建築面積　6,756.93㎡
延床面積　67,031.17㎡
構造規模　S・SRC・RC、B3・13F・P2
工　期　1996年11月～1999年12月（予定）

日　時　1999年 1 月29日(金)
　　13:30—16:30
講　師　寺井　進／大阪府建設監理協会
　　技術部主幹
　　鮫島憲治／大阪府建設監理協会
　　技術部主査
　　佐々木仁／オーヴ アラップ
　　アンド パートナーズ
　　ジャパン リミテッド
定　員　30人＊申込多数の場合は抽選
集　合　現地
　　＊JR「新福島」駅より徒歩約10分
　　＊地下鉄「阿波座」駅より徒歩約15分
参加費　会員1,000円、一般2,000円／税込
申　込　1月22日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名:大阪国際会議場見学会
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月25日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会
　　担当主査：松本　剛／大阪府

建築と社会 1 1999
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第80集／通巻922号

CONTENTS

特集● “らしさ”のデザイン

［総論］「らしさ」とは何か●井上章一 — 22
［各論］都市における「らしさ」—都市の景観から—●小浦久子 — 26
建築の実用途と見かけの用途●積田　洋 — 28
もっとあざむき、騙しなさい—インテリアにおける「らしさ」とは—●加藤　力 — 32
建築における「らしさ」の消去—清掃工場におけるデザインの変遷と社会的背景—●大窪健之 — 34
［意外性のデザイン事例］扇町キッズパーク●設計／安井建築設計事務所 — 37
SPRING TECTURE 播磨●設計／遠藤秀平建築研究所 — 38
京阪電車坂本駅●設計／アイ・エフ建築設計研究所 — 39
R.L（エール・エル）●設計／新保哲也アトリエ — 40
［まとめ］「らしさ」のデザイン考●吉村英祐 — 41

特集● 建築を綾どる小粋なモノの仕掛人

［最近の建築作品］熊本産業展示場「グランメッセ熊本」 — 66
春日市奴国の丘歴史資料館 — 68
ネクサス香椎セントラルガーデン・ウエストサイド — 70
タカクラホテル福岡 — 72
ザ・モール春日 — 74
老人保健施設やすらぎ — 76
［本文］風・建築の客・環境デザイン●カロ・レストレポ・エスペランサ — 78
『あってもいいもの』と『なくてもいいもの』との狭間で●江藤元昭一 — 80
建築と街を関係づけるランドスケープデザインのありかたを探る●向山雅之 — 81
新素材・新工法へのチャレンジ●原　信幸 — 82

年頭のことば　1999年を迎えて●市川　宏 — 1
本年の抱負　常設委員会●與謝野久・多井幸男・片倉健雄・山田修・和田克朗 — 2
会告　話題建築を聞く㉘HEP FIVE観覧車のあるビル.＜プロのノウハウ＞シリーズ新刊頒布のお知らせ.なら100年会館見学会.大阪国際会議場（仮称）建設工事見学会 — 3

作品作風　安田女子大学A棟・8号館 — 6
名古屋芸術大学美術学部絵画棟 — 10
関西日仏交流会館 — 12
浅香山病院寮ラ・ビオラ — 14

gallery　引揚記念公園（加藤邦男＋アバックス深田隆俊）●前川治彦 — 16
素材と技術が生み出すデザイン　「あかり」—その将来より—●森田　隆 — 18
建築の眼　柔らかい家●本多友常　古代の息吹●安永三郎
にくてん焼き●森崎輝行　情報ネットワーク時代を生きる（1）Eメール●本間利雄 — 20
工高生デザインコンクール　設計課題：ブックストア — 44
大先輩に聞く　山中　孔●髙田光雄 — 48
W　建築家の本棚（塚口明洋）●辻川ひとみ — 52
法令コーナー　大阪市における総合設計制度の活用事例●加藤照男 — 54
構造の頁　無耐火被覆CFT構造の耐火設計●古平章夫・中島将好 — 56
設備の頁　最近の蛍光ランプの技術動向●伊藤秀徳 — 58
GBRCニュース　平成11年、新しい年を迎えて — 60
基礎講座　消火器の設置●由上雅章 — 61
Book Station　書名紹介8点 — 62
information　1月12～14日、神戸は防災シンポジウム一色に.スペースデザインゼミ「デザインプロデュース」開講.ISO14001構築セミナー開催.病院建築／福祉建築基礎講座.「リビング・ブリッジ／居住橋—ひと住まい、集う都市の橋」巡回展.「ふつうに建築やっています 19人展」.第9回「松井源吾賞」公募.設計コンペ「ゲーテの家」公募.出版紹介・作本博昭著『変わりゆく「大工さん」』.平成10年度「大阪市ハウジングデザイン賞」決まる.第18回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）入賞作品.タキロン国際コンペ入賞者. — 63.84
月間の動き　平成10年10月分 — 83

今年の表紙

新しい年を迎えて、表紙のデザインを一新しました。この“建築と社会”の書体は、昭和26年の本誌表紙をレビューしてデザインしたもの。
当時の本会会長は竹腰健造氏で、戦後復興に向けて日本全体が歩き始める中、「建築と社会」誌も復刊・再生の道を歩み出していました。
今年の表紙は、モノクロームの簡素なデザインに衣替えし、初心に立ち返って、本会のあり方を会員諸兄と熟考する年にしたいとおもいます。

■特集予告

2月号／都市のパブリック（予定）
大阪市都市整備局（予定）
3月号／北信濃—街並み修景と地域文化の再構築

編集委員会（平成10年度）

■副会長　金多　潔　葉袋　公明
■編集理事　荒巻　恭士　井上　豊　小島　雄　佐野　吉彦　竹中　統一　立野　一郎　真塚　達夫　松村　慶三　山田　修　◎與謝野　久
■特集小委員会　○内田　直樹　□計画分科会　★計画系　伊縫　憲幸　梅村　宏尚　※小浦　久子　鈴木　克彦　田中　直人　松川　敏正　横関　真紀　吉村　英祐　★建築計画系　上杉　秀隆　江副　敏史　大村　昌聡　荻窪　伸彦　菅野　忠司　笹村　欽也　佐藤不二男　塚本　史郎　※刃金　国雄　服部　光宏　山本　匡　★インテリア・住宅系　※石川　佳子　加藤　力　角方　利幸　北浦かほる　小梶　古隆　小島　保人　下村　陽子　中村　雅人　中村　孝之　畑　康之　西田　和子　ペリー史子　□構造分科会　大氏　正嗣　岸本　一蔵　岸本　圭暁　楠本　隆　佐治　明志　下野　直人　田中　剛　※田辺　太一　野口　拓也　松村　和夫　吉澤　幹夫　□設備分科会　梶井　宏修　河津　隆之　田ノ畑好幸　西岡　道雄　野口　太郎　堀内　一夫　桝井　貴廣　水谷　昇　村上幸三郎　谷津　和久　※山根　敏和　□施工材料分科会　植田　実　小椎八重猛　太刀川丈爾　※十倉　毅　能美　敏男　野口　幸忠　福井　茂和　□法令分科会　城戸　史郎　椎名　辰之　※炭崎　勉　中　勝生　中岡　光平　浜野　幸雄　■作品作風小委員会　赤木　隆　秋山　克彦　秋山　茂　朝倉　一晃　小笠原絵理　川上比奈子　倉渕奈千子　杉原　繁　寺岡　宏治　中村　文紀　藤城　義丈　△前川　治彦　前田　幸宏　牧野　雅一　増田　敬彦　増田　俊哉　■会員企画小委員会　伊藤　郁郎　池田　聡実　稲木　裕子　大谷由紀子　糟谷　浩史　河崎　敦子　髙岡　伸一　髙田　光雄　髙橋　麗子　△塚口　明洋　辻川ひとみ　土田　伸二　長友理津子　福田　瑞穂　増渕　昌利　山嵜　章子　■広告企画小委員会　岩井　武夫　△小幡　義明　加納伸太郎　勝　一弘　家森　康彰　片山　恒男　渡邊　浩文

◎委員長　○委員長代行
△副委員長　※幹事

印　刷　平成10年12月25日
発　行　平成11年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕



作品風

設計■
大林組本店
大林組広島支店

監理■
大林組広島支店

施工■
大林組広島支店

安田女子大学A棟·8号館

安田学園は、創立80年余、幼稚園から大学院まで、一貫した教育を行っている。安田女子大学は、この中の短大、大学、大学院で構成されている。

キャンパスは、広島市郊外の安東に位置し、新交通システム「アストラムライン」からも遠望できる緑豊かな丘陵地にある。当建築は、敷地内の女子寮跡地に、学園本部の機能統合と新学科設立に伴った複合施設として建設された。

建物構成は、本部棟と新学科棟という２つの機能を、高層棟と低層棟のツインビルで表現し、２棟を透明なアトリウムでつなぐことにより、本部としての象徴性も兼ね備えられるよう意図している。

アプローチは、敷地の高低差を利用して、１階と地下１階に設定している。１階のアプローチは、学生のたまりも兼ねた階段状広場とし、アトリウムと一体となった広がりのある空間を形成している。地下１階は、役員、来賓の車寄せとして利用する事を前提としているため、地下階である事を感じさせない明るさとなるよう配慮している。

アトリウムは、エントランス空間として機能するとともに、段丘状インナーテラスやブリッジ、前面広場との相乗効果で、教職員や学生のインターフェースの場となるよう、また、イベントにも対応できるアクティブな空間となるよう意図されている。

機能面では、特殊金属膜をコーティングした複層ガラスによる日射コントロール、自然通風、及び居住域冷暖房によって、自然力を活かした、快適で経済的な環境づくりを行っている。また、壁面には張弦材の採用、及び屋根上でのフレーム構成により、より透明度の高い空間を実現している。

（岩下博美・山田隆司／大林組本店建築設計部）
（山崎文雄・笹川健二／大林組広島支店建築設計部）

所 在 地 —— 広島市安佐南区安東6丁目840番地外37筆
敷地面積 —— 110,644.57㎡
建築面積 —— 2,866.73㎡
延床面積 —— 14,566.95㎡
構造規模 —— S·SRC、一部RC、S、B1F、11F、P1F
工　　期 —— 1997年５月～1998年８月
最 寄 駅 —— 新交通システム「アストラムライン」安東駅
撮　　影 —— 西日本写房 池上克己



南面全景

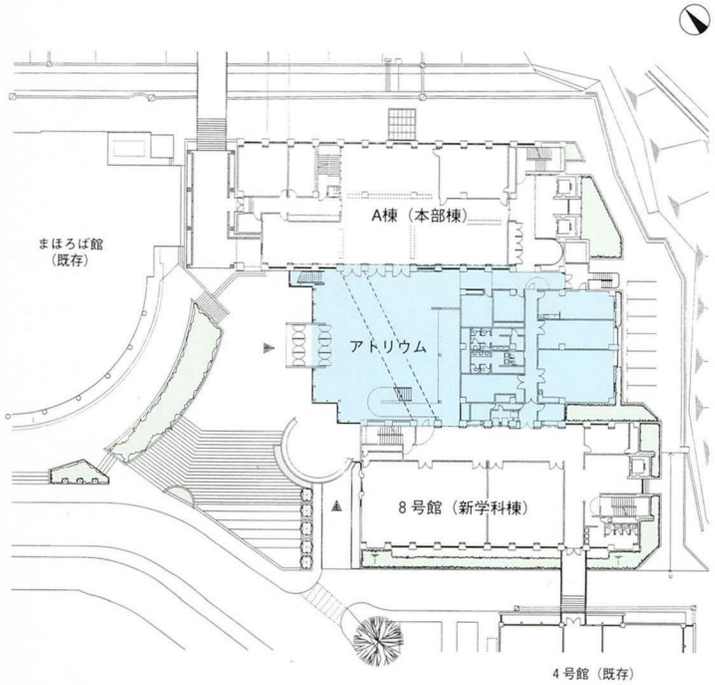


アプローチ遠景

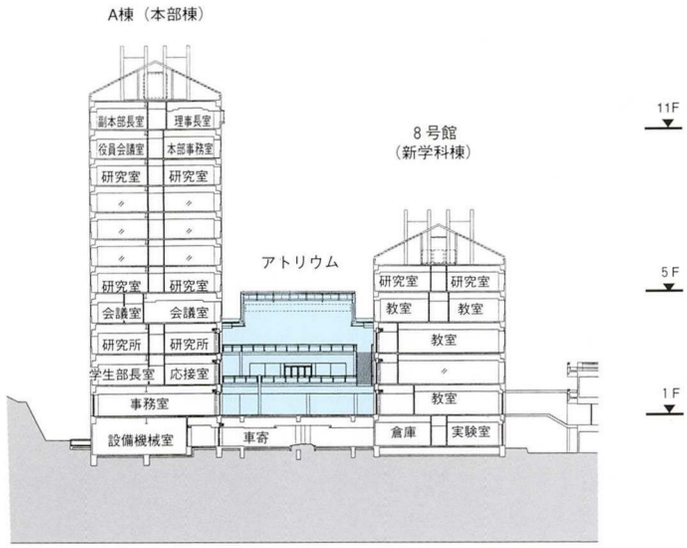
▼メインアプローチ



3階インナーテラスより望む



1階平面図　1：1000

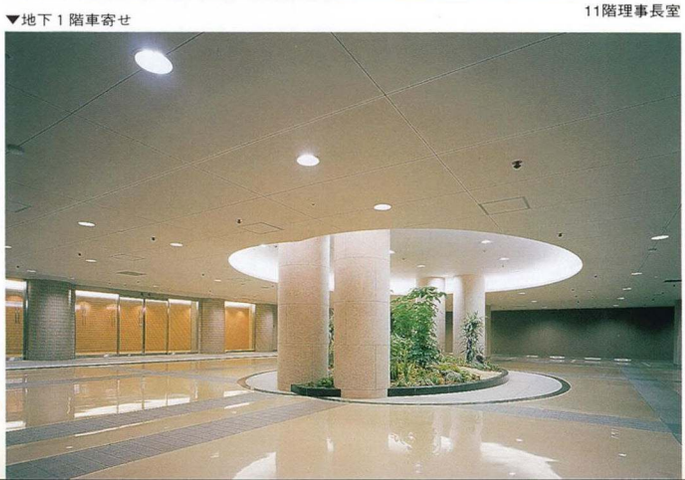


南北断面図　1：1000

アトリウムタ景



11階理事長室



▼地下１階車寄せ

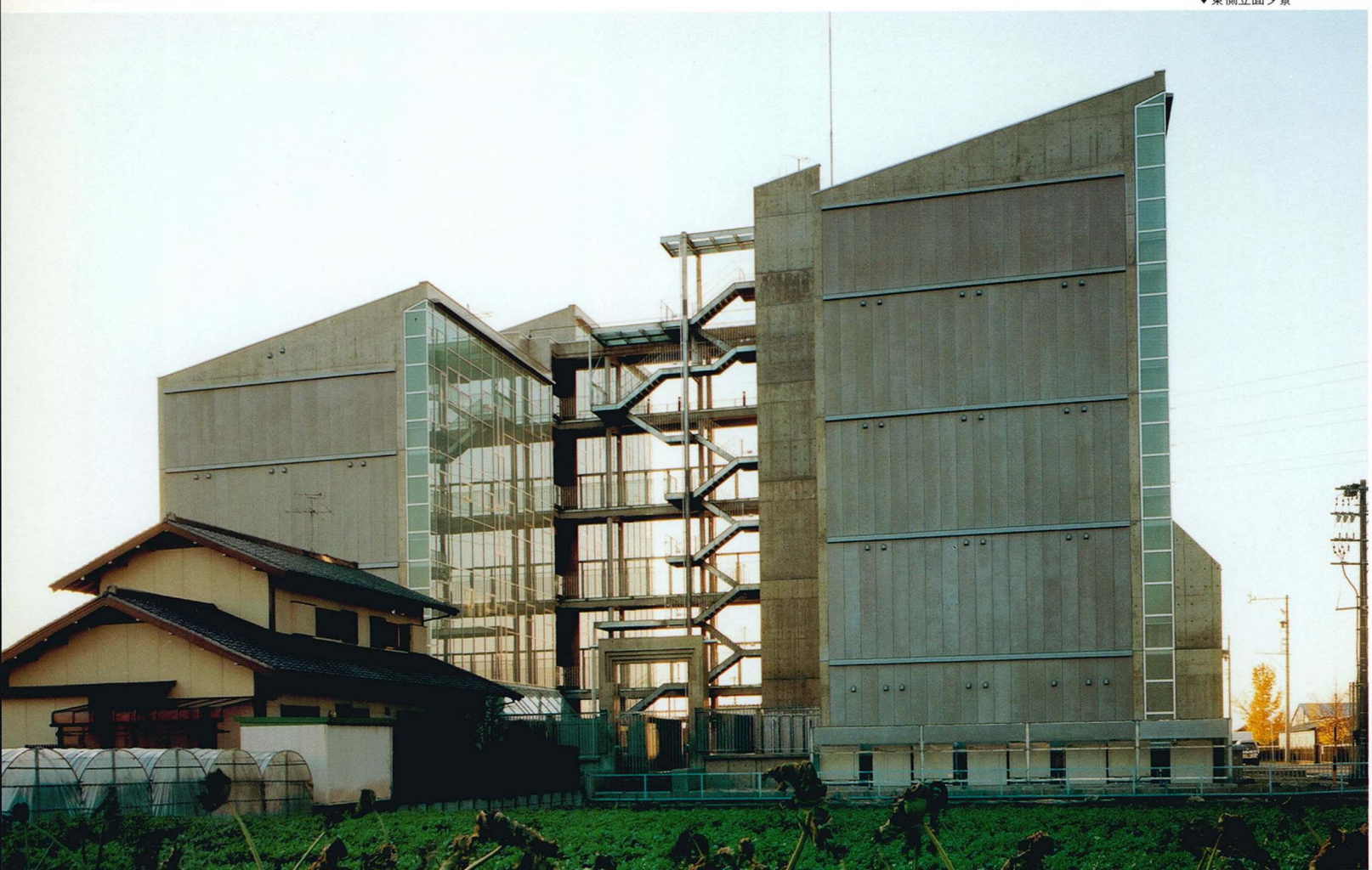
▼東面ディテール





北側全景、キャンパスからのアプローチ

▼東側立面夕景



作品
作風

設計監理■
京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻加藤邦男研究室
十 (財)建築研究協会

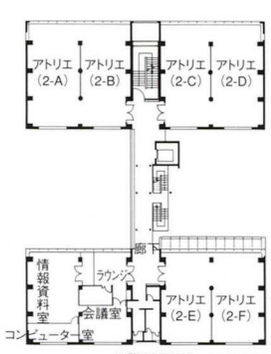
施工■
大成建設

名古屋芸術大学美術学部絵画棟

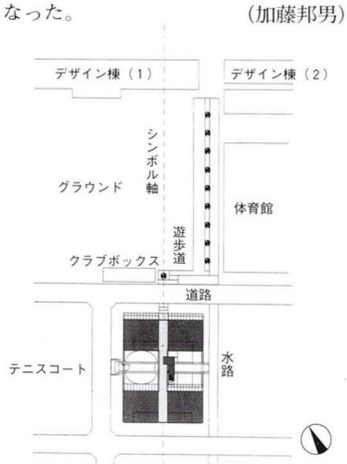
「あたかも　そよ風が　健全な土地から　健康を運んでくるように
…美しい作品に接することによって調和的な人間になる」
（プラトン、『国家』3,401c）

名古屋芸術大学美術学部の改築計画は、芸術の本質をあからさまにし、かつ保持する、探求と学習の場として成立すると考える。そのために、尾張平野の日常的環境を「肥沃なる砂漠」とし、その真ん中に生まれ出る「オアシス」として、個性的な輪郭をもつ中心とならねばならない。そう考えて、いくつかのキャンパス計画案を、平成３年まで長年の間、立案してきた。その後、設計情況が２転３転し、ついに現キャンパスに、南の公共道路を隔てて接する一画地を敷地として絵画棟を設計することに決定したのは、平成８年末であった。しかし設計の基本理念は変わらない。

ここでも敷地を建築的に囲い込み、内部のオープンスペースを庭園化し、地上階を東西南北に開き（将来、キャンパスの他区画との連結を可能にする）、全学共通に使える諸室で構成し、２階以上を、天井高をできうる限り高くした北側採光のアトリエ群として積層し、最上階は片流れ屋根によってさらに北側採光を大きくし、大学院生と教官のアトリエとした。全体構成は南北２棟のアトリエ群を吹き放しブリッジで繋ぎ、上下交通もこの連結部に集約した。それが造形的に重要な性格をこの作品に付与している。北側のキャンパス中心部からこの絵画棟はよく眺望され、キャンパスに新鮮な顔を加え、その将来の成長に向けた播種となった。　（加藤邦男）

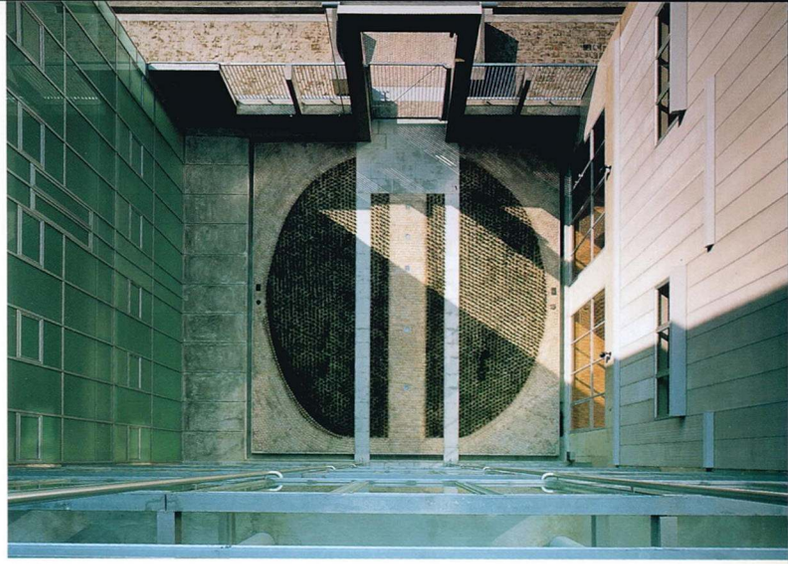


2階平面図　1：2000



配置図　1：3000

所 在 地 ——愛知県西春日井郡西春町大字法成字神子前
敷地面積 ——2,045.00㎡
建築面積 ——　929.03㎡
延床面積 ——4,056.08㎡
構造規模 ——RC（一部、S）、5F（一部、4F）
工　　期 ——1997年１月～1997年12月
最 寄 駅 ——名古屋鉄道犬山線徳重駅
撮　　影 ——つねなりすたじお十春上伊佐夫（センターフォト）


中庭の構成


ギャラリーから中庭を望む

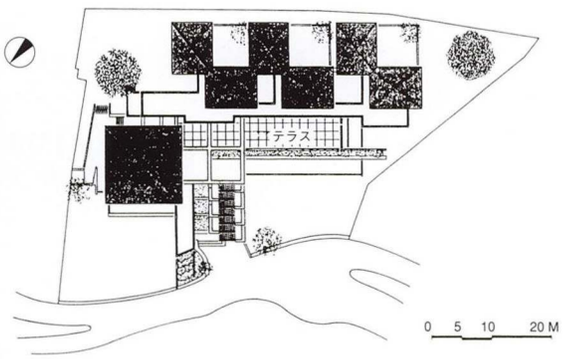

中庭を貫通する東西軸

▼西側門





正面ファサード



配置図

▼西面テラス



作品
作風

設計監理■
京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻加藤邦男研究室
＋(財)建築研究協会

施工■
清水建設

関西日仏交流会館

新しい思索と創造の場所の建立

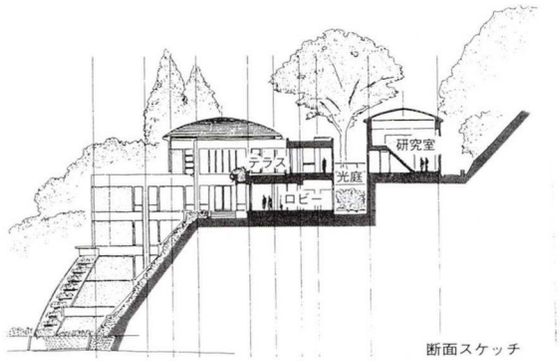
1926年、詩人大使ポール・クローデルの提唱によって、財団法人日仏文化協会が関西に創立され、1927年、この協会によって、関西日仏会館が京都東山の通称九条山に開設された。1936年、これが京都大学隣接地に移り、そこに現在の学館の建物が建設され、日仏交流が推進され、人々に独特の空間経験を与えてきた。その意味でこれは、関西における重要な知的記憶の場所となっている。

新しい会館構想は、創設時代に遡ってこの歴史的経験全体を再生継承すべく目論まれた。具体的には、新しい国際化の状況に対応するため、日本文化に関心を持ってフランス政府が派遣するフランス人学者・芸術家と日本人との交流を促進して、高いレベルでの文化的国際交流の場を開こうとするものである。

フランス的古典精神は、建物の素材を簡素化し、寸法関係を厳密にして秩序を求めつつ、光と陰と調和的構図に盛られる。しかし、屋根や庇、手摺、階段、建具などの建築形態や、マツ、サクラ、モミジ、タケなどの庭園要素は、あくまでも日本的、京都的な意味を担わせ、京都の歴史的風景を建築の知的構成に滲ませた。こうして、擬和風に陥らず、かつまた地域に異質な洋風の強調へと突出せず、日仏両文化の基底にある、人間存在へ向かう理性的精神と繊細な眼差しの精神のいずれをも、一なる建築空間として現成するように導くことに最大限の努力が払われた。

ここに逗留する芸術家、知識人が、ここを訪れる人々と共に、この建築空間が現成する、まさにこのここに、知的創造の場所の開けに立ち会う。ローマにあるフランス政府のヴィラ・メディチの制度の例にならって、この場所はヴィラ九条山の名を冠せて呼ばれることとなった。

(加藤邦男)

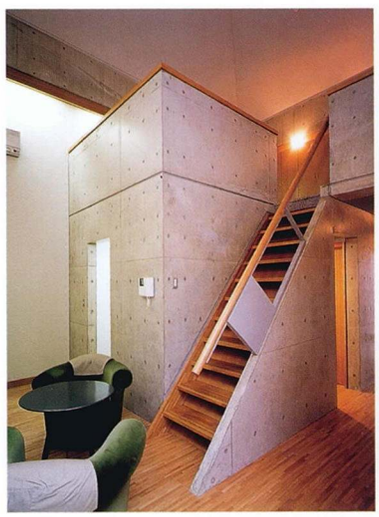


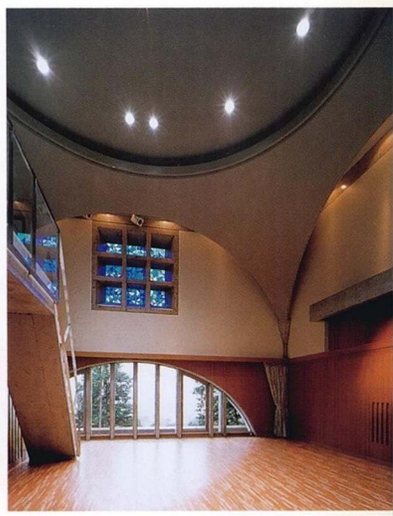
断面スケッチ

所 在 地 ―― 京都市山科区日ノ岡夷谷町
敷地面積 ――2,515.69㎡
建築面積 ―― 736.28㎡
延床面積 ――1,164.27㎡
構造規模 ――RC、3 F、B2F
工　　期 ――1990年 9 月～1992年11月
最 寄 駅 ―― 地下鉄東西線蹴上駅
撮　　影 ――つねなりすたじお＋SS大阪


西面テラスから京都盆地を望む


研究宿泊棟中庭


研究宿泊棟内部


多目的ホール


▼全景

中庭側より見る



エントランス



全景▶

作品
作風

設計監理■
東畑建築事務所

施工■
錢高組

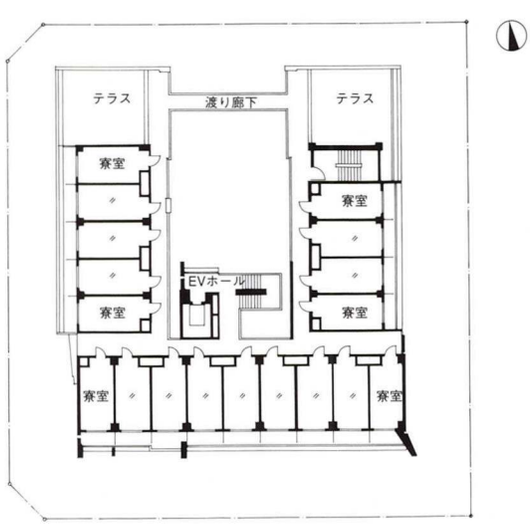
浅香山病院寮ラ・ビオラ

堺市の北部にある浅香山病院の寮である。病院の諸施設は住宅地のなかに数ブロックに分けて建てられており、新しく用意される寮もそれらの一角に建築された。

新しい寮は２階以上に100室の住戸をもち、談話室等の共用部は全て１階に配されている。個々の住戸は有り体のワンルームの形をとっており、寮生はそれぞれが独立した生活を送れるように配慮されている。しかしながら、100名の寮生が「すまう場」としての性格を損なうことのないよう、デザインに際しては共同のすまいとしての「感じ」を織り込むことを尊重して進めた。

建物は北向きにU字型の平面形となっている。その内側にあたる中庭を入居する全ての寮生に共有される「すまいの核」となるよう考えた。その中心となる位置にエレベーターシャフトをたて、その足下にケヤキを植えたステージをおき、そして、屋外廊下を巡らして空間を取り囲んでいる。天気のいい日には部屋の外へでて友達と話ができる。気分のいい日には渡り廊下からエレベーターを待つ友達の顔色が見て取れる、これくらいの「感じ」が建物のそこここに現れていれば「いい感じ」だと思っている。建て替えの前の寮でも恒例のイベントは中庭で催されていたとのことで、新しい中庭でも引き続き寮生の集まりの場、憩いの場となっていただければと願っている。

（松村孝治・宮本雅弘／東畑建築事務所）



４階平面図　１：600

所 在 地 ――大阪府堺市今池町3-3-16
敷地面積 ――1,515㎡
建築面積 ――　669㎡
延床面積 ――2,900㎡
構造規模 ――SRC、8F
工　　期 ――1997年１月～1998年１月
最 寄 駅 ――南海高野線・浅香山駅
撮　　影 ――藤　義則（エスエス大阪）


バルコニー


屋外廊下

▼中庭夜景



gallery

引揚記念公園

設計
加藤邦男
＋京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻加藤研究室＋アバックス深田隆俊



引揚記念館からの主軸と水盤



水盤と石のベンチによる「回想の場所」

計画のテーマは「道」の構成とした。敷地は戦後大陸からの引揚船が入港した桟橋跡を望む丘陵と平坦部からなり、直接の設計対象とした平坦部からは、見え隠れする舞鶴湾の気配が感じられ、海の明るさは大空のそれとまがい、想像力をかき立てる。

西方の海に開ける地平に向かう主軸を基幹の「道」に見立てて、主要構成要素はその軸上に配置した。大地がピラミッド状に盛り上がり四つに引き裂かれた形の「回想の場所」は全体構成の中心をなし、思い出すことと住まうことの感覚を与える。

ピラミッドの中央を貫通して主軸に沿う水盤は、大地からしみ出す水の面に大空を映し込む。西端の「未来への壁」には、タレタ島のクノッソス王宮に見られる建築的装飾「聖牛の角」に由来する形の開口部を設けて、主軸が果てる無限を枠取り、同時に虚の形として知覚される。古代の形が未来に向かう眼差しに意味を与えるのである。

この主軸に関連させて、円形の「集いの場所」、木立が標す「樹陰の場所」、舞鶴湾を望む「休憩の広場」を配置し、そして中央の大広場は、丘陵部と平坦部を南北に繋ぐ横断軸を構成する公園最大の要で、そこでは多目的に自由な仮設の設定が可能である。この軸状体系の展開は、丘陵から眺望される。それは想起の場を開きつつ、景観の象徴的構成として、また舞鶴を象徴する景観として楽しめ、しかも「人性的」風景を実現する。敷地に備わる自然の力が、建築の構成によって露になったからである。

加藤邦男（かとう くにお）

1935	大阪府生まれ
1958	京都大学工学部建築学科卒
1959—64	フランス留学
1964—96	京都大学工学部建築学科助手、講師、助教授、教授
現在	京都大学大学院工学研究科教授（生活空間学専攻） 工学博士（1978）
専門	建築史、建築論、建築設計

撮　影—長谷川誠（若狭プロカラー）
　　十つねなりすたじお
企画編集—前川　治彦（作品作風小委員会）



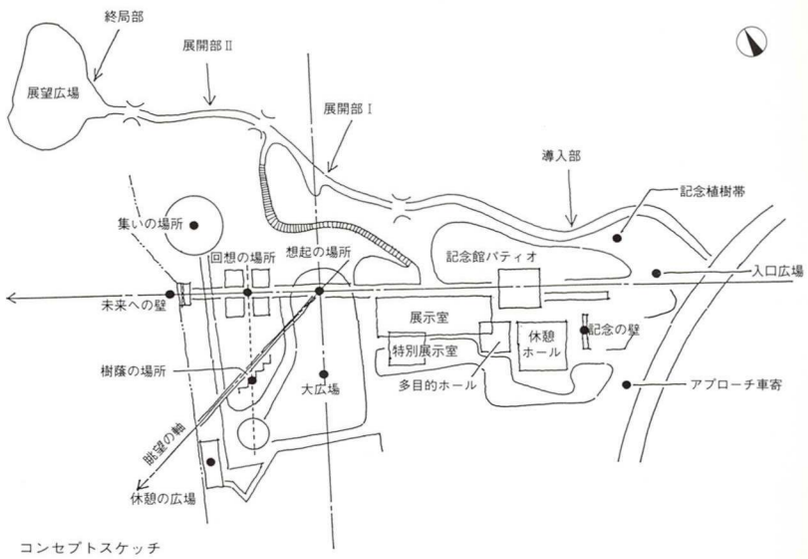
「集いの場所」を出発点とする諸要素の構成



石のベンチ・水盤・モニュメントによる主軸の構成



引揚記念館正面



コンセプトスケッチ

▼舞鶴湾を望む全体構成の風景



素材と技術が生み出すdesign

あかり

その将来より

森田 隆 Morita Takashi 竹中工務店



素材、技術の源流へ re-approach によって、新たなる創造性に向かうことを企画するシリーズ13回は“あかり”について考える。

宇宙の歴史を見ると、始めに光があり、その後気の遠くなる時間が経過して、人類が誕生した。

人類が自然の光や炎を“あかり”として捉えたときから、文明がその進歩をはじめ、以来人類はあかりとともに文化文明を創ってきたと言っても過言ではない。あかりは宗教から技術、芸術にいたる人類の生活すべてに関わったものである。

今回はこの“あかり”をデザインという切り口でその将来を考えてみたい。

（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）

灯 ともしび

“灯”という言葉には、その響きからしてなにか懐かしく、心なごむ感じがある。ほのかに燃えるろうそくの小さな炎は、いつ見ても心が落ち着く美しいものである。その温かみのある、ゆれる灯は限りなく魅力的である。小さなろうそくの灯が、こんなに感動的なのは「燃えている火」だからなのだろうか。

いにしえより、火は人類にとって特別な、時によっては信仰の対象である“神”と等しい存在であった。ここちよく燃える暖炉の火やキャンプファイヤーの大きな火を見たときの感動や興奮は、生き物が持つ火に対する本能をよびさまされるとともに、何万年という長い人類の歴史の中で、火を“あかり”として用いてきた習性がよみがえるからではないだろうか。

灯の魅力は、その勢いが微妙な時間で刻々と変化することである。世界ではじめてエジソンがカーボン電球を発明したのは1879年のことである。以来百年以上にわたりさまざまな照明が開発され使われてきたが、生き物のように変化して、ファジーな光を発することを電気照明から取得することは難しく、改めて自然の造形の絶妙さに驚かされるとともに、我々が何気なく使っている照明の光源について、もう少し吟味する必要があると思う。

陰翳礼讃

“あかり”を考えるとき、それと同じ程度に我々は“闇”について考えなければならないと思う。

日本人は伝統的に、あかりの背景としての闇や、暗さの魅力について敏感であった。谷崎潤一郎はその随筆「陰翳礼讃」の中で、闇や影に美を見出す日本人の特徴について、「暗がりの中に美を求める傾向が、東洋人にのみ強いのは何故であろうか。」と記している。この理由は、東洋と西洋の建築における壁の扱いの違いに起因しているといわれている。

西洋の壁は不動的で堅固な、構造体と一体となった時代が長かったのに対し、日本の壁や間仕切は、襖や障子に代表されるように、可変的、流動的であることを特徴とし、こうした機能を持つものが様々に開発されてきた結果、外から室内に入って来る光は、実にいろいろなトーンを持つことになった。

しかし、現代の建築について見る限り、日本人はその快適性を追求するあまり、壁はますます硬くなり、部屋は均一で明るくなって、もはや以前の暗さの魅力を忘れかけているのに対し、欧米人のほうがむしろ、室内における光と影、あかりと闇の対比を上手に使いこなしているように思われる。





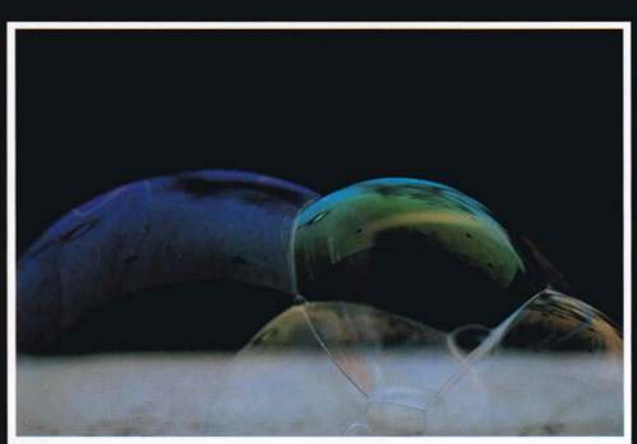


素　材

一口に“あかり”といっても、その光源は太陽に代表される自然光と電球に代表される人工光に大別され、その状態もそれぞれ直接光、間接光、透過光等、様々な種類がある。またこれらの“あかり”は本来、昼夜を通して時々刻々と変化し、決して一様ではなかったはずだが、現代においては、時間と共にゆっくりと推移する光と影を味わう機会が極めて少なくなってきたと感じる。

光の建築家、ル・コルビュジェは石の建築であるル・トロネ修道院を訪れたときの感想を、「光と影こそがこの事実、静寂さ、力強さの建築を明らかに語りかける。そこに、何物も加えられることがない」と記し、その圧倒的な石の迫力と共に、それ以上の光の感動を書き残している。素材は“あかり”の存在により、はじめてその形、色が認識されることは言うまでもなく、“あかり”の種類によって素材感は初めて生きたものとなる。

光々と明るく、快適な室温に保たれた事務室で働くオフィスワーカーにとって、その快適性は我々にその日没を知らせず、時間を忘れさせ、季節を忘れさせ、ものの本質を見失わす以外、何物でもないことに気づくべきである。



1995年１月17日阪神間を襲ったマグニチュード7.2という巨大地震は、未曾有の尊い人命を消失し、それまで人類が築いた文化文明を一瞬のうちに飲みこみ、街から“あかり”を消し、文字どおり暗黒の世界へ一変させた。人々は毎夜この暗やみの中で想像以上の不安と恐怖を感じ、冷たく寒い冬の夜を過ごした。あれから４年、街は震災前の様子を取り戻したようだが、私は震災後何日かして、六甲の山に、そして比較的被害の少なかったビルに“あかり”を灯し、どれだけ多くの人々に希望と勇気を与えたかということを記憶している。“あかり”は人間の感性に深い影響を与え、こころの奥底へ到達し、いままで眠っていた何かを呼び醒ます。

技術革新、大量消費の高度成長期が、20世紀の幕引きとともに終焉をむかえ、これからの社会において、環境問題、エネルギー問題が我々のおもな関心事となりつつある今日、この社会状況の変化を考えると、当然これからの“あかり”のかたちも変わっていくべきであると考えるのは、私だけではないはずである。

20世紀に入り電気照明という技術を発明して以来、我々は年々街を明るくして不夜城と化し、部屋を不必要に隅々まで明るくしてしまった。日暮れになると、スイッチを入れるだけで、昼間と変わらないような明りに満たされた生活の中で、ついつい“あかり”のありがたさということに麻痺してしまった。たしかにそれが快適であったかもしれないが、はたしてその快適性とはいったい何であったのか。

我々はより快適であることを、進歩であると錯覚し、あまりに人類を自然から隔離してしまった。次世代の“あかり”は自然がもっと重要な役割を果たすことになると考えられる。

“あかり”は、本来無限、無量のものではなかったはずである。たとえどんなに技術が進んでも同じであると思う。人間が“あかり”の本質を見失い、その感謝を忘れたとき、我々は“あかり”とかけ離れた世界に住み、無味乾燥の文化とつき合っていく結果になるような気がしてならない。

将来の“あかり”はもう少し時の流れと場所の特性をやさしく表現できるものであって欲しいと願う。



写真提供　田村利夫、荒木義久、松村芳治

柔らかい家

本多　友常

住まいの改善は、増改築とは限らない。

和歌山市の中心部から20分ぐらいのところに、雑賀崎という漁港を中心に発達した集落がある。現在では漁民の数は少なくなっているが、急傾斜地に貼りついた集落の路地には、生活の歴史が堆積した濃密な空間が連なっている。庇は通路の上空や互いの家にかぶさりあい、所によっては隣同士が収納場所を上下で入れ子のように使っていたりするところもある。

子供が結婚すると、親は相当な無理をしてでも、集落内のどこかに家を買ってやろうとする。順番に子供が出て行き、最後に残った子供が親の家を継ぐことになる。制度ではないが結果的に末子相続の様態が生まれている。家庭の事情にもよるが、孫が出来ると親子の家を取り替えて移り住む。あるいは何らかの事情で部屋が空くと、それを有効に使うように生活者のほうから住いのフォーメイションを変化させていく。家を変えずに人が入れ替わるのだ。ここでは一つの家が故郷であるとは限らない。むしろ自分の生まれ育った集落全体が、柔軟な母体としての「ふるさと」を形成している。

都市よりもはるかに緻密な集住のシステムがここには自生している。

和歌山大学教授システム工学部環境システム学科

古代の息吹

安永　三郎

大阪の街に住むようになって１年半が過ぎた。住まいのすぐ近くに四天王寺があり、毎日境内を通って通勤している。この寺は聖徳太子の発願により創建され、建築史では四天王寺式配置で知られている。現在の建物は昭和38年にRC造で再建され、飛鳥様式にのっとって復元されたものである。回廊の一部には当初の排水溝が発掘・保存されているが、創建時より建物配置が全く変わっていない事に驚かされる。

四天王寺の境内は四季折々の行事、祭り、舞楽、毎月21日の「お大師さん」の露天などで賑わう。普段は参拝者の足音しか聞こえない境内も、時として人々のエネルギーで満たされる。そこは信仰の場であり、かつ人々の交流の場でもあった。この寺の建築が災害を乗り越え永く存続するのは、信仰の力も大きいが、人々の生活と密接に結び付いた何かがあって、初めて可能になったのではないかと思う。

古代、難波の地は外に対して開かれた窓であり、そこにそびえる五重塔を中心とする大建築群は、当時の最先端技術を結集したもので、日本の国力を示すシンボルであった。時は移り、現代になってなお命を保っている建築の姿に、改めて感慨を抱いているこの頃である。

近畿郵政局施設部長

にくてん焼

森崎　輝行

下町の食文化は、住と職が密接に絡み合っている。肉天（にくてん）焼はその代表である。この食べ物は、小麦粉を水で練り、その上に牛の肉（スジの時もある）を敷き詰め鉄板で焼き、ソースを塗り込める。

日本の高度成長期（昭和30年前半～）、この食べ物は、下町の庶民の間で広く普及した。ところで、私は、にくてん焼の発祥は神戸ではないかと類推している。明治の頃、神戸港に多くの欧米人が住み着き、色々な食べ物が輸入された。庶民はそれらを見、聞きし、又、影響を少なからず受けた。

牛肉ステーキもその一つであったが、当時、高価な物で庶民には口にすることは殆どなかった。一方、港は、その周辺に様々な仕事場を生んだ。屠殺場もその一つである。そこで、新しい食べ方が考案されるに至った。肉を裁いた後のスジ肉の利用（日本では当時、商品として売れなかった）とアメリカから輸入されていたメリケン粉と合体し、庶民のステーキとして作り出されたのである。丁度、アメリカで、ハンバーグとして作り出された様に。今は【お好み】焼きとして、その食べ物は成熟して物になっている（スジ肉の変わりに色々な好みの食材を入れ、お好みに焼く）にくてん焼は、正に、下町が生んだ食べ物なのである。

森崎建築設計事務所

情報ネットワーク時代を生きる (1) E-メール

本間　利雄

朝、出勤するとまずパソコンのスイッチを入れ、メールをチェックする。一通り目を通して、返事を急ぐものだけとりあえず返事を書いてしまう。スケジュールに関することをとり決めた場合は、忘れないうちにパソコンのスケジュール表に書き込んで、部員全員とスケジュール情報を共有できるようにする。これが私の一日の始まりである。デスクワーク中にも頻繁にメールが届く。仕事に没頭しているときは、「今取り込み中だから、もうちょっと待ってて」という気持ちで、とにかく一段落するまでやってしまう。ところが電話だとこうはいかない。電話に出た途端、思考は中断され、動かしていた手が止まってしまう。まったく急を要さない内容の電話だったりすると、ときに電話が暴力的なものに思えたりするのは私だけではないだろう。電話がオフィスの生産性を逆に低下させていると言われたりするゆえんである。以上は、近年急速に普及し、オフィスの生産性向上に貢献しているといわれる電子メールの話であるが、これ以外にも私の周辺では、ここ１、２年で急速に情報ネットワーク環境が変わりつつあることを実感する。次回以降、私を取り巻く情報ネットワーク環境の変化をご紹介しながら、オフィスワークや建築設計への影響を考えてみたい。

大林組建築設計第２部部長

特集

“らしさ”のデザイン

総論

「らしさ」とは何か　井上　章一

各論

都市における「らしさ」—都市の景観から—　小浦　久子

建築の実用途と見かけの用途　積田　洋

もっとあざむき、騙しなさい

—インテリアにおける「らしさ」とは—　加藤　力

建築における「らしさ」の消去

—清掃工場における建築デザインの変遷と社会的背景—

大窪　健之

意外性のデザイン事例

扇町キッズパーク　設計／安井建築設計事務所

SPRINGTECTURE 播磨　設計／遠藤秀平建築研究所

京阪電車坂本駅　設計／アイ・エフ建築設計研究所

R. L（エール・エル）　設計／新保哲也アトリエ

まとめ

「らしさ」のデザイン考　吉村英祐

合同分科会

「らしさ」とは何か

井上章一
国際日本文化研究センター助教授

建築デザインの「らしさ」

――近年、建築のデザインに一つの新しい傾向が見られるように思います。従来、建築では見ただけで、その用途や機能がわかるようなデザイン、例えば、市役所は市役所らしく、病院は病院らしくすべきとされていましたが、最近では、その逆をめざすような建築、例えば清掃工場やパチンコ店などの商業施設の例などが目立つようになりました。そうした建築のデザインにおける「らしさ」「らしくなさ」を生み出す背景とは何なのか。単にデザイン的なことだけでなく、社会学、文化論、記号論を含めた問題といえます。そこで井上先生に「らしさ」についてお伺いします。ふだん「らしい」という言葉はよく耳にします。例えば音楽を聞いて「アメリカ風」だとか、建築を見て「ギリシャ風」だとか。また最近、男女の区別がわかりにくくなっているのは何故だろうか。どこでそれを判断しているのかといった現象はさまざまありますが、われわれは何をもとに「らしさ」を感じるのでしょうか。

井上　「らしさ」が形成されるのは、一種のステレオタイプが出来るのでしょうか。文化が違えば「らしさ」は通用しないし、時代や地域の違いも大きいですね。建物ならば、いかにも消防署らしいとか、県庁舎らしい、磯崎（新）らしい、安藤（忠雄）らしい、いかにも1980年代らしいとかいろんなフレーズがあるんではないでしょうか。

18世紀風の建築をつくることは、そうしたステレオタイプを意図的に操作させているんではないでしょうか。

――用途からくる「らしさ」は、例えば「ラブホテル」など今、ビジネスホテル風になってきていますね。

井上　住民運動の影響などでそうした傾向が強いですね。霊柩車も住民運動の盛んなところでは住宅地を通れないようになっていますね。あの宮型の霊柩車が頻繁に通行すると土地の値段が下がるのをおそれているせいでしょう。宮型の霊柩車が関東と関西に多いのは、宮型の飾りを製作できる職人の多いところだからです。そうした職人のいない地域には普及しませんでした。大阪、京都、金沢、名古屋、東京などの仏具屋や仏具職人の多いところに広がりました。現在は、量産化された宮型の霊柩車が地方都市に伝播され、各地で使われていますが。

――国際日本文化研究センターの建物は何らしく見えるでしょうか。

井上　新宗教の施設や博物館のように見えると聞きます。内井昭蔵らしく見えるというのは、業界人らしい見方と言えます。

――建築における「らしさ」の話になりましたが、欧米の人に聞くと阪急のグランドドームを見て、どうしてもゴシック建築に見えないといっていますが。

井上　そうしたことでは、アムステルダムの人がハウステンボスを見てどのように思われるのでしょうか。かなり正確なコピーですが、街路に犬のフンが落ちていないなど清潔すぎて、逆にアムステルダムらしくないと思うかもしれません。縄文時代の住居を復元するとき、ほんとうに当時こんなきれいなところに住んでいたかと不思議に思うことがあります。しかし、現代人の見世物にするだけなら、そうしたリアリティは必要ないかもしれません。

都市における「らしさ」

――都市の話が出ましたが、いかにも「大阪らしい」とか「京都らしい」とか、これはどこから来ているのでしょうか。

井上　そとからのエキゾチックな期待が大きいのでしょうが、メディアがとり挙げる大阪らしい風景というとまず道頓堀、とくに戎橋界隈です。御堂筋が紹介されることはあまり無いように思います。道頓堀の食い倒れ人形や動くカニの看板などが外部から見る大阪らしいのでしょうね。いつから他の地方の人が大阪に道頓堀のイメージを期待するようになったのか、なんらかの経緯や歴史があると思います。大阪といえば食い倒れ人形とか、



派手な女性が集中する戎橋界隈

カニの看板、ふぐの大提灯というイメージはそう古くはないし、あの界隈にそうした光景が見られるようになったのは近年ですしね。TVの番組で大阪の派手な女性を紹介するとき、TV局のスタッフはみんな戎橋に行くらしいですよ。たしかに戎橋界隈は、派手な女の人を見るサファリランドにように思えますが、あそこだけが大阪ではないんですよ。よく本を調べに大阪府立図書館にいきますが、中之島周辺では派手な女の人をほとんど見たことがありません。なぜ戎橋が大阪らしいということになったのは研究のテーマになると思いますね。

――京都らしいというのはどうなんでしょうか。

井上　他地域の人が思う京都のイメージというと、芸妓と坊主の姿でしょうね。しかし京都市民は、芸者と坊主だけではありません。他地方の人が京都に期待するのは、お寺と祇園なんです。外国を例にとると、僕らがブラジルについてイメージするのは、サンバとサッカーの国なんですが、実際はそうじゃないんですね。観光土産的なイメージでは、北海道に旅行に行って、集落に熊の木彫りの人形が売ってないと、何故ないの？って思ってしまう。僕はときどき雑誌社のインタビューを受けます。これは東京のメディアに多いのですが、インタビュー後にそのときのテープ起こし原稿を送ってきます。それを見ると僕が、「そんなことおまへん」とか言っているように書いてある。僕らの世代が「おまへん」なんて言い方はしないと思うんですよね。原稿を見るのが一種の方言指導ですよ。最近の関西弁ではそんな文法はおかしいと言うと、雑誌社の方が「おまへん」といったほうが「井上さんらしい」という。そんなこと言ってないのに、どこが井上さんらしいのか、間違いもはなはだしい。(笑い)

社会学からみた「らしさ」

――芦屋雁之助のものまねをやるとき「わてが雁之助だす」というのがポピュラーなんですが、本人にいわせると自分はそんなことは、一回も言ったことがないと話しています。

井上　そうしたイメージを創った本人にもある程度の責任があるんだと思いますが、増幅して創ったステレオタイプがかたまるんだと思います。

――有名人の似顔絵を描いている針すなおさんは、似顔絵のポイントは顔の特徴を誇張させることだと言っています。

井上　誇張させているのは、各地にある京風レストランですね。ウェイトレスに着物を着せ、BGMにお琴の邦楽を流しているのは、ロスアンジェルスの日本料理店のイメージに共通していますね。

――そういえば、ハリウッドの映画に出てくる日本人の名前は圧倒的に「カトー」なんですね。

井上　アメリカで活躍する日本人レスラーの名前にトーゴーがいますね。トーゴーはたぶん日露戦争のときの東郷平八郎からきているんでしょう。

――われわれより少し上の世代では、設計指導で「らしく建築する」ことを教えていました。建築の用途を外観から判断できることは、見知らぬ土地へ行ったとき非常に便利です。しかし、迷惑施設になるといかにも火葬場であるとか、ゴミ処理施設、パチンコ店であるのはまずいわけで、逆に「らしさ」を消そうとしているんですね。槇文彦さんの設計された「風の丘葬祭場」は、まったく火葬場らしくないわけです。デザイン的な遊びが付加して、本来の施設のように見えず、知らない人が前を通りすぎても気づかないと思います。

井上　僕はそれを見ていないので分からないのですが、いかにも本来の用途を感じさせる従来の葬祭場らしいというのは減っているかわりに、いかにも槇文彦らしいとか、磯崎新らしいとかが増えてきているんではないでしょうか。設計者の個性がつよく施設のデザインに出ている傾向が増えてきているように思います。美容整形の医者に聞くと街を歩いていると同業の誰が整形を施したものかわかるらしいですね。

――「らしさ」を消すことは、社会学的にどう解釈すればよいでしょうか。



同じような店構えがならぶ京都の古いまちなみ（祇園）

井上　ヨーロッパの都市を見ていますと市庁舎と博物館の区別がつかない。19世紀の様式建築がずらっとならんでいるだけで、大学の施設がまちに建っていても別に他の建物の変わることなく、まちに溶け込んでいる。ロンドンのチェルシーにある集合住宅はいかにも集合住宅らしいのですが、旧市街に建っている集合住宅は用途が判然としない。証券会社や銀行が日本のまちなみにあるといかにもそうしたイメージになってしまいますが。京都や大阪の古いまちなみを写真で見ると、とくに明治時代以前の商家の店構えはみな同じに思えます。廻船問屋も呉服屋も両替屋も区別がつかない。ヨーロッパと同じで何とか「らしさ」を際立たせていません。違いをやや際立たせているのは、奉行所、代官所、武家屋敷などだけですね。武家屋敷などは門構えなどで格式を示すところがあったせいか、やや変わっていたと思います。そうしたところから「らしさ」を示す必要があるのは、権力の象徴であったと思います。普通の商家で「らしさ」を表すのは、看板くらいだったでしょうね。例えば算盤を売っている店は軒先に算盤をつったり、看板でそれとわかるようにしているだけです。建築そのもので「らしさ」があったのは、前述の権力を象徴するものと、遊廓や芝居小屋など自己顕示の必要性があったものだけに限られていたようです。ところが近年になり、そうした自己顕示的な要素が一般の施設に入り出し、さまざまなものが自己顕示しだすと、かえってノイズがかたまりになって、一つ一つの顕示は弱まります。機能主義からみると、いかにも県庁舎らしい、博物館らしい形がベターだと思うのですが、これくらい顕示が世の中に浸透すると、それくらいの顕示性では目立たなくなってきたんですね。そうしたことでエスカレートしていったとき、県庁舎らしい、博物館らしいを顕示しても、もう成り立たなくなったのでしょうね。そのとき顕示方法が変わってきたのではないでしょうか。県庁舎らしさ、博物館らしさとかはなくなってきつつあるかもしれませんが、高松伸らしさとか、建築家らしさは逆に出てきているのではないでしょうか。

男女の「らしさ」の境界

男女のそれぞれの「らしさ」の境界が見えなくなってきているといわれますね。

井上　明治初期までの浴場や宿場などの施設では、男女混浴です。風呂を男女別にしたのは、近現代的な現象だと思います。ひなびた温泉ではいまだに男女混浴が残っています。現在、トイレも男女が別れていますが、昔のトイレでは小便だと壁に向かって男性が発射し、女性は壁に後ろ向きになって出していました。建築文化が男のいる場所、女のいる場所を明らかに分けはじめるのは、むしろ新しい現象だと思います。もしかすると文明論的に男女の区別が少なくなってきているから施設で分けて、一定量の調和を保っているかもしれない。僕がまだ幼い頃、女の人が田んぼの畦道で立ち小便しているのをよく見かけましたが、今の女性は立ち小便なんかできないですよね。おしっこの仕方が女らしくなっていると思います。男らしさ、女らしさはなくなっている部分が多くなってきているし、むしろ逆に増幅されている部分もあります。どの部分がなくなってきて、どの部分が増幅されているのかを観察することが、風俗史研究の勘どころではないでしょうか。

男女の区別が無くなってきた例に、若い人の男性用化粧品の売れ行きが伸びていることを挙げられますが、実は女性が化粧するのも大正時代頃からだと思います。江戸時代の女の人で化粧をしている人は、武家の奥方や御殿づとめの女の人、芸者やお妾さん、大きな商家などブルジョアクラスの奥さんや令嬢などを除いて、一般の女の人は、祭りや嫁入りのときなどのほかは化粧しなかったと思います。髪型や着ている着物などはもちろん男女の区別はありました。士農工商の区別がなくなったとき、多くの人々はそれまでの階級制度の頂点に立っていた武士の真似を指向した。女の人は働かずに専業主婦となったのは、それまでの武家の奥方の生活に憧れていたし、



トイレと錯覚するビルの廊下の開口部

男は妻を飾りものにしていた武家階級の力に憧れていたのではないでしょうか。結局、そうしたころから武家風の風俗が広がったのではないでしょうか。社会的にアッパークラスである武士に憧れるのは、そんなに不自然なことではないでしょう。

現在、専業主婦が武家の奥方風だとは思わないでしょう。国民的にすべての人が武士階級のスタイルになったのですから、皆が侍になれば侍の定義自体が雲散霧消しますから、侍らしさの記憶はなくなったのでしょう。

「らしさ」は時代性に収束する

――「らしさ」は置かれているシチュエーションでも変わってくると思います。スーパーの缶詰コーナーで、缶のラベルに魚の絵があれば魚肉、牛ならば牛肉なのですが、ラベルに犬や猫の絵があれば犬や猫の肉でなく、それはドッグフードやキャトフードなんですね。

井上　そういえば、ヨーロッパに行ったとき、奇異に思ったのは日本製の缶詰のラベルに芸者の絵が描かれていたことです。ラベルに魚の絵が描かれているのが魚肉ならば、芸者の絵ならば芸者の肉の缶詰じゃないかと思うと恐ろしい話だと。(笑い)

国が変わると小物の用途が変わるケースでは、欧米の家庭に行くと、とっくりが花瓶になっているのが多いのと、着物の帯がタピストリーになっているのを見ました。考えてみれば、文化圏が変わるとらしさも崩壊する。中世のヨーロッパのお城が日本に来るとラブホテルになり、アメリカに行くとディズニーランドになります。大阪のあるパチンコ屋のチェーン店では自由の女神像を看板代わりに建てています。知り合いのアメリカ人を誘って見に行くと、彼は大変感動していました。日本は自由の女神をまちなかに建てている凄い国だと。(笑い)

一方、ニューヨークで「ヨコズナ」というリングネームの日本人プロレスラーがいるんですが、これが悪役専門で、ニューヨーク在住の日本人から日本の国技の相撲のイメージを損なうとクレームが出ています。

――空間における「らしさ」もありますね。ビルの廊下に開口部があると、実はその奥は管理事務所であったり、倉庫であったりするんですが、外来者はトイレだと思ってしまうというところがあります。

井上　日常生活の積み重ねの中で、自分なりのステレオタイプが出来るんでしょうね。このシチュエーションならば、トイレがあると思うんでしょうね。「らしさ」は建築史の研究をして、いろんな施設を見ていると思うのですが、結局時代らしさが残ることが多いですね。かえる股と柱の比例から、これは天平時代のものだとか、中世のものだとか、その建築に大工が思い切り自分の個性を表現しても、時代が変わると何々時代らしさということで残ってしまう。近年でいえば、1960年代、1970年代それぞれに建った建築作品に携わった建築家が自分の個性を精一杯あらわしていても、後世では十把一からげにそれぞれ60年代らしい、70年代らしいと評価されてしまうのではないでしょうか。現代のように建築や建築家が個性を出そうとしているときでさえも結局そうなってしまうのですから、最後に残る「らしさ」はそうした時代性に収束してしまう。それと地域性、例えば中国らしさとか、日本らしさとかが残ります。らしさを消そうとしようが、出そうとしようが、設計者の意図を超えて鳥瞰的にみれば、その人が属している何らかの「らしさ」が残るんではないでしょうか。(談)

(聞き手・吉村英祐／編集委員)

都市における「らしさ」——都市の景観から——

小浦久子
大阪大学大学院工学研究科助教授

イメージとしての都市

食料生産が拡大し、余剰食糧の生産と蓄積が可能となったことにより、専門化した職人人口を支えていくことができるようになったこと、水運の発達により広域的交易と交流が活発化し、集住地の自立（統治）と競合が始まるところに、都市が成立したといわれる。都市は、交易とその時代の社会システムを基盤に、人工的に構成された集住空間である。周辺の農耕地や自然地から自立し、そのかたちが見えていた。例えばシェナ（写真1）のように、広場と教会と市庁舎を中心にもち、市壁に囲まれた都市国家を起源にもつイタリアの都市の多くでは、今も都市のかたちが見える。

日本の都市はどうであろうか。明治以降の近代化と市街化の拡大は、1970年代の高度成長期に、歴史的都心周辺の村と農地の市街化を進め、混住社会という言葉が生まれた。そして、都心から広がる市街地が区切りなくどこまでも続く風景を生みだした。都市はいったいどこなのか。都心の高いビルから眺めてみると、どこまでも建物に埋めつくされた市街地が広がっている（写真2）。

都市は名前を持っている。かたちが見えるときは、都市の名前は、場所の名前でもあった。シェナといえば、それがどこなのか、人々に共有化されている。ところが、大阪や神戸といったときはどうであろうか。このような名前は行政区域につけられている。行政区域は地域の広がりを示すが、その地域的広がりは、名前のもつイメージと一致する場所とは限らない。芦屋は高級住宅地、神戸はハイカラな港町、京都は古い歴史都市、大阪は…といったところで、それはどこのことなのか。都市はイメージでしかない。

見えない都市を、私たちはどのように認識しているのだろうか。1つには、その都市固有の風土や歴史が象徴的に示されている町並みや都市活動の中に見ている外向けのアイデンティティがある。イメージとしての都市である。もう1つは、内からの認識である。都市のなかには、様々な生活があり、それぞれの生活の場所の景観がある。ごちゃごちゃした下町の景観は、美観という意味においては美しくないかもしれないけれど、場所の名前が実態をもった生活環境である。安心できるなじみの生活の場所と記憶をもった多くの「まち」が、都市を構成している。

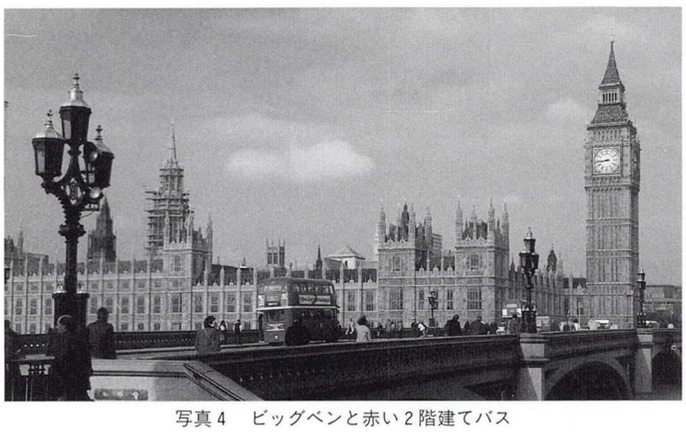
記号性と風土性

自由の女神とマンハッタンの高層ビル群(写真3)。誰もがニューヨークとわかるシーンである。ビッグベンと赤い二階建てバス（写真4）はロンドン、エッフェル塔やシャンゼリゼ通りを見ればパリとわかる。外向けのアイデンティティには、ランドマーク的な建物


写真1　シェナの都心。かつての市壁の向こうに緑が見える


写真2　どこまでも続く市街地


写真3　自由の女神とマンハッタンのビル群


写真4　ビッグベンと赤い2階建てバス

や構造物が構成する都市を代表する景観がある。

これらは、観光客が期待する風景である。京都でいえば、祇園や先斗町、寺社巡りである。町家が並ぶ京都らしいといわれる町並みは、既に崩れ始めている。歴史的都市にペンシルビルやマンションが混在する。観光客は目に映っていても、誰もその風景を意識しない。観光客が期待する風景は、必ずしも都市の実態をあらわしているのではないかもしれないが、それは、都市全体を象徴する力をもち、説明しなくてもどこであるかが、誰にでもわかるものである。

運河に沿って間口の狭い建物が並ぶ風景（写真5）は、アムステルダムを代表する町並みであるが、エッフェル塔や自由の女神とは少し違う。無名ではあるが、場所のイメージ力は大きい。オランダは、海を仕切り、干拓し、土地をつくり、国土を築いてきた。水路は、水を流し、水を調整する装置であり、土地が土地であるための必然である。オランダの水路は、人工的ではあるが、石と樹林と土による多自然工法といってもいい方法で造られており、風土そのものである。水と一体となった町並みは、風土がつくるランドスケープなのである。

風土というと、自然地形や地域の気候・生態などの自然条件を考えがちだが、都市の風土の多くは、人が手をかけてつくってきたものである。エーゲ海沿岸の斜面地に広がる乾燥した真っ白な都市は、風土になじんだ姿ではあるが、かつて古代ギリシャ都市国家が、山の樹林を使い尽くしたことにより生まれた風土へのなじみである。また緑豊かな六甲山を背景にした阪神間の都市景観（写真6）も、山への植林の結果である。明治期の六甲山は完全な禿げ山だった。

オランダの水辺の町並みも阪神間の緑豊かな住宅地も、今、人の目にうつる都市の風土は、人が自然や地形に手をかけ続けた歴史の積み重ねが育んできたものである。

都市の名前が想起させる外向きのアイデンティティを示す場所や風土に出会うとき、少なくともイメージとしての都市が認識される。



写真5　アムステルダム・運河沿いの町並み



写真6　六甲山を背景にした緑豊かな芦屋の住宅地



写真7　住み手が置いている緑が豊かな路地空間

「まち」の場所性

市街地が無秩序に連坦してしまった日本の都市圏では、都市のかたちは見えない。しかし歩いてみると、様々な場所に出会う。それらは、それぞれの市街化歴、土地利用、生活文化をもった都市の中の「まち」である。今年、兵庫県は、被災地の10市10町を対象に「伝えたいふるさとの景観」を募集した。1400景ちかい応募があった。そこに写し出されている景観には、身近な生活環境が多い。「まち」の景観である。生け垣や庭の樹林が町並みをつくる住宅地の坂道、宅地や農地をつくるときにでてきた石を積み上げた石垣、路地やお地蔵さん、近所の古くからあるお店や商店街、田んぼの中の1本の大木、生活の中の川と山、鎮守の森など。それらは、その場所での生活の時間や場所の使い方が反映されてきた環境のあり方を切り取っている。場所の記憶に結びついた身近な環境を大事にしようという気持ちが読み取れる。このような生活の場所の景観は、美的であることを目的につくられたものばかりではない。家々の間を流れる水路は、かつての農地の灌漑用水が残ったものかもしれない。長屋の路地は、防災面での安全性や住宅の老朽化などの問題を抱えつつも、住み手が毎日世話をしている鉢植えの緑が親しみのある豊かな生活空間をつくっている（写真7）。空間のデザインだけでなく、その場所に蓄積された時間や風土、生活の作法や歴史が映しだされた環境として評価される場所の固有性がある。

日本の市街地更新は、場所のらしさの持続というより、らしさの変更を繰り返してきた。「ベンツはモデルチェンジをしてもベンツだが、日本車はモデルチェンジをすると別の車になる。ファッションを追って、どの会社も同じようになってしまう」という話を聞いた。日本の都市も今、みんな同じように見える。その中で、住民主体のまちづくりやNPOの活動において、ようやく生活環境の固有性が意識されるようになってきた。それは、様々な「まち」がつくるコラージュシティのような市街地のなかに、「まち」を発見していく眼差しもつことから見えてくる「まち」の場所性[1]の認識である。そこに「まち」のらしさがみえてくる。

1）エドワード・レルフ著、高野岳彦他訳「場所の現象学」筑摩書房、1991。

（こうら　ひさこ）

建築の実用途と見かけの用途

積田 洋

東京電機大学建築学科講師・工学博士

はじめに

知らない町を訪れて、地図を片手に目的地を探すとき、その街の中を歩きながら、「あれは小学校だな。」「これは病院に違いない。」などと建築の外観からそれとなくその建築の用途を認識しながら、これを目印として、目的地に向かうといった経験は誰しもが体験しているであろう。

こんなとき我々は、建築のファサードにその建築の用途が表出していることを感じる。特に長い間、4間5間の教室の間取りと長い廊下の平面計画によって全国に建てられた学校建築では、その用途が建築のエレベーションに表れ、どの町にいてもすぐに学校だなと認識できる学校建築の「らしさ」をもっている。用途が建築の外観に表れている典型的な例である。同じように戸建て住宅や別荘建築もまたそれぞれの建築の「らしさ」が醸し出されている。

しかし一方で、建築のファサードも機能主義のモダニズム建築からポストモダニズム建築へ、時代と共に多様なファサードをもつ建築が多数建てられるようになってきている。建築の外観からは想像もつかない用途であるなど、「らしさ」を喪失した建築も増えてきている。

建築の「らしさ」の研究

さて建築の外観・ファサードは、さまざまな建築家の手法によってデザインされ、建築の機能的な用途と社会をつなぐインターフェースとして、また建築群が構成する都市の景観形成にとっても重要な意味をもっている。

既に筆者らは、この豊かなメッセージの媒体であるファサードについて、どのようにファサードが識別されて行くのか、ファサードの輪郭からディテールに至る形状を段階的に示すことにより、ファサードの認識のプロセスからそれぞれのファサードのもつ特徴を分析している。この研究からファサードがおおむね〈輪郭型〉〈エレメント型〉〈面構成型〉〈箱型〉の4つのタイプに分類され、それぞれのタイプが建築のデザインの時代区分と対応していることを示した[*1]。

また、ファサードが人々に与える心理的な評価の構造を明らかにし、ファサードの心理的評価軸として、ファサードの複雑性を表す〈多様性因子〉、ファサードの形態や構造がもつ迫力や堂々さを表す〈重厚性因子〉、テクスチャーやデザインが生むファサードの明るさ感を表す〈明るさ因子〉など11の心理因子軸を抽出した。さらにファサードを構成しているさまざまなエレメント、例えばファサードの輪郭、開口の大きさ、壁面の凹凸、印象に残るエレメントや部分といったものなど物理量と心理量との対応関係を数量的に捉える研究を行っている[*2]。

ここで紹介する“建築の「らしさ」の研究”は、これら一連の建築のファサードの研究を展開したものである[*3]。

ファサードは、個々の建築家が概念的に意図的に操作してデザインされたものであり、その建築の用途がそのままファサードに表出するとは限らない。しかし、我々は多くの建築を知り観ることによって、その建築が例えば学校であるとか、住宅であるとか、病院らしいなど、用途の種類と建築の構成のされ方によって、その建築「らしさ」を識別することがある。一方で、直ちにその建築が何の用途であるか全く分からないものもある。

建築の「実用途」と「見かけの用途」

建築の多種多様な要因によって生まれる要素（エレメント）によって構成される多義的なファサードがある「らしさ」を表出しているとすれば、この「らしさ」という特性がどのようなものであるのかを体系的に明かにしようとするのがこの研究のねらいである。

研究で対象とした建築は、(表)に示すように建築家の作品性が強く表れているものやそうでないものを織り混ぜ、さまざまな用途の建築が含まれるように分類・整理した結果、選ばれた100の建築を対象としている。

これら建築のファサードのカラー写真を用いて、多様の被験者(建築学科学生）に示し、その建築のもつ「らしさ」をあらかじめ用意した11の用途の中からどの用途らしいかを選んでもらう実験を行った。なお、実験に際しその建築の用途を知っている被験者の回答は省いて集計している。各建築毎に用途を正しく回答した率〈正答率〉と正答を含み用途毎に集計した率〈回答率〉、さらにその建築について“ある用途らしい”として最も多く回答した用途の率を〈最大回答率〉として算出し、これを分析したものである。

この実験で得られた建築の正しい用途を〈実用途〉、最大回答率を得た用途を〈見かけの用途〉と呼ぶことにした。

（図1）は、建築毎に〈正答率〉と〈最大回答率〉を正答率の低減に重ねて布置したものである。正答率が100%に近い〈実用途〉が直感できる外観をもつ建築としては、宮脇檀設計の戸建て住宅：Choi Box（写真①）や積水ハウスのCENTRAGE LR-II（写真②）、駅舎の浜寺公園駅（写真③）さらに吉村順三設計の軽井沢の山荘（写真④）やNTT幕張ビル（写真⑤）などがある。これらの建築は、我々が経験上その建築の用途を伴って蓄積してきた外観のイメージが端的に表出されている、最も「らしさ」をもつ建築として

表　研究対象建築リスト（実用途と見かけの用途の回答率／「らしさ」の認識タイプ）

NO	建築名	用途名（実用途）	最大解答用途（見かけの用途）	正答率	見かけの用途率 最大回答率	9タイプ分類 軸	4タイプ分類 認識タイプ
66	Choi Box	A1（戸建て住宅）	1. 戸建て住宅	100.00	100.00	C1	明快型
90	積水ハウス　CENTRAGE LR-II	A1（戸建て住宅）	1. 戸建て住宅	100.00	100.00	C1	明快型
52	浜寺公園駅	K36（駅）	36. 駅	100.00	100.00	C4	一山型
56	軽井沢の山荘	A4（別荘）	4. 別荘	95.65	95.65	C7	明快型
77	NTT幕張ビル	C13（本社ビル）	13. 本社ビル	95.45	95.45	C9	一山型
94	那須の別荘	A4（別荘）	4. 別荘	91.30	91.30	C7	明快型
59	祖師ヶ谷大蔵の小さい家	A1（戸建て住宅）	1. 戸建て住宅	90.91	90.91	C1	明快型
25	ぼんち神戸工場	K35（工場）	35.工場	90.91	90.91	C2	一山型
74	千駄ヶ谷インテス	C13（本社ビル）	13. 本社ビル	90.48	90.48	C9	一山型
82	タカシマヤ　タイムズスクエア	J31（デパート）	31. デパート	81.82	81.82	C8	明快型
49	ams西武	J31（デパート）	31. デパート	81.82	81.82	C8	明快型
97	ホテル安比グランド	I26（リゾートホテル）	26. リゾートホテル	80.95	80.95	C6	一山型
86	ロッジかのえ	I28（ペンション）	28. ペンション	77.27	77.27	C1	明快型
37	三郷高校	B8（高校）	8. 高校	73.91	73.91	C2	二山型
81	新潟埠頭3号上屋	K38（倉庫）	38. 倉庫	73.91	73.91	C2	一山型
14	中之口村立中之口西小学校	B10（小学校）	10. 小学校	72.73	72.73	C2	一山型
27	龍神村民体育館	F19（体育館）	19. 体育館	72.73	72.73	C4	一山型
63	軽井荘三番亭	I27（旅館）	27. 旅館	69.57	69.57	C2	一山型
92	ペンションウッドペッカー	I28（ペンション）	28. ペンション	69.57	69.57	C1	明快型
55	海の博物館	D16（博物館・記念館）	16. 博物館・記念館	65.00	65.00	C3	二山型
64	NTT本社ビル	C13（本社ビル）	13. 本社ビル	63.64	63.64	C9	一山型
13	東京ベイホテル東急	I26（リゾートホテル）	26. リゾートホテル	57.14	57.14	C6	一山型
72	ヒューマックスパビリオン渋谷	J29（雑居ビル）	29. 雑居ビル	57.14	57.14	C9	多様型
87	出雲空港ターミナルビル	K37（空港）	37. 空港	57.14	57.14	C4	一山型
71	ハウスインヨコハマ	A1（戸建て住宅）	1. 戸建て住宅	56.52	56.52	C1	明快型
98	狭山台北小学校	B10（小学校）	10. 小学校	56.52	56.52	C2	一山型
7	YKKR&Dセンター	C13（本社ビル）	13. 本社ビル	56.52	56.52	C9	一山型
5	桐生厚生総合病院	G21（総合病院）	21. 総合病院	52.38	52.38	C2	多様型
35	幕張ベイタウンパティオス4番街	A3（団地）	3. 団地	52.17	52.17	C5	二山型
75	石神井公園の集合住宅	A2（マンション）	2. マンション	50.00	50.00	C2	多様型
100	下妻ショッピングセンター	J32（スーパーマーケット）	32. スーパーマーケット	47.83	47.83	C8	二山型
29	千歳空港旅客ターミナルビル	K37（空港）	37. 空港	47.83	47.83	C4	一山型
9	角館町立西長野小学校	B10（小学校）	10. 小学校	47.62	47.62	C2	一山型
46	国立劇場	E17（劇場）	17. 劇場	47.37	47.37	C2	一山型
23	グリーンドーム前橋	F20（競技場）	19体育館　20. 競技場	43.48	43.48	C4	二山型
8	信州高遠美術館	D15（美術館）	15. 美術館	42.11	42.11	C3	多様型
53	ヤマトインターナショナル	C13（本社ビル）	13. 本社ビル	41.18	41.18	C9	一山型
2	三郷市立彩郷中学校	B9（中学校）	9. 中学校	40.91	40.91	C2	多様型
12	富山県立山博物館展示館	D16（博物館・記念館）	16. 博物館・記念館	40.00	40.00	C3	二山型
84	スパイラル	J29（雑居ビル）	29. 雑居ビル	40.00	40.00	C9	多様型
76	基督兄弟団西宮教会	K34（宗教施設）	34. 宗教施設	39.13	39.13	C2	多様型
● 54	代々木競技場	F20（競技場）	19. 体育館	31.82	59.09	C4	二山型
1	モノル	A2（マンション）	2. マンション	30.43	30.43	C2	多様型
● 3	山形県庁舎	C12（役所）	13. 本社ビル	30.43	52.17	C9	一山型
31	明石市立病院	G21（総合病院）	21. 総合病院	30.43	30.43	C2	多様型
89	メモリアルトネ（広域利根斎場）	K39（葬祭施設）	39. 葬祭施設	30.43	30.43	C3	一山型
57	幻庵	A1（戸建て住宅）	1. 戸建て住宅	27.27	27.27	C1	明快型
18	阿之門保育園・ナルド夜間保育館	B11（幼稚園）	11. 幼稚園	27.27	27.27	C2	多様型
● 58	多摩ニュータウン南大沢団地	A3（団地）	2. マンション	26.09	73.91	C5	二山型
10	石打ダム資料館	D16（博物館・記念館）	15.美術館16. 博物館・記念館	26.09	26.09	C3	二山型
17	小国町民体育館	F19（体育館）	19. 体育館	26.09	26.09	C4	一山型
47	チームディズニービルディング	C13（本社ビル）	13. 本社ビル27リゾートホテル	22.73	22.73	C9	一山型
● 67	高島平の集合住宅	A5（寮）	2. マンション	21.74	39.13	C5	多様型
● 6	那須野ヶ原ハーモニーホール	E18（コンサートホール）	16. 博物館・記念館	21.74	39.13	C3	多様型
● 73	JR赤湯駅	K36（駅）	19. 体育館	19.05	38.10	C4	一山型
19	横浜市立大学医学部附属病院	G21（総合病院）	21. 総合病院	18.18	18.18	C2	多様型
● 48	伊豆の長八美術館	D15（美術館）	16. 博物館・記念館	17.65	35.29	C3	多様型
● 95	東京電機大学高校	B8（高校）	21. 総合病院	17.39	56.52	C2	二山型
99	宝塚大劇場	E17（劇場）	17. 劇場　26. リゾートホテル	17.39	17.39	C2	一山型
● 83	キリンプラザ大阪	J29（雑居ビル）	13. 本社ビル	17.39	65.22	C9	多様型
● 33	京都子供総合月刊誌工場	K35（工場）	17. 劇場	17.39	21.74	C2	一山型
● 96	アベ大黒埠頭物流センター	K38（倉庫）	17. 劇場　31. デパート	17.39	26.09	C2	一山型
● 61	久留米市庁舎	C12（役所）	13. 本社ビル	15.00	40.00	C9	一山型
● 65	墨田区庁舎	C12（役所）	13. 本社ビル	13.64	73.91	C9	一山型
● 24	八戸市図書館	D14（図書館）	6. 大学	13.64	22.73	C3	多様型
● 42	京都国立近代美術館	D15（美術館）	19. 体育館	13.64	36.36	C3	多様型
● 39	用賀Aフラット	A2（マンション）	1. 戸建て住宅	13.04	69.57	C2	多様型
● 79	小野デンタルオフィス	G22（医院）	1. 戸建て住宅	13.04	34.78	C2	多様型
● 26	鞆鳥山荘	I27（旅館）	34. 宗教施設	13.04	30.43	C2	一山型
● 91	富ヶ谷のアトリエ	K33（スタジオ・アトリエ）	30. 店舗	13.04	34.78	C2	多様型
● 60	新横浜プリンスホテル	I25（シティホテル）	13. 本社ビル	10.53	57.89	C9	一山型
● 62	富山市庁舎	C12（役所）	13. 本社ビル	10.00	25.00	C9	一山型
● 51	東京文化会館	E18（コンサートホール）	15. 美術館	9.52	28.57	C3	多様型
● 21	鹿島国際音楽ホール	E18（コンサートホール）	19. 体育館	9.09	22.73	C3	多様型
● 93	コナミ那須研修所	H24（研修所）	16. 博物館・記念館	9.09	31.82	C2	多様型
● 36	鐘の医院	G22（医院）	34. 宗教施設	8.70	34.78	C2	多様型
● 40	聖書キリスト教会会堂	K34（宗教施設）	14. 図書館	8.70	13.04	C2	多様型
● 30	Sweet Factory　味覚糖奈良工場	K35（工場）	8. 高校	8.70	21.74	C2	一山型
● 44	都立北多摩看護専門学校	B7（専門学校）	21. 総合病院	4.55	22.73	C2	多様型
● 68	イトーヨーカドー	J32（スーパーマーケット）	31. デパート	4.55	90.91	C8	二山型
● 41	名取市斎場	K39（葬祭施設）	15. 美術館	4.55	68.18	C3	一山型
● 43	NTSシステム寮	A5（寮）	3. 団地	4.35	60.87	C5	多様型
● 16	いわてリハビリテーションセンター	H23（老人ホーム・リハビリセンター）	36. 駅	4.35	21.74	C2	多様型
● 22	不知火病院「海の病棟」	H23（老人ホーム・リハビリセンター）	3. 団地	4.35	26.09	C2	多様型
● 80	関世代の棟	J29（雑居ビル）	2. マンション	4.35	52.17	C9	多様型
● 32	板橋さざなみ幼稚園アネックス	B11（幼稚園）	16. 博物館・記念館	0.00	30.43	C2	多様型
● 4	明治学院大学本館	B6（大学）	25. シティホテル	0.00	26.09	C6	一山型
● 28	東北芸術工科大学	B6（大学）	26. リゾートホテル	0.00	78.26	C6	一山型
● 69	大川学園　福祉教育専門学校	B7（専門学校）	21. 総合病院	0.00	21.74	C2	多様型
● 45	自由学園	B9（中学校）	34. 宗教施設	0.00	43.48	C2	多様型
● 38	北九州中央図書館	D14（図書館）	15. 美術館	0.00	36.36	C3	多様型
● 20	北九州市医療センター	G21（総合病院）	2. マンション	0.00	65.22	C2	多様型
● 15	東京海上東日本研修センター	H24（研修所）	10. 小学校	0.00	27.27	C2	多様型
● 85	イル・パラッツォ	I25（シティホテル）	13. 本社ビル	0.00	26.09	C9	一山型
● 11	幕西臨海公園レストハウス	J30（店舗）	41.その他	0.00	30.43	C9	多様型
● 50	NTT代官山	J30（店舗）	29. 雑居ビル	0.00	47.83	C9	多様型
● 88	IZM	J30（店舗）	13. 本社ビル	0.00	56.52	C9	多様型
● 70	蛇石のアトリエ	K33（スタジオ・アトリエ）	4. 別荘	0.00	30.43	C2	多様型
● 34	フジヤHRセンター	K40（研究所）	15. 美術館	0.00	30.43	C9	一山型
● 78	スタンレー電気技術研究所本棟	K40（研究所）	13. 本社ビル	0.00	91.30	C9	一山型

カテゴリー

A　住宅
B　学校施設
C　庁舎・オフィス
D　図書館・展示施設
E　ホール
F　スポーツ施設
G　医療施設
H　福祉厚生施設
I　ホテル宿泊施設
J　商業施設
K　その他

● 実用途〈見掛けの用途〉



写真1　CHOI BOX



写真2　積水ハウス　CENTRAGE LR-II



写真3　浜寺公園駅



写真4　軽井沢の山荘



写真5　NTT幕張ビル

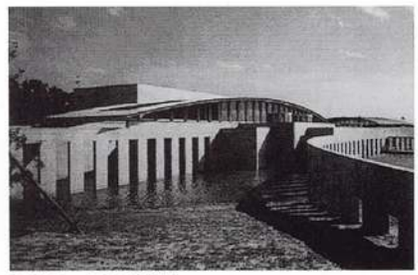


写真6　名取市斎場



写真７　東北芸術工科大学

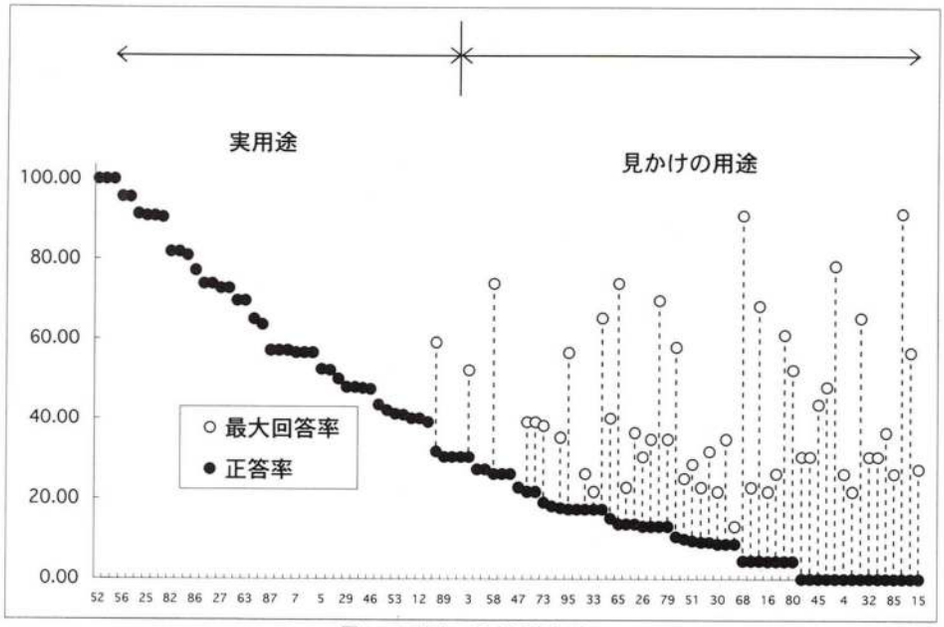


図１　正答率・最大回答率グラフ

解釈できる。回答率の低減に伴い実際の用途〈実用途〉らしさは失われ、誤った用途を回答する〈見かけの用途〉らしさが増してくることが読み取れる。回答率40%程度までの建築は、最大回答率が正答であり、実際の用途〈実用途〉がファサードに表出し、「らしさ」が明白な建築であり、回答率40%以下20%程度までは、最大回答率は〈実用途〉と〈見かけの用途〉が混在している。さらにそれ以下の正答率の建築は異なった用途を回答する率が高く、実際の用途より〈見かけの用途〉らしさをもつ建築として認識されている。最大回答率と正答率の差が大きく〈見かけの用途〉としてファサードが識別されている例としては、名取市葬祭場（写真⑥）が美術館に、東北芸術工科大学（写真⑦）がリゾートホテルなどである。なお、最大回答率の用途が見かけの用途で、数値の大きいものの中には、研究所が本社ビルに、スーパーマーケットがデパートにといったように回答されているものなどがあり、用途そのものの定義づけの問題も少なからず含まれていると考えられる。

用途認識における４タイプ

さらに、〈実用途〉と〈見かけの用途〉との関係についてより詳しく知るために、回答率を基にクラスター分析という手法を用いて分析を行った（図２）。

これは、研究対象とした建築の実際の用途が〈見かけの用途〉とどのように関係しているか、その特性毎にグルーピングさせたものである。Ｃ１～Ｃ９の９グループに分けてみると、例えば戸建て住宅とペンション（Ｃ１）、図書館･美術館･博物館と葬祭施設など（Ｃ３）、大学とリゾートホテル（Ｃ６）、役所･本社ビル･シティホテルなど（Ｃ９）がそれぞれのグループを構成している。これらのグループにはそれぞれ共通した「らしさ」つまり、〈見かけの用途〉が存在していると考えられる。（図３－ａ）に示すようにＣ３のグループでは、葬祭施設が美術館に、コンサートホールが博物館として回答されている様子が分かる。また（図３－ｂ）のとおり、Ｃ６では大学は「らしさ」をもっておらず、リゾートホテルと区別されていない。さらにＣ９ではおおむね本社ビルの「らしさ」によって用途が回答されている。これから多様な建築の用途は、あるいくつかに集約できる〈見かけの用途〉によって認識されていることが想像できる。

以上から建築の外観の用途の認識には、〈実用途〉と〈見かけの用途〉の関係から大きく４つのタイプが存在しそうである。

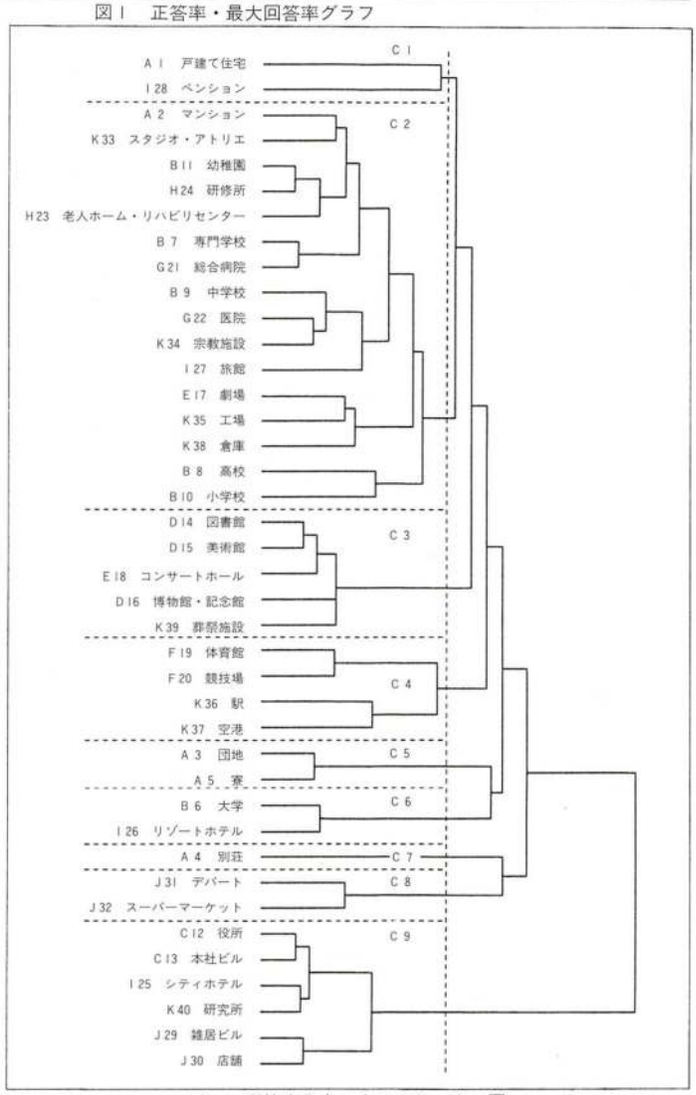


図２　回答率分布によるクラスター図

まず第１のタイプは、〈実用途〉の正答率が非常に高く、他の用途の回答が低いもので、「戸建て住宅」や「別荘」がこれに当たる。このタイプを「明快型」と名付けたが、外観の特徴としては屋根形状やエレメントが特有であり、窓などの構成エレメントのスケール感が容易に想像できることから実用途のイメージが把握しやすいものとして考えられる。

第２のタイプは、２種類の用途のみに回答が集まるもので、どちらか一方が実用途のものである。これを［二山型］と呼ぶ。このタイプは、団地とマンションや競技場と体育館といった間違えやすい用途の関係にあるものである。これら２つの用途は、ファサードを構成するエレメントの中に形や大きさなど相似するものが多く存在していると思われる。

第３のタイプは、一つの回答率が高く、その他の用途の回答が多岐にわたっているものの低いものである。これを［一山型］と名付け、大学とリゾートホテル、本社ビルと研究所などがある。一つには箱状の形と、ファサードの輪郭線やボリュームなど規模にかかわるエレメントに共通性が見られるものである。

第４のタイプは、回答が多岐にわたり正答率も低いものである。これを［多様型］と呼ぶ。このタイプには、美術館や幼稚園があり、その建築の外観からはその〈実用途〉も判別しにくく、また〈見かけの用途〉らしさももたないものである。このタイプは建築の用途がある形を成してエレメントとして外観に表出しない、用途とは関係なく多様なファサードを形作られる建築と言えそうである。

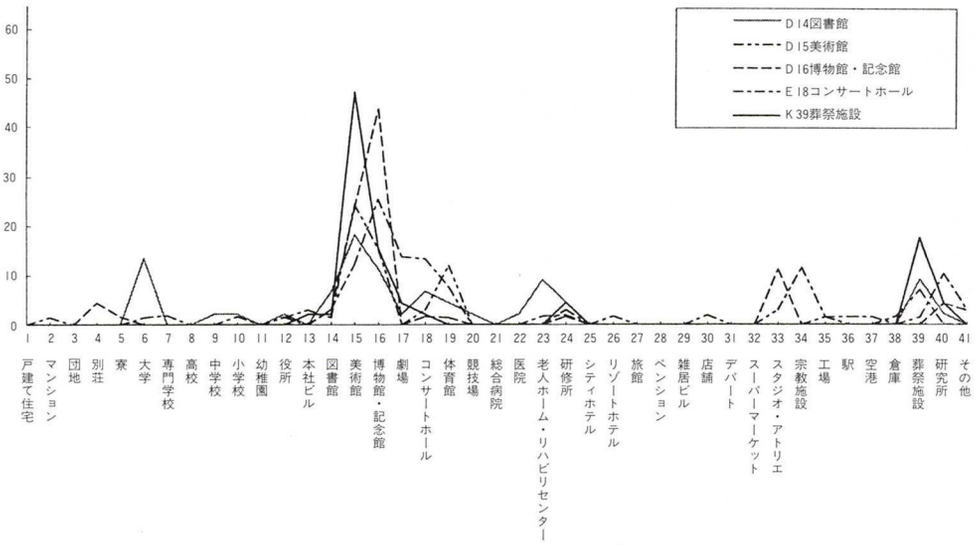


図３(a)　回答率分布による建築の「らしさ」のグループ（Ｃ３）

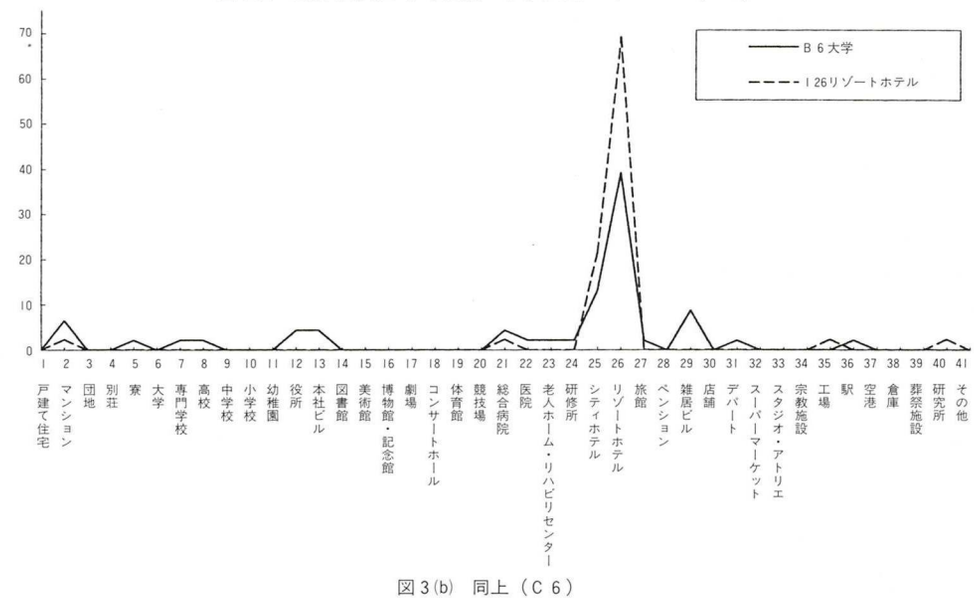


図３(b)　同上（Ｃ６）

ファサードを構成する要素

さらにこのような建築の〈実用途〉や〈見かけの用途〉「らしさ」がどのようなファサードのエレメントと結び付いて、醸し出されているのか、その関係を探りつつある。

まず、回答がいくつかの用途に散逸しない、特定の実用途を含む〈見かけの用途〉の回答率が高い建築を対象として、建築のファサードを構成する物理的エレメントが「らしさ」に何らかの影響を与えていることを前提とした上で、これら物理的エレメントを数量的に捉える試みを行っている。

ファサードを構成する要素は、形態・大きさ・テクスチャー・色彩・装飾など多種多様であり、さらに様式など歴史的意味や記号的な意味をもっているもの、また視覚的な操作が行われているものもあり、直ちに数値化して捉えることは容易ではない。そこで始めに視覚的かつ瞬時に認識可能ないくつかの要素に限定して、それらの物理量を定性的なデータとして、両者の関係を分析した。

ここで扱った物理量は、高さ・プロポーション・ボリューム・テクスチャー・屋根形状・開口部・対称性・バルコニー・サインの９要素24項目である。

これらのデータを基にクラスター分析を用いて、両者の関係の特性を８グループに分類した。例えば、本社ビルや役所などこのグループに属する用途の建築では、共通の物理量として、カーテンウォール・フラットルーフ・縦長のプロポーション・高層などが「らしさ」を生んでいる。また団地や学校では連続する窓・フラットルーフ・コンクリートのテクスチャー・横長のプロポーションなどが「らしさ」を生んでいることが伺える。すなわち共通してこれらの物理量を有する建築は、例えば、上述の本社ビルの「らしさ」をもつものは、これ以外の用途の建築であれ、〈見かけの用途〉として本社ビルとして認識されやすいと見られる。

現在さらに詳細に分析を進めているところである。価値観の多様化や情報化社会を反映して、従来のビルディングタイプのもつ機能や平面計画が変容していく状況の中で、ファサードに表出する用途の〈らしさ〉のもつ意味に少しでも迫りたいと考えている。

参考文献
＊１：船越徹・積田洋、識別法によるファサードの特性に関する研究―ファサードの研究（その１）―日本建築学会計画系論文集第479号　1996.1
＊２：船越徹・積田洋他、ファサードの研究（その３～26）
日本建築学会大会学術講演梗概集　1989～98
＊３：船越徹・積田洋・根本修平他、建築の「らしさ」の研究（その１～４）
日本建築学会大会学術講演梗概集　1996～98

（つみた　ひろし）

もっとあざむき、騙しなさい

——インテリアにおける「らしさ」とは——

加藤　力

京都工芸繊維大学助教授

インテリアに規範はあるか

「らしさ」の底にあるのは規範である。インテリアにおけるらしさの一つに各時代をくぐり抜けて来た装飾様式がある。形式にすぎないが、様式には時代の波を乗り越えて来ただけあって、したたかさがある。頑強なだけではなく、美しさもあれば、それには人に語りかける豊かな言葉がある。

その時代の中に視点を落して、現在を眺めれば、今日などは取るに足らぬていたらくな腑抜けたものに映るはずである。振り返って今日にも規範があるとすれば、それでも時々の小ストーリーや多くの共感の中から泌みでてきたものに違いない。

規範とはいつも強固ではあるが、同時にきわどい脆弱性をちらつかさせている。以上はヨーロッパを想定して言ったまでのことである。

規範とは枠組のことでもある。枠組が外れれば無いも同然である。そこで、いわゆるインテリアとはアチラの空間概念のことで、日本のそれとは区別される。この意味で、日本におけるインテリアの歴史は戦後のわずか20～30年のことにすぎず、多く見積ったとしても鹿鳴館以来のせいぜい100年。「らしさ」を言ってもその程度の範ちゅうに納められる。もっとも建築とて50歩、100歩には違いない。

そこへいくと和風というのは誰の眼にも誤魔化せぬ厚みと深みを持っている。枠組の中での勝負であるから、手を抜けない。伝統とはそういうものであろう。(写真1、写真2)

ウチはソト、ソトはウチ

インテリアデザインとは何か、と問われれば、表現は硬いが「人間の皮膚感覚周辺の環境制御技術」と答えることにしている。身体のごく身近かな空間における人の行動と意識とを予測・制御する技術がインテリアである。

この定義に従えば、床・壁・天井に囲まれた範囲だけがインテリアの仕事ではない。インテリアは内なる空間には違いないが、それは1人1人の人間を取り囲む空間のことである。部屋に居ても、部屋から一歩出たとしても、あるいは建物から街に出ても、1人1人の人間を取り囲む空間は常に存在し、何時までも、何処までも一つに繋っている。丁度、メビウスの帯、あるいはクラインの壺のごとく。それが内なるインテリア空間である。(写真3、図1)

だが、実際の空間は2重、3重の入れ子のごとくに造られている。しかし、その中に存在する人間にとっては内はそのまま外に転じ、外はそのまま内に続く。人はそれぞれの入れ子の表皮の部分をなぞらえるように生活し、知覚する。それがインテリア空間の認知である。

ウチとソトとは今一応、それ「らしく」造られているものの、それは単に取り決めにすぎない。取り決めは形式であって、幻想である。ウチでありながらソト、ソトでありながらウチ。

インテリアの視点で空間を捉えれば、ウチとソトの「らしさ」とは、その時点で意味をも失うことになる。「らしさ」とはこのように危うい性質を持つ。



写真1　日本の空間（滋光院）



写真2　西欧の空間（パラッオドリア）



写真3　内は外、外は内

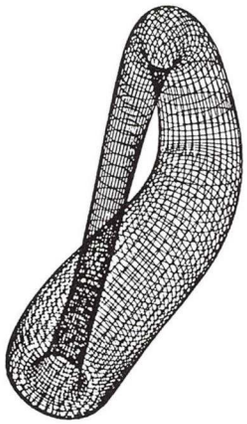


図1　クラインの壺

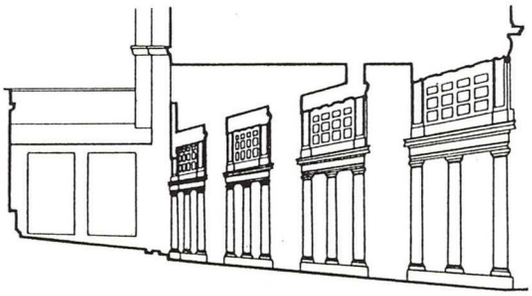


図2　スパーダ宮柱廊（断面）

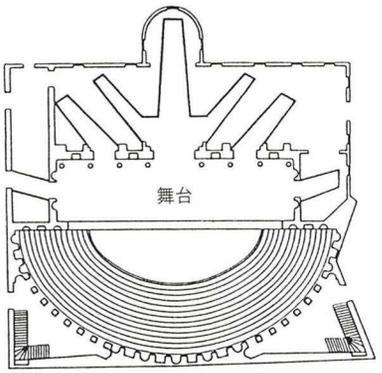


図3　テアトロ・オリムピコ（平面）

ベルニーニ&ボロニーニ

バロックとは蠱惑的なあまりにも「らしさ」を強調した視覚的魔術の時代でもあった。

バロックの天才、ベルニーニはスカラレジアの階級において、“きめの勾配”を利用。柱間、天井、階段を次第に奥に小さくきざんで虚の奥行空間を生み出した。同じく黒衣の秀才ボロニーニもスパーダ宮のコロネードにおいて、極端なほどに先細りの柱廊空間を繰作。現実よりも倍ほどの奥行感を与える見せかけ空間を造り出した。(図2、図3)

こうしたイリュージョンによる騙しの手法はヨーロッパの最初の屋内劇場で知られるテアトロオリムピコですでに実証済みであった。パラディオは現実の都市の奥行を舞台という限定された空間の中で視覚的に再生して見せた。逆もまた真なりで、バロックでは逆遠近法とでも呼べる空間配置法も数多く試みられていることは周知の通りである。騙しと言えば騙しに違いなく、欺きと呼んで否定はできまい。だが、人の持つ感覚の不確さの淵をのぞき込むように「らしさ」を求める方法は、この時代正義でもあった。

正直は善には違いはない。だが正直さだけが真であるとは限らない。期待通りに振る舞うことが、思い通りに手を深めることが、多少の偽りをしても、より「らしい」見せ・思わせ・働きかけることが悪だとは決して言い切れまい。

本歌取り、あるいは写し

発想は自由である。不可侵なこの自由のためにデザイナーとデザインは存在する。自由ではあるが、「らしさ」の後に見え隠れするものに、模倣もしくは借用がある。

家具に話を移したい。デンマークの巨匠、ハンス・ウェグナーのYチェアーは周知の通りシノワズリ（中国風）である。明時代の椅子を下敷としてYチェアーは生まれた。だが、Yチェアーは明のそれではなく、固有の顔として現代に生き返ってきた。リ・デザインと呼ぶが、和歌でたとえれば本歌取りである。写しであるが、本質をすでに乗り越えた自由がある。時空を飛び越えた普偏がそこには示されている。

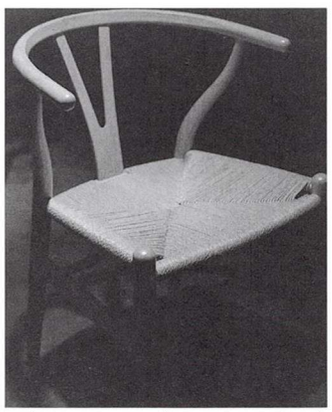


写真4　Yチェアー(ハンス・ウェグナー)

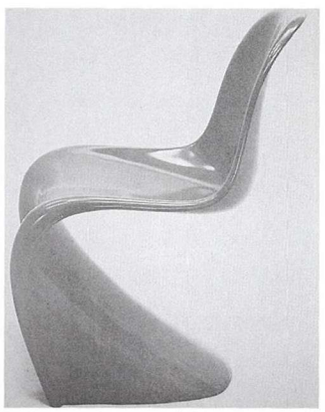


写真5　パントンチェアー(ベルナー・パントン)

例えば、リートフェルトのジッグザッグチェアーとベルナーパントンのパントンチェアー。木からプラスチックへと材質を置き換えて、見事、パントンチェアーは素材をたがえて、形の普偏を果している。これらをはたして「らしさ」のカテゴリーに入れることができようか？（写真4、写真5）

写しではあるが単なるフロッタージュを突き抜けた何ものかがある。デザインの発想は自由である。だからこそ乗り越える自由さも保証される。そこから普偏や固有さを造る自由も許される。「らしさ」とはそういうものではないだろうか。

災い転じて福となす

空間をマッスとして捉えるのが建築だとすれば、インテリアはディテールの積み層ねである。詳細、詳細を丹念に積み層ね、組み合せてインテリアは出来あがる。いわゆる部分から全体へ、部分と部分とが寄せ集められ、照合されてインテリアの全体像は明らかにされる。それがインテリア空間の成り立ちである。

パンデモニアムモデルと呼ばれるパターン認知の構造と同質・同類。部分と部分が照合され、統合されて、「らしさ」は判断される。

ならば、部分をトコトン「らしく」する。もっと部分に迫って、こだわってみる。丁度、悪、悪、悪と悪事を積み層ね、行きついた先に悪事が全部、善に転化する。枠組が知らぬ間にスッカリとすり替わる。「らしさ」にはそうした可能性が秘められている。

もっとあざむきなさい、騙しなさい。　（かとう　つとむ）

建築における「らしさ」の消去

――清掃工場における建築デザインの変遷と社会背景――

大窪健之

京都大学工学研究科助手

近代を最後に、様々なジャンルが固有に持っていた建築の「様式」が崩壊を始め、歴史的蓄積により形成されてきた、建築の“らしさ”は、加速度的に変化を続けてきた。

この傾向は特に公共の分野で顕著であることが指摘されているが（例えば、中川理「偽装するニッポン～公共施設のディズニーランダゼイション」（彰国社））、これらの建築が“らしさ”を放棄し、「変化する」ことそのものを目的として変わろうとする背景には、どのような社会的要因が働いているのであろうか。

本稿では、近年大きく変化を始めた代表的な「公共の」都市基盤施設として、すべての市民生活に深く関わるごみ処理事業の中核を担う「清掃工場」の建築デザインを題材に採り上げ、これまでの歴史的な経緯と近年の傾向を整理する中から、その根元にある“らしさ”の消去を目指した社会背景について概観し、逆に“らしさ”が持ち得る今日的な意味と可能性について考察してみたい。

近年に至る清掃工場のデザインの推移

廃棄物の処理問題は、文明史始まって以来人類の背負ってきた宿命的な課題となっている。

江戸時代以降になり人口100万を超える巨大都市が成立するようになると、捨て場を失ったごみは町中にあふれるようになり、以来、海や川、窪地、空き地などに輸送して投棄することが主要な「処理」方法として定着することとなる。しかし1880年代に始まる都市人工の急増に伴い都市環境が急速に悪化すると、コレラ等の伝染病により大量の犠牲者が発生する事態となり、主に環境衛生の観点から廃棄物の衛生的処理が国策上の急務となる。これを背景として1900年、日本ではじめて廃棄物処理を自治体責任と規定し、衛生的な焼却処理を目標に掲げた「汚物掃除法」が成立する。

いわゆる「清掃工場」と現在総称される「一般廃棄物焼却処理施設」は、これをきっかけとして世に生まれ出ることとなる。焼却炉の形式は、初期には「バッチ式」と呼ばれる投入・焼却・灰出しというサイクルを繰り返す形式であったが、その後1965年スイスの技術を輸入した「連続式」と呼ばれる、機械力によって投入から灰出しまでが連続的に行われる炉形式が導入されて、現在に至っている。これに呼応する形で、建築の形式も、初期の雨がかりを防ぐ木造の小屋としての位置づけから、クレーン等により作業の機械化が進められた工場建築へ、そして1965年を境に海外の技術導入による現在主流となっている独特のスタイルへと移り変わってきた。

清掃工場のもう一つの特徴である煙突については、初期には炉の数を増やすことで焼却能力を上げていたため、煉瓦造の煙突が一列に立ち並ぶ風景が一般的に見られていたが、炉の焼却効率が向上するにつれその数は減少し、構築技術の進歩と煤煙問題がその高層化を飛躍的に押し進めた結果、現在の都市部では煙道を束ねて単数化した150mを超える例が標準化しつつある。

以上に見られるようなデザインの歴史的推移は、1965年を境とした海外技術の導入に伴う不連続的な変化も含めて、基本的に「ごみを灰とガスとに変換する機能」の強化プロセスを忠実になぞらえる形で推移しており、ここまでの変化は主にその機能的根拠によるものと位置づけることができる。

この過程では清掃工場は、純粋に「装置体」として合理的にデザインされており、大量の廃棄物を貯留する巨大なコンクリート製「ゴミ箱」と、それを順次焼却するハイテク・プラントの集積体を収納する鉄骨製「容器」という2つのボリュームを併設するという近代清掃工場としての「様式」、つまり「清掃工場らしい」デザインが、この時期を通じて形成されてきた。

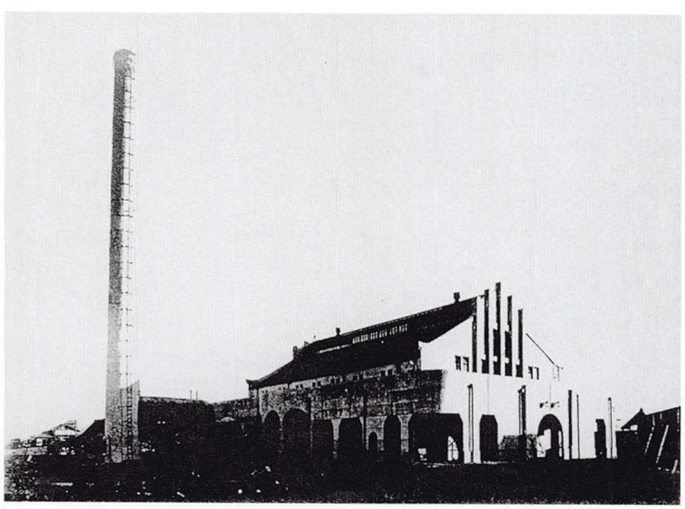


写真1　1925年・京都市十條工場：バッチ式炉の時代の清掃工場

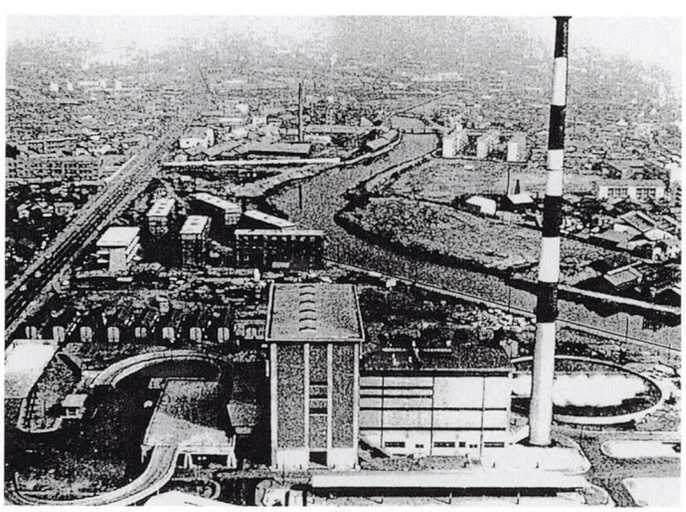


写真2　1965年・大阪市西淀工場：海外の連続式炉を初めて導入した清掃工場

近年における清掃工場のデザインの傾向

しかし時代が下がり近年になると、1985年頃を境に清掃工場の建築デザインは急速に変貌を始める。

施設本体には、幾何学的パターンやかわいいキャラクター、「自然」を想起させるようなペイントが施されたり、出角部の面取りや、ボールト屋根などの装飾的造形が施される一方で、煙突には「デザイン煙突」と呼ばれる多角形や楕円などの特殊な断面形状が採用され始め、時計や展望台が設置されるようになる。特に近年では、施設全体が「中世ヨーロッパの城」や「波状のうねり」、「海と空」等、他の構築物や事象をイメージしてデザインされる例も現われてきている。

この1985年頃に端を発する、近年の建築デザインの変化傾向を詳しく分析するため、1996年までの11年間に新設された日本全国の1日当たり処理量200ｔ以上の大規模清掃工場122施設を対象に、実際に採用されている各部の建築デザインに対応させながら、その背景にある設計主旨について調査を行った。以下にその概要を紹介する。

初めに調査対象施設の広報資料にもとづくキーワード分析から設計主旨項目を抽出し、施設写真と図面の分析からは要素別に建築デザインの手段項目を抽出した。これらの項目をもとに、各施設の建築設計担当者に対して、実際に採用したデザインの手段項目を挙げてもらい、それを採用した意図について主旨項目の中から近いものを複数選択してもらう形式で、アンケート調査を行った。

次いで得られたデータを施設の竣工時期順に並べることで、建築デザインの設計主旨について時間推移の傾向分析を行った。この結果、近年の施設の建築デザインに対する考え方として、「周辺環境への融合」、「近代的な印象の表現」、「清潔な印象の表現」、「圧迫感の低減」という、ごみそのものや旧来のごみ処理施設の持つマイナスの印象を否定する方向性をベースとしながらも、特に最近では周辺環境に対して「シンボル性」、「地域の持つ特性」、「親しみやすさ」を強調するという、ごみ処理問題から離れた設計主旨が急速な伸びを見せており、1994年以降には「特定のデザイン・テーマ」を掲げる事例も現れ始めることが示された。

即ち1985年以降、近年の清掃工場の建築デザインの役割は、それまでの「設備機器のカバー」としての純粋に機能的な位置づけに加えて、ごみの処理に対するマイナスの印象を包み隠し、清掃工場らしく見せないためのいわば「オブラート」としてデザインされる傾向をベースとしながら、特に近年では、ごみ問題とは直接関連しない全く別のメッセージを発信することで、清掃工場以外のものに見せるためのいわば「ラッピング」を指向する考え方が増加する傾向にあることが明らかとなった。

この急激な建築デザインの変化により、清掃工場“らしさ”が消去されていく背景には、大きく２つの社会的要因が関係していると考えられる。これについて、以下２節に分けて考察することとする。

地域社会に対する“らしさ”の消去
（環境問題の顕在化）

戦後の急激な経済成長は、社会の中に消費の拡大こそが善であるという考え方を定着させ、大阪では林立する煙突から立ち上る煤煙すら「東洋のマンチェスター」と称して美化するなど、自らの欲望のままに環境への負担を増大させ始める。この結果、1970年の「公害国会」開催や1971年の環境庁発足に端的に現れるように、公害病の発生という形で問題が全国各地で顕在化する。人間への健康被害の事実が突きつけられることで初めて、「見えなかった」はずの環境問題が見え始めたのである。



写真３　1995年・埼玉県東部組合・第一工場（リユース）：「中世ヨーロッパの城」をイメージした清掃工場

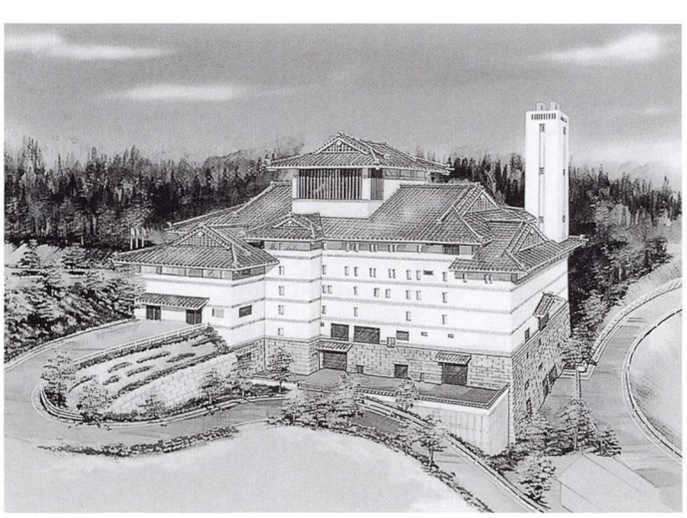


写真４　1998年・北信用組合・（仮称）東山クリーンセンター：「日本の城」をイメージした清掃工場

特に清掃工場の焼却ガスによる大気汚染の問題や収集車による交通公害の問題は、責任主体が地方自治体であるために公害を取り締まる側が公害を出すという矛盾をはらんでいることと、誰しもがごみを排出しているにもかかわらず処理を引き受ける地域が一部に限定されるという不公平感があることから、周辺住民の被害者意識はより強いものとなる。ごみ焼却灰から猛毒物質とされるダイオキシン類が検出されるなどの社会不安が起こると、特に1985年頃以降には、迷惑を補償する考えの下「地球還元施設」という名目で、温水プールや公園、集会施設などの地域施設の併設が常套化する。つまりデメリットの根本的解決を棚上げしたまま、別のメリットによって補完するという「対策」が行われ始めたのである。

周辺住民の反対意識の矛先は施設の建築デザインにも及び、背景と時を同じくして、施設の存在そのものを否定したい地域住民感情への「対策」として、「清掃工場“らしさ”を消去する」ための過剰ともいえる装飾的デザインが求められるようになったのである。

この局面では、環境問題の顕在化に起因した地域住民の反対感情を緩和するための「対策」として、従来の清掃工場“らしさ”が消去され始めたと考えることができる。

消費社会に対する“らしさ”の消去
（近代産業構造の特性）

もう一つの背景として挙げられるものは、より深いところに内在する日本の近代産業社会構造的な特性である。

日本の近代産業社会は、生産の規模を巨大化させることで大量消費を実現し、GNPの伸び率の維持を第一の目的として自己拡大を続けてきた。その結果、生産と消費を拡大することが善とされ、逆に生産・消費を滞らせるようなむしろ「廃棄物問題の社会問題化」こそを悪と見なす社会的状況がつくり出されてきた。モデルチェンジのシステムに表れるように、いかに大量の廃棄物を出すかということで成立してきた近代産業構造は、逆に廃棄物を出さない構造にした途端に経済成長が止まってしまうのではないか、という恐怖心を根底に根付かせてきたのである。

つまり近代産業構造がこれまでの廃棄物処理システムに要求してきた性能とは、「廃棄の問題を社会問題へと移行させない」ことを命題として行政側に廃棄物処理を肩代わりさせることであり、むしろ生産・消費側に対しては廃棄した後のことを「意識させない」ことによって、大量生産・大量消費を担保する機能であったと考えることができる。

この局面では、近代産業社会が内在している消費重視の体質・構造上の要求によって、消費者の活動を停滞させないための「対策」として、従来の清掃工場“らしさ”が消去され始めたと考えることができる。

環境の時代へ向けた“らしさ”の可能性
（情報に対して開かれたデザイン）

しかしながら、既に進行する環境問題が示すように、これまで行政に責任を押しつけながら大量生産・大量消費を旨としてきた社会体系は行き詰まりを見せ始めており、「受益者側に責任の主体を置く」社会体系への転換はもはや必須の状況となっている。この意味で清掃工場の建築デザインも、「臭いものに蓋をする」これまでの考え方から、「情報を共有する」ための透明性やわかりやすさといった、新しい意味での“らしさ”を備えることで、市民個人個人のまなざしを事実の認識へ向けて解放する考え方へと、本質的な転換を迫られているといえよう。

環境問題としての廃棄物問題は、終局的に完全な解決に至る方法は、人類の消滅以外には存在しないのかもしれない。この限られた地球環境の中で、それでも人間が自分たちにとってよりよく生きてゆくためには、個人個人が状況を正確に把握した上で、総意としてその生き方を主体的に選択していくことが重要となろう。

その意味でも、環境と深い関わりを持つ都市基盤の実状について、個人個人が日常的に認識可能な状況を創り出すことは、都市基盤施設に対する「デザイン」が為し得る、環境問題の改善へ向けた重要な役割となるのではないだろうか。

（おおくぼ　たけゆき）



撮影　日刊建設通信新聞社

扇町キッズパーク

川原村勝幸
安井建築設計事務所



撮影　ナトリ光房

扇町キッズパークは、竣工後２年近く経過したが、見学の希望者が絶えず、いまだに案内する機会が多いが、見学後の感想として「まるでおもちゃ箱の様だ」とか、「びっくり箱の様だ」とか言ったニュアンスが見学者の共通した意見である。それは、外見からは想像もできない様々な用途で構成された空間のイメージから来るものだと思われる。施設構成の要素は、こどものための博物館「キッズプラザ大阪」とメディア施設の「関西テレビ放送」の組合せという、他に例を見ない複合建築である。

今回、扇町キッズパークが「“らしさ”のデザイン」特集における「意外性の建築デザイン事例」に選ばれたことも、採用された建築的表現が「キッズ」という言葉から短絡的にイメージされる擬ディズニーランド的建築と掛け離れていることによるのであろうか。

私達の提案は、“キッズ”と“メディア”の共通のイメージである「未来」・「夢」・「21世紀」・「成長」等をテーマとした空間構成であった。キッズとメディアの複合による相乗効果をねらった出会いの仕掛としての空間造りと、その魅力をさらに増幅させるために、都市空間を貫入させる計画であった。様々なスケールの大空間や諸機能を内包可能であり、賑わいや変化に対して耐久力のある立体格子による中性的空間、梅田と天満地区を結ぶ人々の主動線としてのアーバンスケールの軸線上に対角配置された２つの立方体、扇町公園との一体的空間となる高さ50ｍの扇形アトリウムの提案であった。完成後には予想を超えて賑わいの創出と不思議な空間の出現が見られる。それが最も顕著に現われているのは１階アトリウムにおいてであり、キッズプラザを訪れる小学生を中心とした子ども達の歓声と、TV局の出演者やそれを追っかける女性達の華やかな雰囲気の空間となっている。建築主や入居者のみならず地域の人々やマスコミにおいても高い評価を得ている豊かで不思議な賑わいの空間、「意外性の建築デザイン」空間の実現は、複合化ということと同時にプログラム段階での質の高いプロデュースと建築主や広告代理店、そして我々建築設計者による高密なコラボレーションによりインテグレートされた結果であると言える。「意外性」＝「らしくなさ」に対峙する「“らしさ”のデザイン」は、合理性と経済性を重視する機能主義が生み出した従来のデザインであり、それらは都市を覆いつくし、都市空間の単調化や空洞化、建築デザインの硬直化をまねいたと言われている。

建築評論家の馬場璋造氏は、本誌９月号において建築における20世紀のはじまりは、それまでにない建築のプロトタイプ、機械が主役の「工場」であるベーレンスの「AEGタービン工場」(1910年)、グロピウス＋マイヤーの「ファグス靴工場」(1911年)ではないかと述べている。同様に21世紀を拓く建築が姿を現すとすれば、これまでにない建築のプロトタイプ、そこから生まれる「“らしくない”」デザインから始まるのではないか。それを生み出すには、建築デザインそのものの思想の前段階における良質なプロデュースによる複合化、他者とのコラボレーションが必要であり、そこには何か大きな可能性が秘められていると思えるのである。

（かわはらむら　かつゆき）



撮影　松村芳治

SPRINGTECTURE 播磨

シミュレーションゲームの可能性

遠藤秀平
遠藤秀平建築研究所



意外性／らしさの発生

意外性とは、目的を遂行中の当人が想定している予想に対し、結果として確認された状況とが一致しない場合に発生し、快感を得られたときに「らしさ」として納得する。これは恣意的な範疇に属する判断であるが、建築行為を対象とする場合には極めて視覚的な範囲に固定されがちであり、共同幻想として比較的多くの同意を公共施設において確認できる場合がある。それは公共建築が基準や補助の運用に拘束され画一的な結果をもたらしている現状が規範となっている。伝統的民家などにみられる共通性、ハウスメーカーによる均質性も同質であるがここでの焦点はその運用としての設計姿勢に絞りたい。日本中に多くの必要性がありかつ設置に対し時間的また経済的余裕の少ない、小さな公共建築がこのような共同幻想をよく示している。これらの瞬間的な建設行為における方向性は設計者の選択が全てであり、その結果として意外性／らしさが固定される。ただし、この意外性／らしさはこれらを体験する側に発生する建築物に対する判断でもある。

目的としての意外性／らしさ

意外性／らしさによる合意を手段として運用する建築行為は、複数の人の関心を得ることを目的とする場合が多い。この多くの合意を得ることは効率的な収益の追求に関与する建築が必要とする機能の一つであると言える。すでに共有されている幻想を基準として運用する行為は設計（シミュレーション）行為としての範疇であり、「意外性」と「らしさ」そのどちらの運用も同じ質を有するものである。意外性／らしさによる運用の誘惑にのみ侵された設計（シミュレーション）行為がもたらす建物は、新しい価値／可能性は生み出さない。なぜなら「らしさ」を目的とする行為は、均質化を前提としたシミュレーションとしての設計行為であり、「意外性」を目的とした行為は共同幻想を前提とした視認性にのみ訴える選択であり、そのどちらもが創造性に保証される建築行為ではない。

結果としての意外性／らしさ

SPRINGTECTURE 播磨は意外性を目的に設計されたものではない。具体的な敷地と必要な機能／求められた場所性としての特質などにより決定された結果としての建築である。敷地は兵庫県の西部に位置する西播磨科学公園都市の公園の中の小さな余地が充てられている。この公園は周辺の住民に開放されており、ここを管理する人の休憩室と公衆便所を合わせ持つ小さな公共の施設である。この施設が公共のトイレとして意外であるとするのは、本末転倒である。本来公衆便所は決まった形態／イメージを有しておらず様々な現れ方をしているのが現実であろう。しかし、SPRINGTECTURE 播磨が意外でないとするには多くの反論が予想される。それは公園施設としての意外性ではなく、その存在事態に対する意外性に他ならない。視認性を越えた意外性を誘発するこれは、建築行為における可能性への小さな試みである。

（えんどう　しゅうへい）



撮影　松村芳治

京阪電車坂本駅

吉羽逸郎
アイ・エフ建築設計研究所

滋賀県の坂本の町は、比叡山延暦寺及び日吉大社の門前町である。又、穴太石積で有名な、石積の町である。比叡山から琵琶湖へ続くなだらかな山すそに、静かにたたづむ町である。街並の特徴は、道沿いに低い穴太石積がつづき、その背後に平入りの建物があるのが一般的である。

坂本駅は、京阪電鉄の石山坂本線の北の終着駅である。当初大津市において考えられていた案は、ＲＣ造の和風平入りの２階建の建築であった。坂本の町並みを、直接的に引用されたものである。しかし、歴史の重みを、素材もスケールもプロポーションも機能も異なる表層のみにおいて、未来へと引き継ぐことは適切な解答であろうか。しかし、このような案は、地元には比較的馴じんで受け入れられていたようである。現実の町の中には、そのようなまがい物建築等も見かけることはできる。私は過激な形であえて伝統へ挑戦しようとしたのではない。意外に見えるデザインも、物のあり方の原点に立ち戻って発想されたものである。町中の伝統的建築のデザインを記号として抽出し散りばめることは避け、駅とはどのような意味を持つ場なのかという点から思考をスタートさせた。駅は人の通り道の空間であり、屋外性の高い空間であること。町へのゲート空間であり、トランジットの空間である。すなわち、屋内空間としての囲われた空間は不要ではないか。それにより電車からダイレクトに駅前の広場につながり、そして町へと続いていくのである。必要なのは、シェルターとしての屋根であることである。又、駅は町への入口であると同時に出口でもある。ここでは、歴史の町坂本から、近代都市大津への出口でもある。そこには伝統とは反対のモダンへの要求があるわけで、見方を変えることで、全く違うものが求められるわけである。色彩については、濃いブルーグリーンを屋根及び柱に施した。この色は厳密に吟味されたもので、坂本色と命名した。古い町並みにおいては、明度彩度が低く、又、自然素材も多く使用されていることから、黒い屋根、白い壁、茶系の材木、そして植物の緑に似合う緑系として、明度彩度を低くした。平屋建の駅事務所やトイレはアイボリー系の色とし、屋根と対比させた。このように、色彩と形は相互に補充し合っている。コンコース、広場内、及び広場向い側の正面には、石積の壁が設けられており、駅の空間は石の存在感が一際、際立つような仕掛けにもなっている。このように、坂本の町にあって、異形とも思える駅空間は、周辺環境や伝統に対する一つの解答である。

（よしば　いつろう）

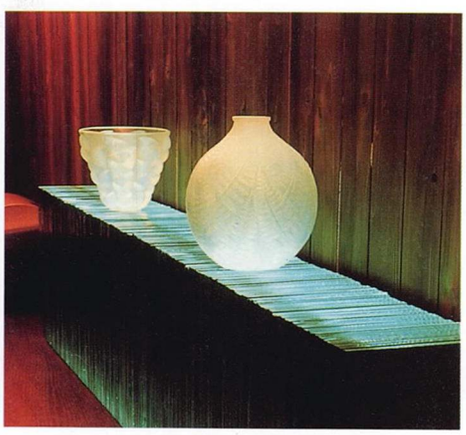




写真提供　㈱三越

R.L（エール・エル）

新保哲也
新保哲也アトリエ



R.L（エール・エル）は、我々の会社が経営しているワッフルケーキの店で、現在全国に15店舗を展開している。

その始まりは、空間だけでなくそれにつながるあらゆるものを創っていきたいという純粋な思いからである。だからインテリアはもちろん、商品やパッケージなど店舗にかかわるデザインをトータルに行い、企画・運営まで自社で行っている。そうすることで最初から最後まで、統一した考えを基にものを創っていくことができ、また素材を吟味し、無駄を省くことにより、質を高めながらも、コストダウンをはかり、最終的にできあがったものを安価で提供することが可能になる。

これが、この店のコンセプトであり、我々のものづくりの基本姿勢でもある。

インテリアでの例をあげてみると、壁の仕上げに使っているのは、本来下地に用いられる杉のバラ板である。これを目地をとらずに突付けで縦に貼り、木目や節が美しくみえるように薄墨をふきとって仕上げてある。こうすることで普段は目に触れることのない、一束いくらで扱われる材料であるバラ板が無垢材であるという本来もっていた力を活かして高級感をもつ仕上げ材になる。またルネ・ラリックの作品が置かれるガラスのオブジェは10㎜厚の普通の板ガラスでできている。ガラスは小口を切放しとし、その切断面がみえるように隙間なく150枚並べる。その下に蛍光管を仕込み、むらなく光をあてることで、塊となったガラスが幻想的な緑の光を放ち、荒々しい切断面が見る人の動きにともない輝くようになる。

このように、一般的な使用法や決まりきった仕上げをするのでなく、素材のもつ力を引きだす使い方や見せ方を探し出して創っている。これはインテリアだけでなくパッケージや商品などを創る上でも共通であり、この既成概念にとらわれることなく考え、いい意味で素人でありつづけ、またどんなときも消費者の立場で考えていくというものづくりが、意外性を生むのかもしれない。

（しんぼ　てつや）

「らしさ」のデザイン考

吉村英祐
大阪大学大学院工学研究科助教授

「そんなことを言うなんて君らしくないよ」、「いかにも子供らしい絵だ」、「このあたりがいちばん京都らしいところだ」等々、「…らしい」という言葉は日常よく耳にする。では、「らしさ」とは一体何なのかを改めて考えてみると、実はたいへん幅広く、かつ奥の深い概念であることに気づく。ここでは、さまざまな「らしさ」について考え、その本質に少しでも迫ってみることにする。

「らしさ」の多様性

映画やテレビドラマにおいては、俳優・セット・衣装・小物から言葉遣い・効果音にいたるまでが「らしさ」を演出する要素となる。よりリアリティを追求するため、厳密な時代考証や方言指導が行われることもある。アメリカの映画やドラマの吹き替えでは、南部なまりを東北弁（らしき方言）で表すという苦肉の策がいつの間にか定着し、違和感なく聞いているが、よく考えてみるとおかしな話である。観光パンフレットには、たとえばニューヨークなら自由の女神や摩天楼、シドニーならオペラハウス、京都なら神社仏閣・祇園・町家、大阪なら道頓堀や通天閣などの写真がよく使われるが、これらはしばしばつくられたイメージであり、必ずしもその都市の「らしさ」の本質を表しているわけではない。芸術や文化における「らしさ」は、「○○風」「△△的」あるいは「××系」と呼ばれることがあり、人間についても〈女（男）らしい〉、〈若者らしい〉、〈一見サラリーマン風〉などと言われる。しかし、このような「らしさ」の感じ方は国・地域・民族、あるいは文化によってまったく異なるのが普通であり、これがしばしば異文化間の摩擦や誤解の原因になる。

「らしさ」の中でもっとも一般的なのが、「形態のらしさ」であろう。似顔絵や形態模写（ものまね）は、その対象の特徴を的確にとらえ、それを誇張することでいっそう（時には本物以上に）本物「らしく」見えるという。また、タレントのタモリの十八番（おはこ）であるイグアナの物まねや、４人の外国人が麻雀をしているところを、それらしい発音とアクセントのでたらめな外国語で演じる「４カ国語麻雀」は抱腹絶倒ものである。

建築の外観の「らしさ」

では、建築の「らしさ」についてはどうであろうか。「形態は常に機能に従う」というルイス・サリヴァンの有名な言葉があるが、従来、たとえば市役所は市役所らしく、病院は病院らしく、警察署は警察署らしく見え、見ただけでその用途や機能がわかる建物が多かった。建築家の隈 研吾氏によれば、中で何が行われているかがすぐにわかり、安心できる建物がよい建物であるという伝統的な建築観があり、これを人間中心主義（アンスロポモルフィズム）と言うそうである[*1]。その一方で、産業革命の初期段階には工場もオフィスも、それぞれの組織の実態にあった表現形態を持っていたものが、ある時から建物・都市・テクノロジーと形の間に関係がなくなり[*2]、今や建築の外観と機能・用途の関係は曖昧になりつつある。保守的・機能的なデザインの代表といわれてきた公共建築でさえ、もはや例外ではない（写真１、写真２）。

一方、このような流れとは別に、「らしさ」を意図的に排除した建築が最近話題になっている。その代表例が清掃工場・火葬場・葬祭場・パチンコ店・ファッションホテルなどの、いわゆる「迷惑施設」と呼ばれるものである。これらは従来、その機能が外観にあまりにも素直に現れていたため、建設にあたって近隣の反対を招いたり強める一因となっていた。しかし、東京都臨海副都心清掃工場（1994年）は煙突にいたるまで徹底的に「らしさ」が排除された結果、コンサートホールと見間違えそうな外観デザインになっている（写真



写真１　熊本北警察署―暴動やテロのない平和な時代の象徴か（設計・篠原一男）

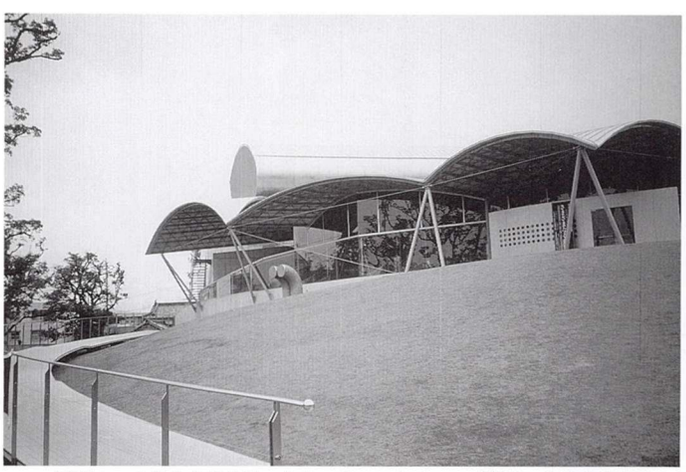


写真２　八代市立博物館　未来の森ミュージアム（設計・伊東豊雄）

3)。また火葬場は、燃焼炉の進歩により高い煙突が不要になったこともあって、清掃工場以上に「らしさ」が消された事例がみられる。このように、迷惑施設が「らしく」ないようにデザインされ始めた背景に、周辺住民への配慮があることは見逃せない*3*4。

用途変更と「らしさ」

ここまでの話は、建築がある機能・用途のためにデザインされ、機能的耐用年数が尽きれば構造的には丈夫であっても取り壊される一代限りの建築を、暗黙の前提としていた。しかし、ヨーロッパ諸国には百年以上にわたって使い続けられ、しかもその間に何度も用途が変わった建築が数多く存在する。パリのルーブル美術館はもと宮殿であり、10年ほど前まではフランス大蔵省も入居していたし、同じくパリのオルセー美術館も、長らく使われずに放置されていた旧オルセー駅舎を改修・再利用したもので、内部空間にはかつての駅の雰囲気が色濃く残っている(写真4)。また、武庫川女子大学生活美学研究所の建物は、1930年に竣工した甲子園ホテル（設計・遠藤 新）を改修したものであるし、旧倉敷市庁舎（設計・丹下健三）も、現在は美術館に転用されている。このように、建築の用途転用が日常的になれば、建築の「らしさ」の概念が大きく揺らぐことになる。外観から建築の用途が推定しやすいことが、機能的耐用年数が尽きたら転用されることなく取り壊されるという日本の建築事情に起因するとすれば、好ましいことではない。

「らしさ」の混乱

人気漫画「ドラえもん」の絵柄の切手を貼って投函された封書が80円未納で返送されたという新聞記事(毎日新聞大阪版1997年6月10日)には笑ってしまったが、これは切手の図案が漫画であったことと、シール式切手であったという、切手らしくない条件が二つ重なったために起こった手違いで、単なるハプニングですむ話である。だが、建築デザインをめぐってこのような混乱が生じたらどうであろうか。

某市庁舎が郊外に新築移転したとき、その外観デザインや立地場所からよくホテルに間違われたという。あるレストランは、あまりに「らしくない」ファサードにしたため客が店に気づかず、結局大きな看板をあげざるをえなかった。銀座の歩道に立っている地名案内表示は、バス停とまぎらわしい形状とデザインであるためか、「ここはバス停ではありません」とわざわざ書かれてある。また、奥に守衛室や倉庫しかない通路の壁に「この奥にトイレはありません」と張り紙してあるところをたまに見かけるが、そこはたしかにトイレの入り口「らしい」雰囲気を漂わせている。テーブルの天板の飾

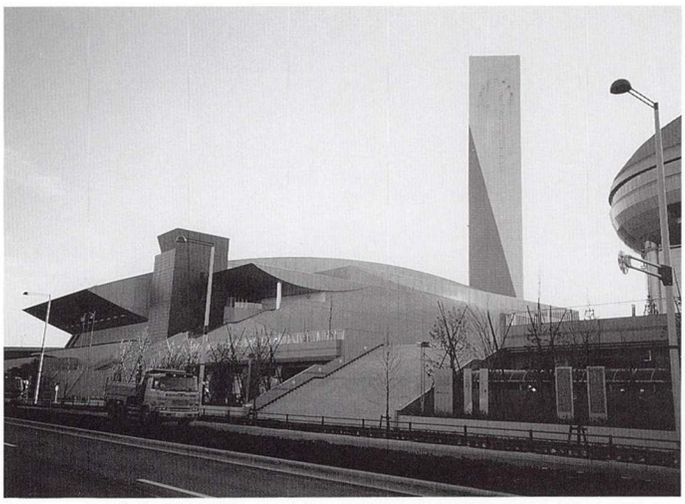


写真3　東京臨海副都心清掃工場（基本デザイン・長倉康彦、小林克弘＋デザインスタジオ）　＊写真提供：大窪健之氏（京都大学）



写真4　パリ・オルセー美術館のインテリア（インテリア設計・Gae Aulenti）

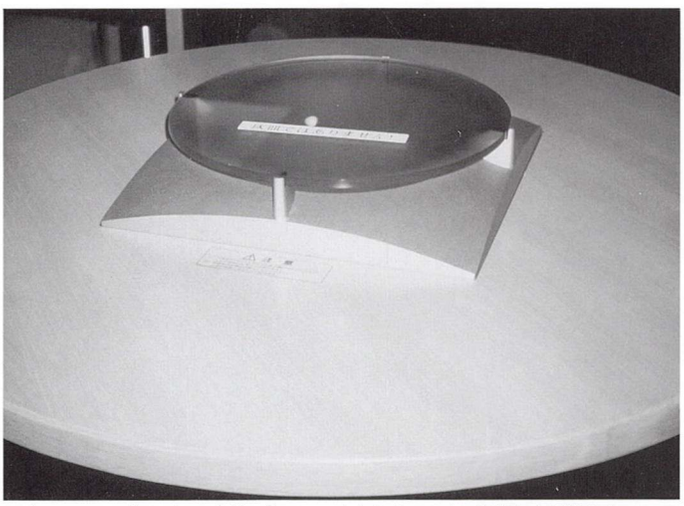


写真5　テーブル天板の装飾に「灰皿ではありません」の注意書きが貼られている

りに「灰皿ではありません」という注意書きが貼られているのも、灰皿と思って使う人が続出したからであろう（写真5）。

1980年代後半から商業建築を中心に爆発的に流行した「ポストモダン」の建物や、駅・公衆便所・電話ボックス・交番などの公共デザインの「ディズニーランダゼイション」[*5]も、結局は「らしくない」デザインをあふれさせただけで、主流にはなりえなかった。

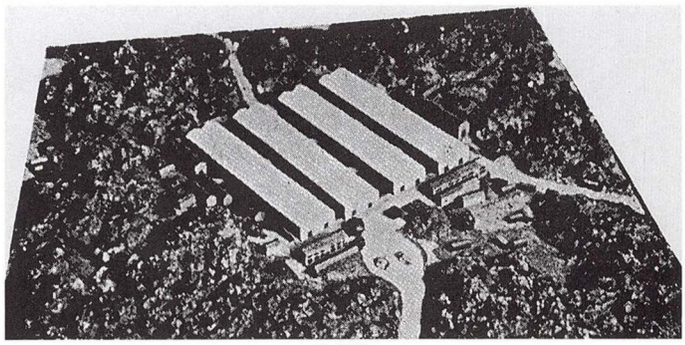
「らしくない」デザインの功罪

自然界には、天敵から身を守るために擬態という知恵を身につけた生物がいる。木の葉そっくりのチョウ、地の模様に合わせて色が変わるカレイやカエル、冬になると真っ白に羽が生えかわるライチョウなどがそうである。驚いたことに、第二次世界大戦末期には自然界に見られる偽装・擬態を研究し、工場などの重要施設の屋根に迷彩を施したり形態を工夫して爆撃目標からまぬがれる研究が、真剣に行われていた[*6*7]（写真6）。風致地区や美観地区、伝建地区に建つ建築は、周囲の景観に溶け込ませて存在感をなくすための「同化」や、緑化や地下埋設などで本体を隠す「隠蔽」などの手法がとられるが、これも生物の偽装・擬態の発想と基本的に同じである。これらのデザインの目的はきわめて明確であり必然性理解できるが、限りなく壁パネルと同化させたためどこが開くのかがわからないドア、池の前に玄関庇とまぎらわしい大きな庇があったために、夜中にタクシーが車寄せと間違えて池に突っ込んだという某ビル、水深が浅いうえに縁石が目立たないため、はまる人が続出した池（写真7）のデザイン意図は、いったいどこにあったのだろうか。

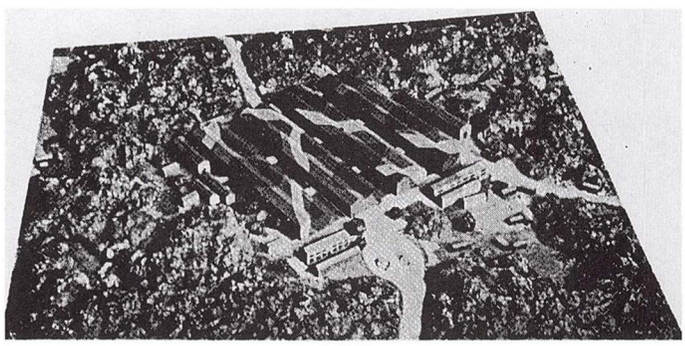
何のための・誰のためのデザインか

建築の外観デザインが機能の呪縛から解放されたとき、機能主義にかわる新たなデザインモデルの可能性が大きく開けてくるが、その一つに「らしくない」デザインがあげられる。だが、「らしくない」ことで無用の混乱や危険を生じるようなデザインは、今後しだいに淘汰されていくであろう。迷惑施設の心理的抵抗感の緩和、景観への配慮、環境デザインやインテリアデザインにおける阻害要素の視覚的消去を目的としたデザインへの要請がますます高まりつつある今こそ、デザイナーはそれにこたえる新たなデザインモデルを提示しなければならない。21世紀を目前にした今、何のための・誰のためのデザインかが問われている。

（よしむら　ひでまさ）



偽装前



偽装後

写真6　爆撃目標から免れる工夫―植林地における工場の偽装
（「防空と偽装」[*6]より）

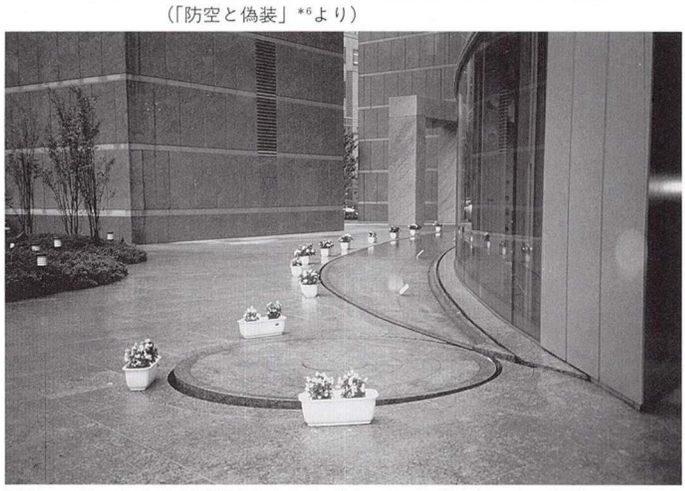


写真7　池にはまる人が続出したためプランターを並べることになり，せっかくの「デザイン」がだいなしになった

（参考文献）

＊1　小林克弘：臨海都心清掃工場　デザインの射程、新建築1994年11月号、p.271

＊2　アンドレア・ブランジ：再考―歴史観とデザイン観、デザインの未来像、pp.23-34、晶文社、1996年

＊3　嫌われない「迷惑施設」、日経アーキテクチュア、1997年8月11日号、pp.162-173

＊4　大窪健之：閉ざされゆくデザインと廃棄物問題、GA JAPAN 35、p.138、A.D.A. EDITA Tokyo、1998年

＊5　中川 理：偽装するニッポン、彰国社、1996年

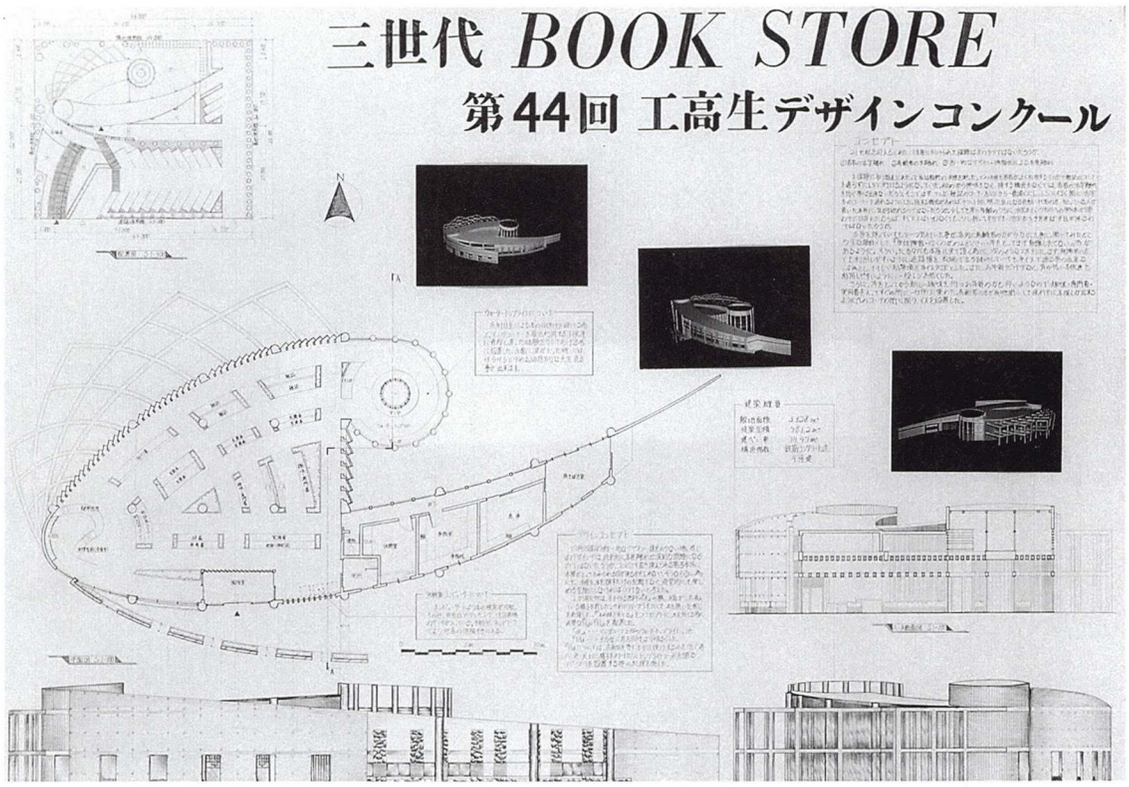
＊6　宮下孝雄：迷彩と偽装、成武堂、1943年

＊7　星野昌一：防空と偽装、乾元社、1944年

第44回 工高生デザインコンクール

設計課題／ブックストア

応募校数●43校　応募作品数●189点
締切日●平成10年 9 月30日　審査会●平成10年10月17日　表彰式●平成10年11月14日



入選・最優秀賞　**黒田太士**
（大阪市立工芸高等学校３年）

この本屋は、「誰もが利用しやすく、誰もがまた来たくなる」というコンセプトで設計しました。まず、バリアフリーの考え方を基にして、段差をなくし、車椅子の通れる広さ、老人の利用しそうなコーナーには椅子を設けました。子どもたちの利用しそうなコーナーにはウォータートップライトを設けるなどの工夫をしました。さらに開口部を多く設けて、現在の本屋のような暗さをなくし、陽の光を浴びる明るい本屋にしました。
今回、このような大きなコンペで最優秀賞を頂きまして、将来大変な自信になります。指導していただいた先生方、助言してくれた友達に感謝します。

審査総評

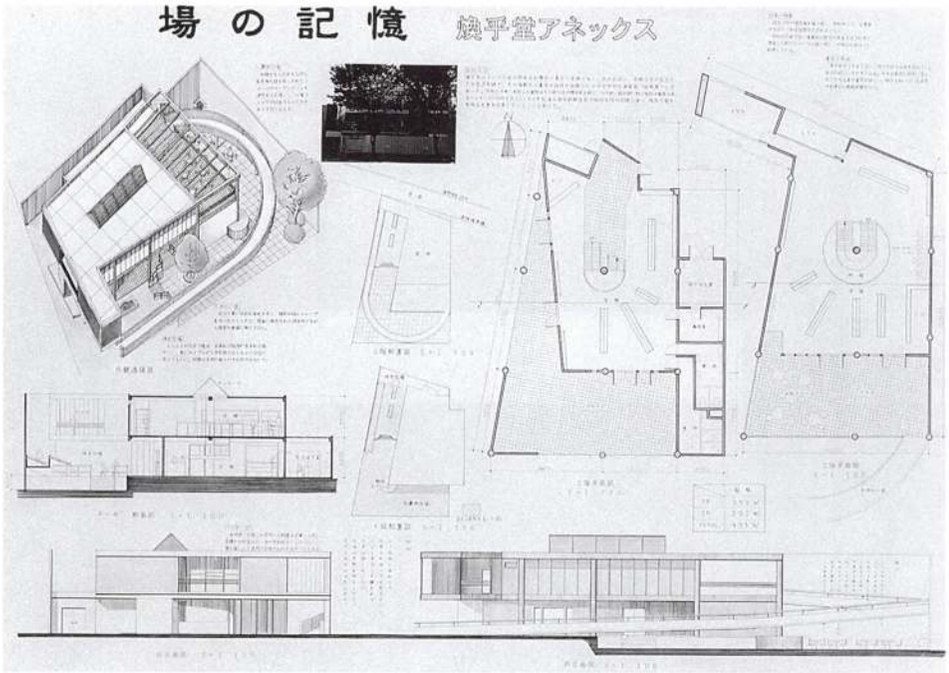
審査委員長　**本多友常**

コンペに応募する生徒たちの夢と不安、夜を徹しての創作、指導する先生方の声援と誘導、あらゆる思いが審査会場に集められた。しかしそこに込められた感情や努力のひだは、一瞬にして選別されるのが現実だ。自分が何を表現したいのか、実感の伝わらないもの、形の面白さだけにこだわる作品は早いうちに除外された。平・立・断面図を整えてオブジェのように建築を考える時代は、もう終わっている。そのことを学生の皆さんにお伝えしたいと思う。一つの建築が、街とのつながり、自然とのかかわり、利用者の心理、あるいは作者自身の心との対話、等々、何か一つのテーマについて深く掘り下げた作品は人の心を打って審査の俎上に載せられた。

審査の流れとしては今回の課題は図書館ではなく、街に成立し得るブックストアとして正面から立ち向かった案が高い得票を得た。詩情豊かなもの、保存問題を絡ませたもの、都市環境への提案、プレゼの完成度、など比較不能な種々相への線引きは大きな痛みを伴う。５次まで繰り返された審査は、当落を決める境界線の揺らぎを全員が意識していたからにほかならない。特に自己の内面性を、空間に投影しようとする案は気になる作品として残されていた。しかし表現へのこだわりが必ずしも高くないことが、賛否を分ける線上で揺らいでいた。

最優秀賞の**黒田案**は、木の精という物語性の構築と店内配置の考え方、プレゼの完成度の高さが評価された。しかし周辺環境との関連性がなく、単なるオブジェ主義に陥らないか気になる課題も残っている。優秀賞の**笛木案**は、白井晟一の作品を場の記憶として残すべく保存のあり方を提案したものであり、着想が賛同を集めた。スロープの下の雰囲気は果たして良いのかという疑問は残っている。**平原案**は、最寄り駅にはめ込まれたブックストアとして、課題に正面から立ち向かったことが評価された。日常性への小さな提案の積み重ねがすばらしい。以下入選案の**上前案**は、内面性を空間に投影しようとする姿勢と、大胆な壁の表現が、魅力的であった。しかし図面表現は丁寧さに欠けている。**林案**は住宅地に挿入された道草の楽しみが、さわやかな図面表現に託されている。しかしブックストアではなく図書館ではないかという点で、課題への焦点の当て方にやや疑問が残った。**伊丹案**は、本棚が建築の構造体となり、１冊の本を引き抜いたときその隙間に街の出来事を垣間見るという、都市の詩情にあふれたイメージとして秀逸であった。しかし図面表現がお粗末で最優秀を逃し、落選しなかったのはラッキーであったということをあえて指摘しておきたい。**佐藤案**は構造の考え方や緑の取り入れ方に深い配慮が感じられた。この案も図書館ではないかという点で若干の疑義が残っている。**阿部案**は地下に静められたチャイルドスペースが、子供連れの母や老人にとって、ゆっくりと本に親しめる空間となっている。**川畑案**も地下の安全なオープンスペースを提案しており、角地のショートカットを設定したのは、街角のプロトタイプとして提案的であったと言える。**野澤案**は世界の建築デザインを分析し、そこから自分の作品を位置づけるというかなり高度な試みをしている。このような方法は設計の後付けになりやすいので注意を要する。

最後に、毎年驚異的な確率で当選案を送り出している三重県立四日市工業はじめ、群馬県立前橋工業、群馬県立高崎工業、大阪市立工芸等々の、各高等学校先生方のご指導には特記して敬意を表しておきたい。



入選・優秀賞

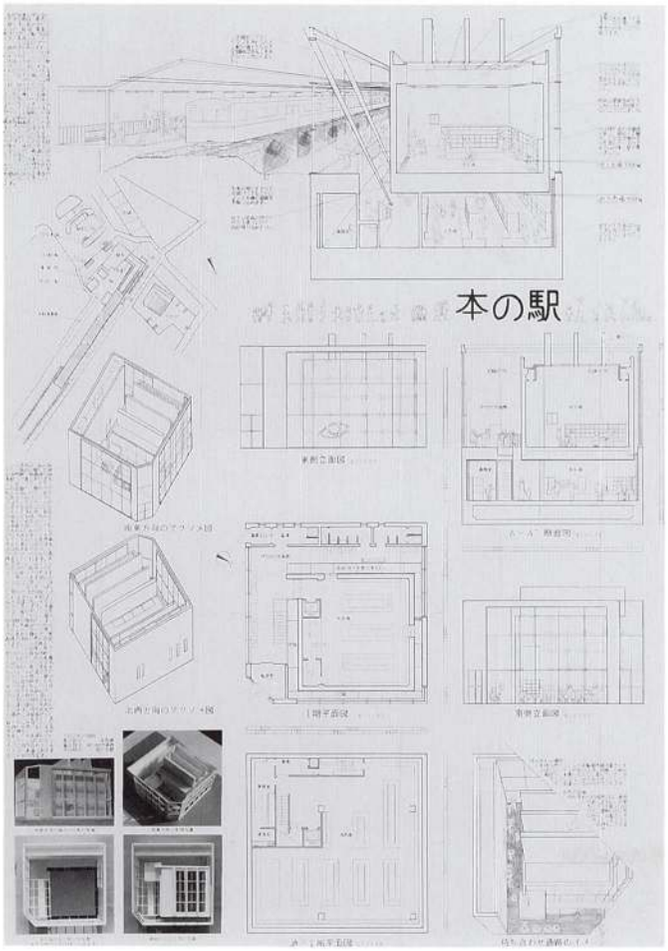
笛木　進

（群馬県立前橋工業高等学校３年）

ブックストアを計画するにあたって、まず思い浮かんだのはいつも利用している前橋市内にある焕乎堂という老舗の本屋でした。今は使われていない白井晟一設計の旧焕乎堂を知りました。そこで、旧焕乎堂を復活させようと考えるに至りました。

前橋の書店の顔である旧焕乎堂の正面を残し利用することで若者が文学に対する考えを改めて考え直す場になったらよいと思いました。何度も焕乎堂に足を運び資料を集めた毎日が思い起こされ、一つのことを成しとげ、認められた喜びと、協力して下さった人たちへの感謝の思いでいっぱいです。この経験を将来に役立てたいです。

入選・優秀賞　**平原彰子**（三重県立四日市工業高等学校３年）



ブックストアを考えるにあたって、一番あってほしい便利な場所を考えました。私は通学や休日に友達と遊びに行くとき、最寄りの駅で待ち合わせをしています。そこで、私たちがいつも待ち合わせる駅にブックストアを計画しました。駅のホームでの視線とブックストアの視線を合わせ、地上の本売り場を大きなガラスで囲い、その間の空間を待ち合わせの場所としました。優秀賞を頂いたと知ったときは他の人の事を言っているのかと信じられませんでした。アイデアがでなく苦しんだので、とても嬉しかったです。指導して下さった先生、友人、両親に感謝します。

●審査記録

９月30日　応募作品受理

10月13日　予備審査―応募作品について応募規定との検討（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月16日　事前審査―審査会欠席の審査委員２名による。

10月17日　審査会―審査委員12名

（審査時間13：50～18：00）

●審査経過

審査を開始するにあたり、今年の応募作品の多さ、応募校数が過去最多であったことなどの状況と、予備審査の結果、大きな違反が見られなかった旨の報告があった。

続いて、審査委員長より、審査方法・条件の内容などの確認を行い、審査に入る。

■１次審査（審査委員12名、事前審査２名）

全応募作品について、審査委員１名が10作品以内を選び投票する。当日欠席の審査委員２名の事前審査の投票（20点）を加える。

得　票	12	11	10	8	7	6	4	3	2	1
作品数	1	2	3	1	1	1	1	4	7	16

＊得票２以上の作品（21点）を１次審査通過作品とする。（審査時間13：50～15：00）

■２次審査（審査委員12名）

１次審査通過作品21作品について、審査委員１名が10作品以内を選び投票する。

得　票	11	10	9	7	5	4	3	2	1
作品数	1	3	2	2	3	2	2	3	3

＊得票９以上の６作品を入選とし、他の全作品について議論を行う。まず、得票１の作品について、投票した審査委員の意見を含めた議論を行う。その結果、得票１の作品は２次審査から除外する。得票２以上の作品について、１作品ごとに意見交換と議論を行う。

（審査時間15：35～16：55）

■３次審査（審査委員12名）

２次審査における得票７～２の12作品について、審査委員１名が３作品を選び投票する。

得　票	9	7	4	2	1	0
作品数	1	2	1	3	3	2

＊得票９と７の３作品を入選とする。

（審査時間17：00～17：25）

■４次審査（審査委員12名）

３次審査における得票４～０の９作品について、審査委員１名が１作品を選び投票する。

得　票	7	5	0
作品数	1	1	7

＊得票７の作品を入選とし、10作品の入選が決まる。

（審査時間17：30～17：45）

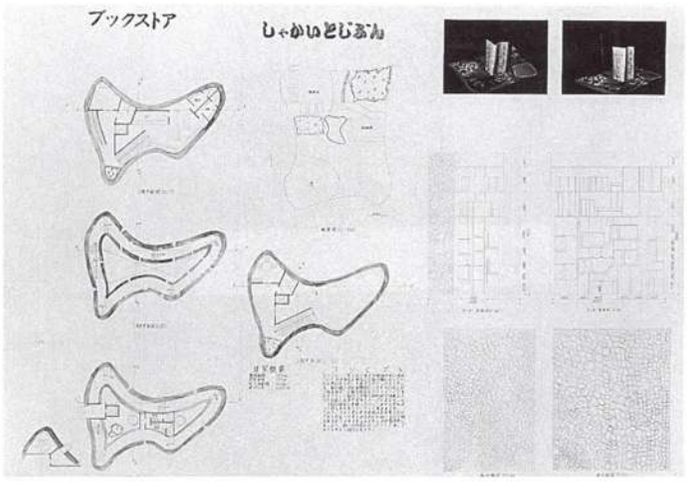
■５次審査（審査委員12名）

入選10作品を対象に、最優秀・優秀作品について議論を行い、審査委員１名が３作品を選び、それぞれに評価点（１位５点、２位３点、３位１点）を与えて投票する。

評価点合計	31	28	14	10	7	4	3	1	0
作品数	1	1	1	2	1	1	1	1	1

＊評価点の高い作品から、最優秀１点、優秀２点を決定し、審査会を終了する。

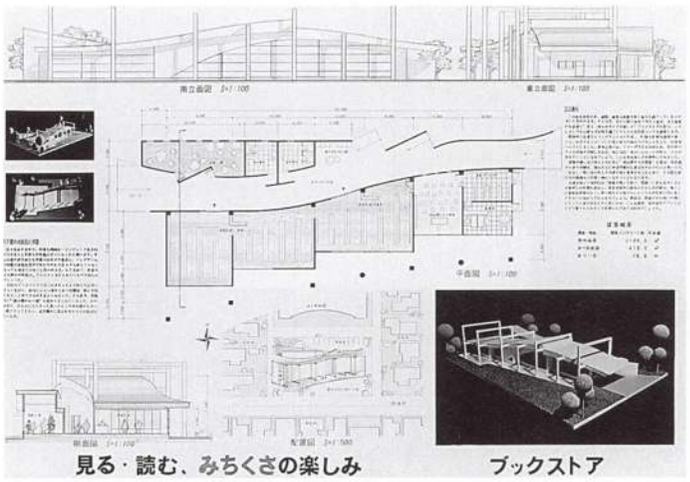
（審査時間17：45～18：00）



入選 **上前健太**（大阪市立工芸高等学校３年）

僕にとって「本」とはどんな存在かと考えたとき、「本」とは「自分」と「社会」との架け橋だと思いました。建物をこのような不整形な形にしたのは、どれだけ自分が本を読むかによって自分が変化することができると思い、社会に出る前の自分の状態を形態で表現しました。１周目、２周目は「自分」で、３階、４階は「社会」というイメージにしました。１階、２階にせず１周目、２周目としたのは、本を読むことによって社会人になっていくのを表現したかったからです。

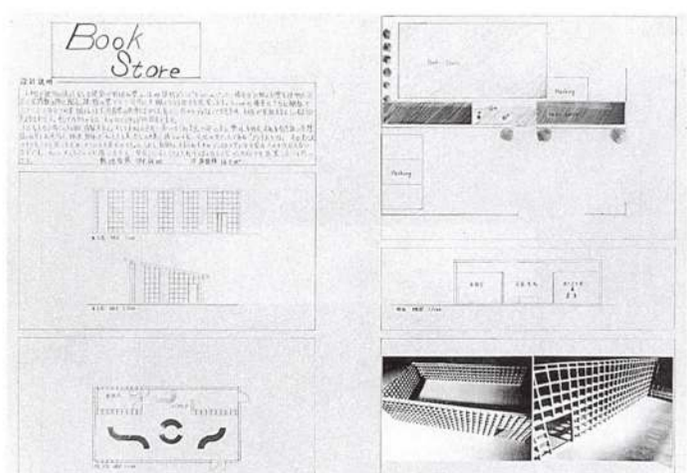
入選通知を受けたときは信じられませんでしたが、徐々に作品に費やした時間と努力を思い出します。



入選 **林　祥平**（群馬県立高崎工業高等学校２年）

若者の活字離れをどう解決していくか、という点に興味を持ち、設計に取り組みました。まず、子供たちにターゲットを絞り、本への興味、関心を持たせるために“読み聞かせの場”を設けました。また、足取りの重い通勤途中の近道に“見る・読むみちくさの楽しみ”ブックストアを通ってもらおうと思いました。この近道を中心として街の人々が集まるブックストアを考えてみました。

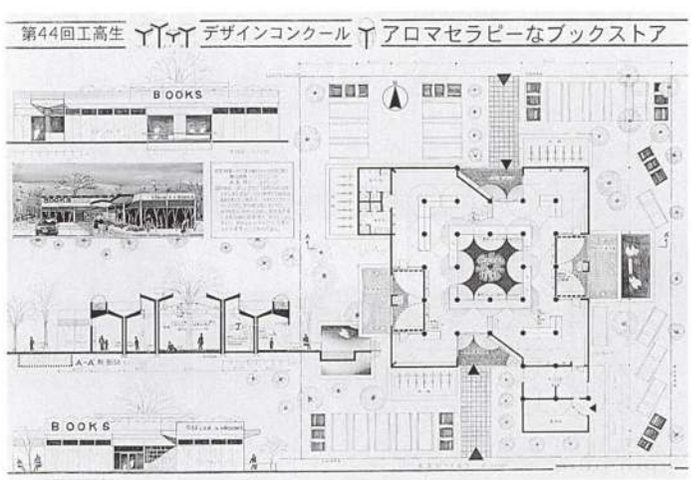
夏休みの前から取りかかり、毎日のように登校した日々を思い出しました。応援してくれた友人、両親、そして先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。この喜びを忘れず、来年も挑戦したいです。



入選 **伊丹さやか**（東京工業大学工学部附属工業高等学校３年）

この課題は、「課題研究」という授業の中で取り組みました。建物の構造は、一般的にも良く知られている２×４構法を応用した建築を提案しようと考え、制作を始めました。設計は難しく、担当の先生に相談しながら、やがて、本と空間の関係も具体的になり、模型によって「形（かたち）」にすることにしました。

考えるのに時間がかかりすぎて、全体の表現に全く自信を持っていなかった私は、先生から入選通知を受けたときは、何かの間違いかと思いました。しかし、自分のアイデアが認められて、うれしかったです。



入選 **佐藤智子**（静岡県立静岡工業高等学校定時制３年）

設計課題をみて、まず本と出合う空間、本を読む空間とはいったい自分にとってどうなのかを考えました。どんな所なら自分の世界に入っていくことが出来て、落ち着いて本を読めるかを考えたとき、涼しい木陰で自然を感じながら……、に思い至りました。林の中のような空間の本屋をイメージし、郊外の林に設定し、駐車場以外、自然を壊さないようにしました。

入選したと聞いたときは、まさか３年生で入るとは思っていなかったので、大変うれしく思いました。初めて設計の楽しさを知りました。入賞の栄誉を勝ち得たことに感謝し、今後も頑張ります。

■課題の趣旨

今、あなたにとって「本」とはどのような存在でしょうか。生活情報の収集や娯楽として楽しめるものから、その人の生き方に強い影響を与えるものまで、「本」には様々な可能性が秘められています。そんな「本」との出会いが生まれる身近な空間として、ブックストアがあります。

最近は、郊外に広い面積の売場と駐車場を完備し、ＣＤ・ビデオやファーストフードなどの販売コーナーを付設する大型の店舗が、全国のいたるところで見られます。それらは大きな看板ばかりが目立ったり、建築的にみて、画一的なものが多いように思われ、また、書籍の売場にはマンガなどが幅をきかせ、若者の活字離れを象徴しているかのようです。

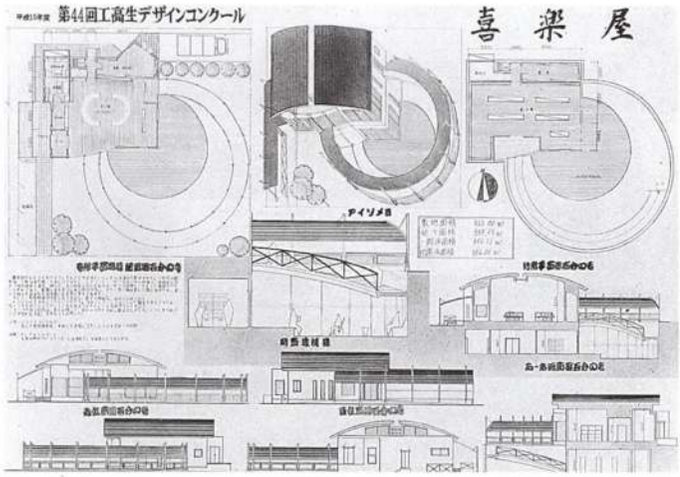
この課題では、まず、「自分」と「本」との関係を再認識することから出発し、自分なりのブックストアのあり方を形にして下さい。21世紀に向けて、新しいブックストアのデザインを期待します。

■設計条件

1. 敷地／敷地の大きさ、形状ともに自由。
2. 規模／延べ面積は自由とする（ただし、上限は500㎡）。独立の建築物とし、構造・階数は自由。
3. 所要室／書籍売場・荷さばき室・倉庫・事務室・便所などを適宜設ける。また、書籍販売のほか、必要と思われる他の売場などを付設してもよい。
4. その他／駐車・駐輪スペースなどの屋外施設を計画する。

■所要図面

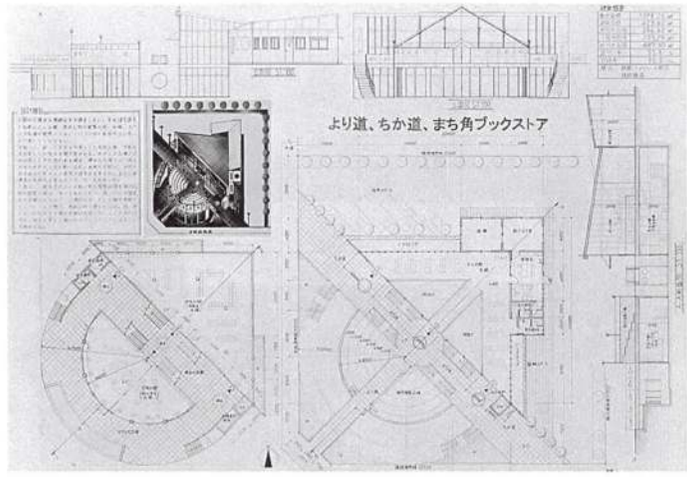
1. 配置図／縮尺自由（敷地、建築物、駐車・駐輪スペースなどの屋外施設と道路や周辺の状況を示し、寸法・方位を記入する）
2. 各階平面図／縮尺1：100
3. 立面図／縮尺1：100（２面以上）
4. 断面図／縮尺1：100（１面以上）
5. 透視図／設計意図を表すところ（アイソメも可）。模型写真に替えてもよい。
6. 設計説明／設計趣旨（立地についての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）設計意図を表すサブタイトルをつけること。
7. その他／平面図・断面図には室名・寸法を記入する。その他必要と思われる図面を描いてもよい。



入選　**阿部隆道**（兵庫県立尼崎工業高等学校１年）

最近のブックストアと言えば、１階部分が駐車場、２階部分に売り場があるケースが多くなりました。それに、小さい子どもを持つ人たちにとっては、子供たちの活字ばなれが気になります。また、老人や車椅子の人たちも階段があると利用しにくそうでした。そこで、「子どもをつれて、なおかつ本をゆっくり選べ、そして老人や車椅子の人たちも利用しやすい本屋にしよう」と思い、計画しました。バリアフリーを基本的な考えとして、チャイルドスペースを設けるなど、気楽に利用できます。

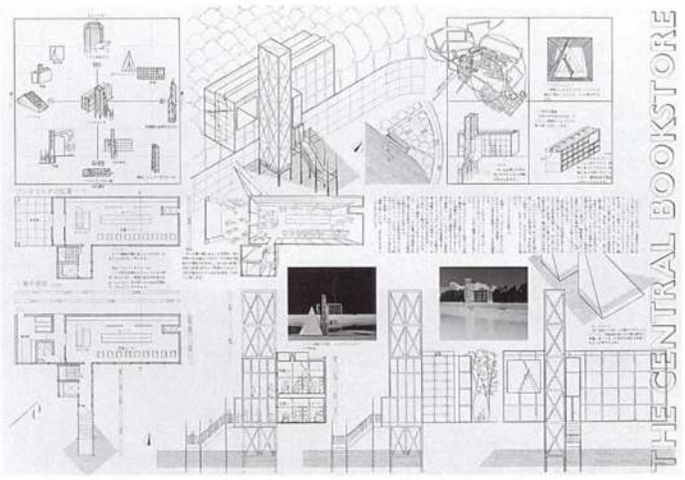
入選の知らせを聞いたときから徐々に、喜びと達成感が込み上げてきました。指導下さった先生方に感謝します。



入選　**川畑絵理子**（兵庫県立龍野実業高等学校３年）

年齢によって読む本は異なるので、「幼・小学生売り場」「中高生売り場」「一般の売り場」と売り場を上下に分離しました。人間の心理から近道を通るとストアの前に来てしまい、ついついストアに入ってしまったり、滝の音を聞きながらオアシス広場に導かれたり、より道をしてしまいます。土曜の夜、野外で映画会もできます。ここに来れば何か楽しいことがあるのです。

コンペに参加するなら、入選できるように頑張ろうと思い作品を仕上げました。入選通知を受け取り、とてもうれしかったです。指導して下さった先生や応援してくれた友達に感謝します。今後も頑張ります。



入選　**野澤昌代**（三重県立四日市工業高等学校３年）

今回の課題は「ブックストア」ということで、私が今まで行った本屋でどこへ行ってもなかった「くつろぎ」を考えてみました。

敷地は、住宅地や工場のある土地の池の前にしました。このような土地に設けて、昼休みや家事の合間などにゆっくりした時間を過ごしてもらうための本屋です。池に面する壁はガラスにして自然と接し、広がりをもたせ、外壁には看板を用いず、建物全体でアピールする空間構成です。

この課題に取り組むことによって充実した夏休みになり、入賞してさらに楽しい思い出になりました。先生方や励ましてくれた友達に感謝します。

上記の入選者の感想文は、誌面の関係上、委員会にて要約の上掲載しました。
（文責・小久保到／教育委員会）

審査員（50音順・敬称略）

委員長　本多　友常／和歌山大学システム工学部環境システム学科教授
委　員　石川　康介／近畿大学理工学部建築学科助教授
　　北村　　潤／㈱東畑建築事務所設計部設計課長
　　黒田　智子／武庫川女子大学生活環境学部講師
　　設楽　貞樹／㈱安井建築設計事務所設計部専門部長
　　田中　英一／大成建設㈱関西支店設計部設計部長
　　高橋　武史／㈱フジタ大阪支店設計統括部主席コンサルタント
　　中村　勇大／京都芸術短期大学造形芸術学科専任講師
　　檜垣　晴夫／㈱昭和設計取締役企画・設計部長
　　平山　明義／㈱平山明義建築設計事務所所長
　　舩橋　昭三／㈱大林組本店建築設計第３部部長
　　安原　盛彦／安原建築設計事務所主宰
　　與謝野　久／㈱日建設計常務取締役大阪本社代表
　　吉羽　逸郎／㈱アイ・エフ建築設計研究所代表取締役
　　吉村　英祐／大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻助教授
＊審査員の所属は募集時のものです。

■応募学校（順不同）

北海道	美唄工業高等学校	国立東京工業大学工学部附属高等学校	福井県立	武生工業高等学校	兵庫県立	尼崎工業高等学校	熊本県立	熊本工業高等学校
岩手県立	盛岡工業高等学校	横浜市立 鶴見工業高等学校	〃	敦賀工業高等学校	〃	龍野実業高等学校	大分県立	鶴崎工業高等学校
秋田県立	秋田工業高等学校	山梨県立 甲府工業高等学校	富山県立	高岡工芸高等学校	〃	東播工業高等学校	私　立	楊志館高等学校
〃	横手工業高等学校	静岡県立 静岡工業高等学校	滋賀県立	八幡工業高等学校	〃	豊岡実業高等学校		
福島県立	勿来工業高等学校	〃 静岡工業高等学校定時制	大阪府立	今宮工業高等学校	岡山県立	岡山工業高等学校		
栃木県立	宇都宮工業高等学校	私　立 名古屋工業高等学校	〃	今宮工業高等学校定時制	広島県立	広島工業高等学校		
群馬県立	館林商工高等学校	岐阜県立 可児工業高等学校	〃	西野田工業高等学校	愛媛県立	吉田高等学校		
〃	高崎工業高等学校	〃 岐南工業高等学校	大阪市立	工芸高等学校	福岡県立	戸畑工業高等学校		
〃	前橋工業高等学校	三重県立 伊勢工業高等学校	〃	都島工業高等学校	長崎県立	長崎工業高等学校		
埼玉県立	大宮工業高等学校	〃 四日市工業高等学校	和歌山県立	和歌山工業高等学校	〃	大村工業高等学校		

山中　孔



□ おいたち

1925年1月　京都の北園町で生まれましたが、京都には付属小学校1年までででした。同期には財界で活躍中の堀場雅夫会長、京都国際会議場の設計をした沖　種郎君がいます。

京都を離れてからは松江を経て、本籍の鳥取で小学校・中学校を卒業しました。これで生まれは京都、出身は鳥取ということになります。浪人1年を高松中学の補修科で過し、岡山の第六高等学校から京都大学の建築学科に籍をおいたのは1945年敗戦の年でした。

敗戦を迎えて世情は混乱し我々も途方にくれましたが、大学の森田、坂、村田の3教授はじめ先生方は少しも動ずることのなかったことが強く印象に残っています。

正に真理探究の途は不変であることを身をもって教えていただいた思いです。

□ 鳥取地震：木造住宅の耐震性

1943年六高に在学中、夕刻強い振動を感じ驚きました。きけば震源は私の第2の故郷の鳥取とのことで、人口数万の小都市で5000戸を失う壊滅的な損害をうけました。

大学のゼミは横尾先生の指導をうけており、この地震の調査にも参加できました。そこで主な課題は、地震の大きさもさることながら、その中でなお残っている木造住宅の調査で、これが私の担当でした。残っている木造住宅の平面図を1戸1戸おこしているうちに気のついたことがありました。それはどの住宅もその壁の配置に何ともいえないよいバランスのあることでした。当時のことですから壁に筋交いはありませんが、貫・小舞をうった古来の土壁のよい配置が住まいの耐震性を高めているとみました。

卒論は、これをテーマに「木造住宅の耐震性」とし古来の土壁工法と均衡のとれた壁配置について述べています。

建築基準法に新しくとりいれられた壁率の設定にも役立っているのではないかと思っています。神戸震災後に強調されている木造耐震のためには筋交い一辺倒の議論にも古典の示唆するものも加えてほしいと思っています。

□ 竹中工務店：職住遊学

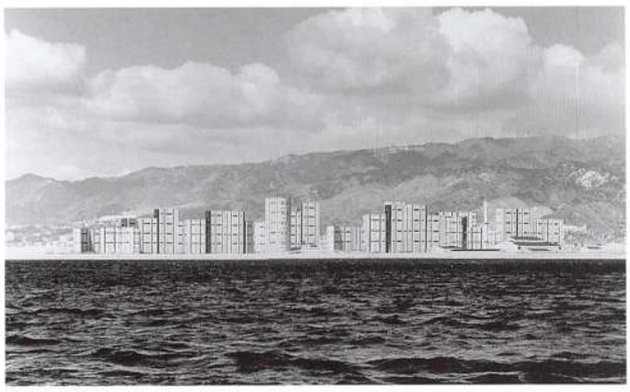
1948年京大をでて設計をやりたくて、小林仙次建築事務所に入りました。小林先生は同愛記念病院の設計主任を担当し、病院のこれからのあり方を探って活動していました。国公立病院・炭坑病院の設計を手がけ、後年は鉄筋コンクリートになりましたが、その殆どは木造でこれについては得難い経験をしました。ここで学んだのは標準化の重要性でした。標準詳細、標準仕様、施設標準などは今でもいきる考え方だと思っています。

1952年、縁あって竹中工務店に入社し、望んで設計部に配属されました。その頃の設計部は全店で200名足らずだったと思いますが、戦後復興が軌道に乗りつつあって日本の将来に役立つ建築は何かなどを議論していました。竹中の設計に携って40年、よく何をやってきたかと聞かれますので、いつも職住遊学に層別して話をしています。それは、建築は生活のためにあり、生活は職住遊学で構成されると考えているからです。

● 職：大阪国際ビルディング　1969

'60年代半ばを過ぎると超高層時代がはじまり、建築の竹中として設計施工一貫方式で実現したい希望と大阪再興には船場再開発が必須で「船場の塔」をその旗印としたいとした施主の考え方が一致して実現した忘れられないプロジェクトです。

これからのオフィスモデルの一つにしようということで、自然採光を考えたオフィススペース、オフィサーのための食堂などのコミュニティスペース、都心に緑を再生するオープンスペースなどに特色をもっています。加えてメンテのための電算機活用、省エネのための空気熱源の空調システムなどは当時としては先行した考え方で、これも施主の優れたコンセプトに因るところが大きいと思います。



芦屋浜高層住宅街

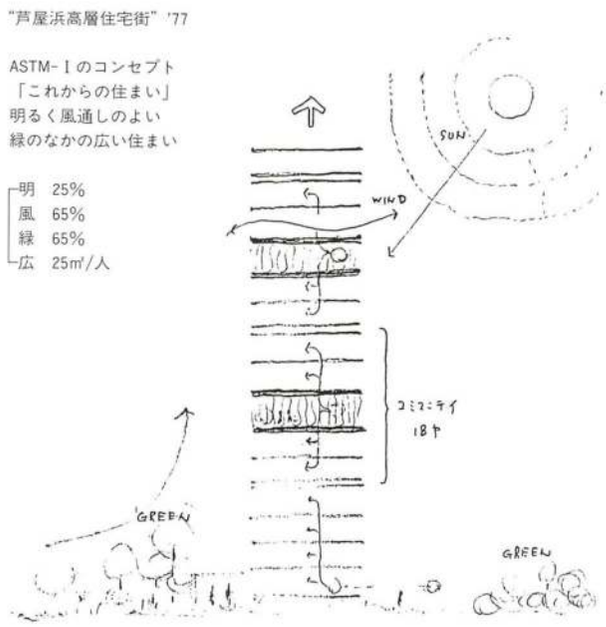
● 住：芦屋浜高層住宅街　1977

量から質に転換しつつあった住政策に基づいて、限られた土地の高度活用、コンパクトシティをめざしたプロジェクトです。20年を経て震災による損害も一部に蒙りましたが直ちに着手した復旧工事も完了し、穏かな生活がもどってきています。定住希望も70%と高くニーズに応えられているものと考えています。

ねらいとしては、緑のオープンスペース、10㎡広い居住スペース、コミュニティのための空中公園などがあり、良質廉価をめざす工業化工法、無被覆の厚鋼柱などは今にいきるテーマでしょう。

なお、コミュニティをスペースとして計画した、空中公園は必ずしも十分な効果をあげていませんし、駐車場などは緑のための別の考え方があり、社会のニーズに応える情報幹線のレベルアップなどは、次の ASTM-IIで改善したい課題と考えています。

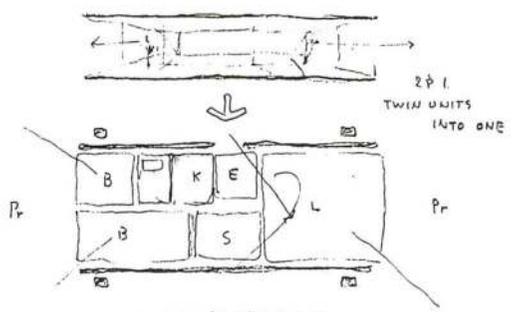
環境についてよく語られていますが、私は環境の両端に緑とゴミがあると考えています。このプロジェクトで実現した真空集塵システムなどはこれからの住まいに常設すべき機能と思っています。



"ASTM-Ⅰ　コンセプト"

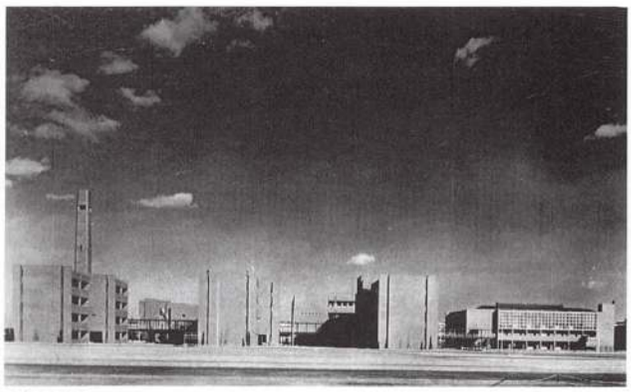
● 遊：阪急三番街　1964

阪急電鉄は乗客最優先を社是として優れたサービスを提供していますが、都市化によって乗客数は年率6%の延びを続け、よいサービスのためには旧駅に倍する機能を求められていました。新駅実現のためには事業を支える収益施設の成立がキーでした。多くの調査を委託しましたが、当時はいずれも環状線の外では成立たないということでした。しかし、それでは困るので衆知を集めることとしましたが、この危機感と緊張感が、高い評価を得た創造の原動力になったと考えています。討論の主流は市民によろこばれるものは何かで、よろこばれれば必ずビジネスに展開できるというものでした。状況を調べてみると、かつての「八百八橋の水の都」が失われてその再生が待たれていることがわかってきました。川が汚れ堀川も埋め立てられつつあった大阪で、清冽な水の流れを大きなスケールで提供



L. A.リビングアクセス


阪急三番街


武庫川学院

すれば必ず市民がよろこんで集まってくれるだろうというねらいでした。
テーマがわかれば、それにどう応えるかだけでした。幸に成功しましたが、これは阪急が顧客第一、顧客によろこばれるために阪急ありとする理念が生きたものでしょう。「よろこばれて　ビジネスに」この考え方のモデルともいえそうです。

● 学：武庫川学院　1962
環境が人をつくるといわれますが、学院の基本的な考え方は人づくりに役立つ環境をつくることにありました。
当時は効率重視の考え方が支配的でしたが、学院は人格形成の教育の永遠性から、長期的な視点にたった魅力ある学園環境をつくることを最重要視されていました。
ねらいとしては、基本となるクラスルームは明るく風通しのよい緑のなかの広い教室とし、学年単位のクラスタープランとしました。上足下足のための空中廊下、機能別パビリオンなどの構成はこの学院を特徴ある表情にしています。
デザインの３要素、リズム・バランス・プロポーションのあり様や光や影に配慮した炻器タイルによる表現は、30年をこえて大きく育った緑と共に今なお当時の佇まいを残しています。

□ 匠３分に施主７分
江戸時代の言葉です。われわれは建物をつくる、そして建物はわれわれをつくるといわれ建物と社会の関わりは大きいのですが、長い生命をもつべきよい建物はやはり施主の優れた見識によるところが大きいといえましょう。永く設計に携ってきてこの言葉の意味の大きさを痛感しています。そして私の設計人生に多くの優れた施主に恵まれたことに、心から感謝しています。

□ これからの住まいを千里に考える
建築を志して半世紀、ふりかえってみてその大きい部分は、住まいにありました。建築は住まいに始まり、住まいに終わるといわれますが20代の頃縁のあった病院の院長に頼まれて新婚夫婦のための６坪ほどの離れを設計をしたのが始まりで、今日まで住まいから離れたことはなかったといえそうです。
私は残された人生に「これからの住まい」のために古語に「死而後已」とありますが、この研鑽を生涯つづけたいと考えています。
千里ニュータウンは皆さんご存知の通り、ニュータウン第１号で住宅の量不足を解決すると同時に、人格形成に関わる住まいとその環境のこれからを探って、多くの識見を集約した輝ける都市であったといえるでしょう。しかし、30年を経て高度化、多様化する住まいのニーズに必ずしも応えきれなくなりいくつかの課題が顕在化しています。この課題解決の方策を探ろうとして千里の日本総合試験所理事長・横尾先生が提唱され、巽、紙野両先生が賛同されて活発な活動がはじまった千里21研究会に私も参加して勉強しています。
千里ニュータウンは30年前、あるべき都市をめざし、乏しい財政の中から捻出した公共投資によりインフラも整備されました。しかし、計画15万の人口は、1975年の13万人をピークに低下をはじめ、1995年に10万人、2015年には８万人と推計されています。周辺地域の人口は増えているのに、都心から10kmのこの好立地に、ブラックホールが生まれそうな状態です。識者の一人は無責任にも、東京の多摩と共に近い将来廃虚になると公言しています。
先達が苦しいなかから残したこの遺産がこのままでいいでしょうか。東京、大阪の住まいの主力である共同住宅の満足度が35％と低くて欧米の70％に及ばない主因の一つを千里のあり様が示しているようにも思えます。
「これからの住まいを千里に考える」この課題に私も及ばずながら有志と共にチャレンジしたいと考えています。

やまなか　とおる

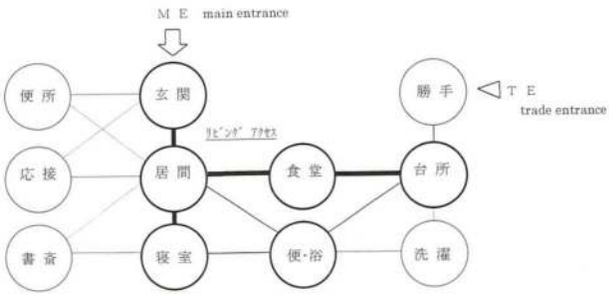
1925　京都に生まれる
1948　京都大学工学部建築学科卒業
　　小林仙次建築事務所入社
1953　株式会社竹中工務店入社
1968　設計部長
1972　住宅事業本部長
1981　日本建築学会賞（業績）
　　「芦屋浜高層住宅事業の企画と実施」
1984　常務取締役設計分担
1991　専務取締役設計分担
1996　竹寿会会員　亭々亭主宰

―主な作品―

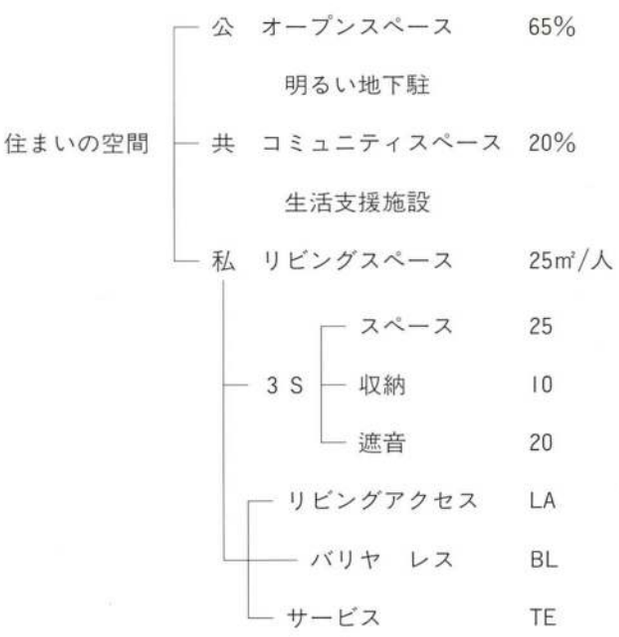
1962　武庫川学院中学・高校・大学
1964　阪急梅田駅　阪急三番街
1969　大阪マーチャンダイズマート
　　大阪国際ビルディング
1978　芦屋浜高層住宅街

これからの住まい　コンセプト

1．リビングアクセス



2．空間の構成と役割



□ 建築士は「サムライ」である

博士、学士、弁護士、会計士などは特に国が選抜した「士」でしょう。建築士も同様に重要な役割があると思います。

新渡戸稲造は、英文で著わして、世界的にも評価の高い名著「武士道」で日本人の行動の規範に武士道があり、果たすべき任の第１に「義」をあげています。義とは「やるべきことをキチンとやる」ことで、そのためには時に命をかけると説いています。

社会の現状をみると、日本人の心になにか迷いがあり荒れたものを感ずるのは私だけでしょうか。「住まいづくりは人づくり」といわれ住まいの重要性は語られていますが、特に共同住宅の現況の改善に建築士が「サムライ」として果たすべき役割は大きいと考えています。同憂の士と共に精進をつづけていきたいと念願しています。

インタビューを終えて

企業人でありながら、企業人を遙に超えて、常に社会的視点から建築を語り、実践してこられた山中さん。退職された現在も多方面から詳細なデータを集め、次の世代に引き渡すべき住宅や都市環境のあり方を構想されている真摯な姿に、本当の意味での「建築家」像を見る思いがしました。

（髙田光雄・京都大学大学院助教授）

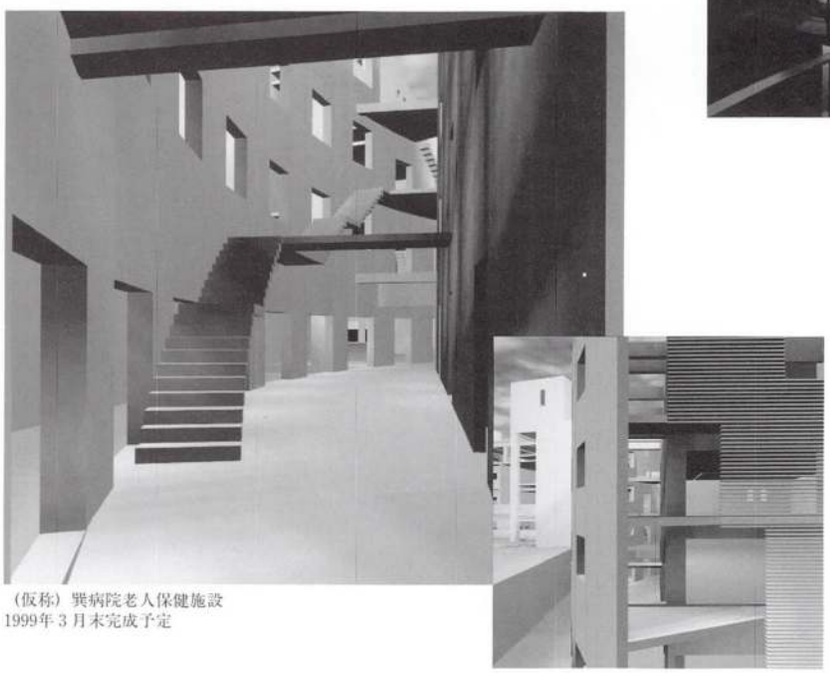
Watching

建築家の事務所を訪ねて
ー塚口明洋建築研究室ー

持ち主にとって、本棚にある本はもう過去のものである。今はもう、その内容さえ忘れてしまっているかもしれない。けれど、持ち主の過去の経歴が間違いなくそこにあるのだ。手に入れた瞬間は、持ち主にとって最大の興味の対象であったはずだ。
このシリーズは、建築家たちの本棚を拝見することによって、彼らが抱いた興味や思考をほんの少し覗かせてもらおうというものである。
今回は、塚口明洋氏の本棚を覗いてみよう。



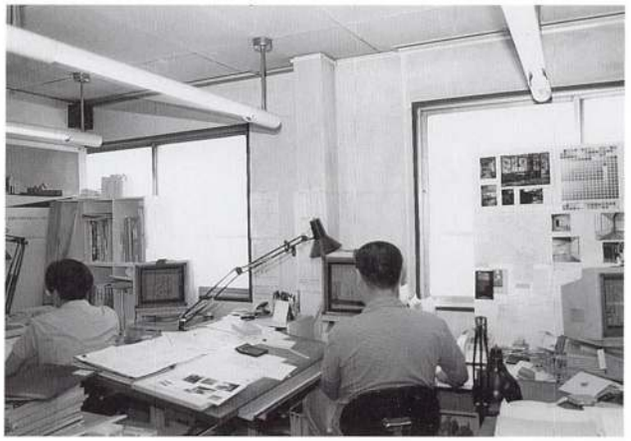
関大前の家（1987年）



（仮称）巽病院老人保健施設
1999年3月末完成予定

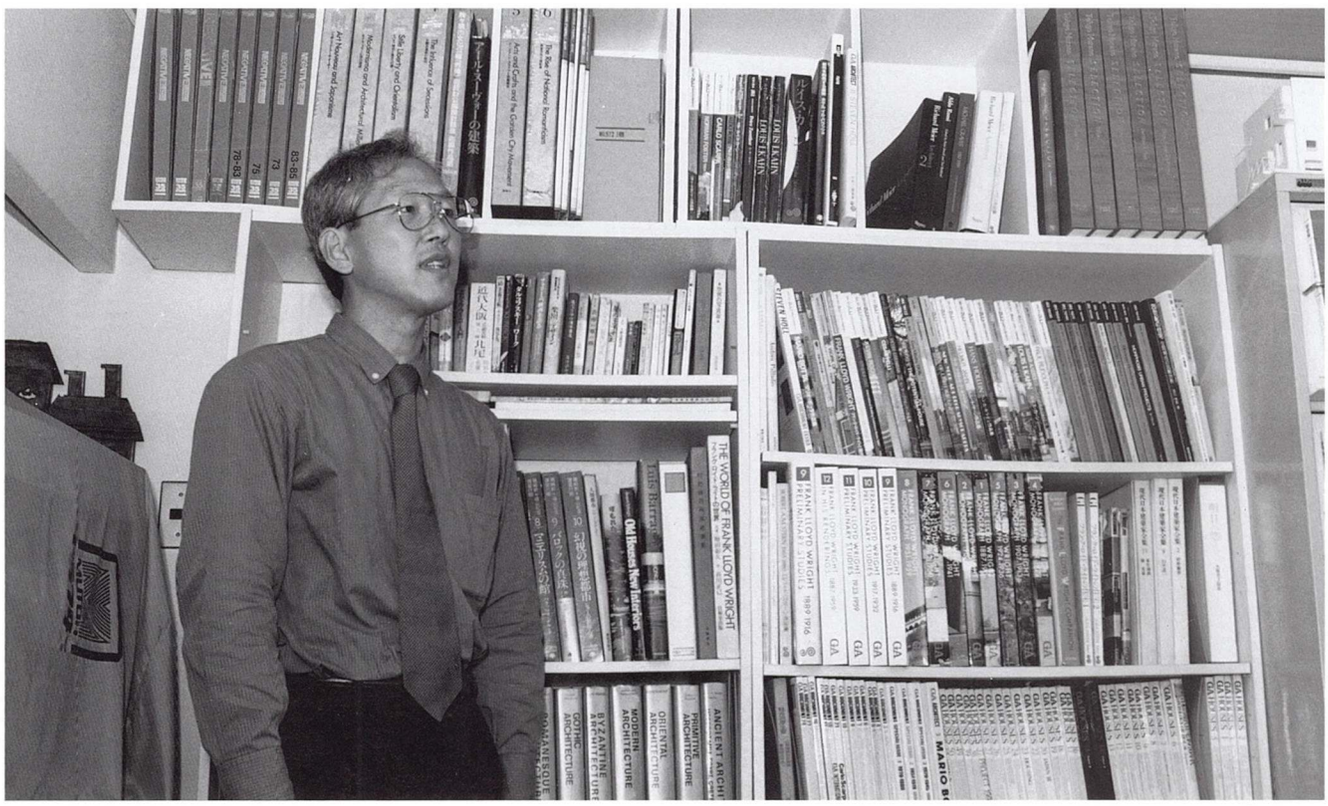


▼事務所内風景



Akihiro Tsukaguchi
1949年　大阪府生まれ
1974年　大阪大学大学院修士課程修了
1983年　㈱塚口明洋建築研究室開設
1988年　大阪府建築士会　渡辺節賞受賞
「関大前の家（自邸）」
1993年～大阪工業大学講師
1993年　奈良市奈良建築文化賞景観賞受賞
「修徳ビル」
1996年　大阪府営泉大津なぎさ住宅設計競技優秀三席受賞

私 の 本 棚



■ 24冊の本

異邦人	カミュ
城	カフカ
水中都市	安部公房
星の王子さま	サンテグ・ジュペリ
シュールレアリズム	アンドレ・ブルトン
たいくつな話	チェーホフ
芸術の草の根	ハーバード・リード
現代日本の精神構造	貝田宗介
ユング心理学への招待	ホプケ
フェリーニ映画を語る	フェリーニ
ピーター・グリナウェイ	イメージ・フォーラム
七つの夜	ボルヘス
空間としての建築	ブルーノ・ゼヴィ
日本の都市空間	伊藤ていじ
都市の景観	ゴードン・カレン
都市のイメージ	ケヴィン・リンチ
パターンランゲージ	C.アレグサンダー
アルド・ロッシ自伝	アルド・ロッシ
建築論	森田慶一
建築の構造	M.サルバドリー
住宅論	篠原一男
ライトの住宅	F.L.ライト
空間へ	磯崎　新
建築に何が可能か	原　広司

Director/Hitomi TSUJIKAWA

大阪市における総合設計制度の活用事例

加藤照男
大阪市計画調整局建築指導部指導課長

大阪市では総合設計制度を積極的に推進しており、昭和48年の制度導入以来、許可件数は566件、生み出された公開空地は約80ha(天王寺公園の約3倍)の広さになっている。また、総合設計制度により供給された住宅は約46,000戸となっている(平成10年10月末現在許可実績)。

大阪市の総合設計制度の変遷

大阪市では昭和48年に総合設計制度の指導を開始して以来、昭和49年に全国に先駆けて共同住宅の容積割増し係数の引き上げを行った。昭和54年にはおおむね大阪環状線の内側エリアを対象に、大きな容積ボーナスを受けることができる「都心住宅優遇ボーナス制度」(平成6年の制度改正時に「都心居住容積ボーナス制度」に名称変更)を創設し、都心部の人口呼び戻し策の大きな柱のひとつとして役立っている。

また、平成2年には大阪の文化振興の促進を図るために「文化施設容積ボーナス制度」、平成3年には駐車場問題を解消する手立てのひとつとして「駐車場容積ボーナス制度」、平成8年には大規模な住宅系プロジェクトを促進するために「住宅特化型総合設計制度」を創設した。

さらに、平成10年1月には、敷地の共同化を促進するために敷地規模などに応じた容積割増し方式を導入するとともに、保健・医療・福祉に関する施設整備を促進するため、「医療・福祉施設容積ボーナス制度」を創設し、現在、本市の総合設計制度は**表1**のようになっている。

表1

総合設計制度による容積割増し
- 店舗、事務所などの容積割増し
  - 1．一般の総合設計制度
- 共同住宅の容積割増し
  - 2．市街地住宅総合設計制度
  - 3．都心居住容積ボーナス制度
    - ①都心居住容積ボーナス制度(第2種住居、準住居、近隣商業地域)
    - ②都心居住容積ボーナス制度(商業地域)
- 特定施設の容積割増し
  - 4．特定施設容積ボーナス制度
    - ①文化施設容積ボーナス制度
    - ②医療・福祉施設容積ボーナス制度
    - ③駐車場容積ボーナス制度
      - ア．駐車場容積ボーナス制度(一般型)
      - イ．駐車場容積ボーナス制度(共同住宅型)

大阪市における総合設計制度の活用事例

大阪市における総合設計制度を、(1)都心居住の促進、(2)市街地環境の整備、(3)総合設計制度適用建築物の集積・連担の視点から見て、おのおのの代表的な事例を紹介する(**表2**参照)。

表2　紹介事例の概要

名　称	所在地	敷地面積 ㎡	延べ面積 ㎡	基準容積率→実効容積率%	公開空地実面積㎡	高さ m
リバーカントリーガーデン京橋	城東区新喜多	5,251	51,107	471→770	1,648	128.0
桜宮リバーシティ	都島区中野町	43,413	150,435	213→303	19,590	130.5
阪急茶屋町ビルディング	北区茶屋町	14,666	96,793	484→571	3,721	149.1
大阪松竹座	中央区道頓堀	1,820	11,253	618	250	34.4
大阪国際会議場	北区中之島	9,952	67,031	586	3,753	104.5
魚の棚筋	中央区北浜	1,231～2,085	7,756～15,418	600→592～703	225～602	30.2～59.7

1) 魚の棚筋には、銀泉横堀ビル(斜線緩和のみ)、山之内高麗橋ビル(斜線緩和のみ)、住友海上大阪ビル、淀屋橋ダイビル、銀泉淀屋橋ビルの5件の総合設計適用物件が集積。
2) 松竹座、国際会議場については斜線緩和のみで、容積緩和はしていない。

(1)都心居住の促進

①リバーカントリーガーデン京橋　JR大阪環状線京橋駅に近接した、現在建築中の分譲マンション。都心居住容積ボーナス制度を適用し、割増し後の容積率は770%(約300%の容積ボーナス)になっている。

住戸数410戸、住戸専有面積は約60～108㎡、階数は地下1階、地上40階建てで、公開空地内にはハーブなどの草花を植えるとともに、ローマ遺跡風のしつらえを行う予定になっている(**写真1**)。

②桜宮リバーシティ　総合設計制度と大規模な住宅プロジェクトが

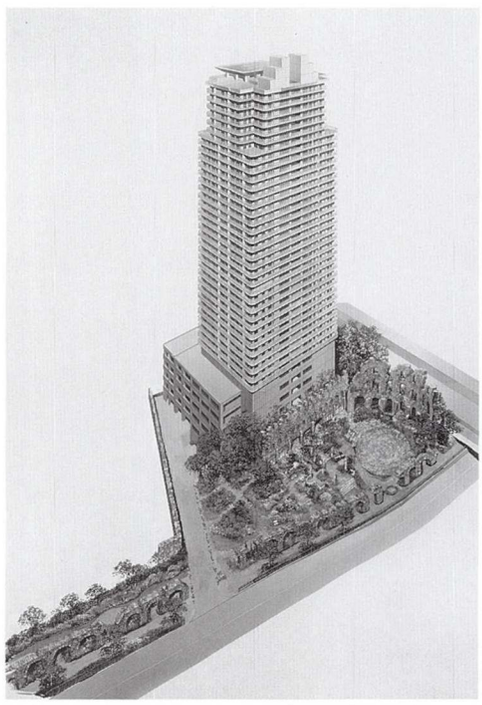


写真1　リバーカントリーガーデン京橋の外観予想パース



写真2　桜宮リバーシティ



写真3　阪急茶屋町ビルディングと地下にある中劇場



写真4
大阪松竹座
右下は御堂筋側からの外観





リンクした事例。

敷地は大川や毛馬桜之宮公園に接するなど景観に恵まれた地区にあり、建物の高層化と駐車場の地下化により創出したオープンスペースを公開空地として整備するとともに住棟の配置や高さに変化をもたせ、全体として調和のとれた景観形成に努めている（**写真２**）。

(2)市街地環境の整備

①阪急茶屋町ビルディング　ターミナル駅の梅田に隣接した茶屋町地区における、ホテル・オフィス・劇場・店舗等を含む複合ビルの事例。低層階には劇場・店舗等のにぎわい施設を設けており、９階～23階の中層階は事務所、タワー上層部の26～34階はホテルの客室となっている（**写真３**）。

この建物は文化施設容積ボーナス制度を適用しており、通常の公開空地による容積割増しに加えて、地下にある中劇場（名称：シアター・ドラマシティ）部分の容積割増し（約35%）も受け、合計87%の容積ボーナスを受けている。

②大阪松竹座　大阪松竹座は、古く江戸時代から大阪の歌舞伎の中心地であった道頓堀の一角に位置し、平成８年11月に歌舞伎・ミュージカル等を上演する劇場（1090席）として竣工した。

旧松竹座は同じ場所で大正時代に、わが国最初の鉄骨鉄筋コンクリート造の洋式劇場（ネオルネサンス様式）として開場し、「道頓堀の凱旋門」として70余年にわたり多くの人々に親しまれていた。

建て替えた建物の外壁には、旧松竹座の顔とも言える正面ファサードを保存・活用しており、その姿は道頓堀地区の中でも風格のある建物として、際立った存在となっている（**写真４**）。

③大阪国際会議場　最新情報の発信基地として、大阪の中心部である中之島地区に建設中の大型コンベンション施設。中之島の新しいシンボルを目指し、逆円錐の形状を持つ屋上の特別会議場の屋根が特徴的なスカイラインをつくっていて、建物の視認性を高めている。

１階には天井高15.5mの巨大なピロティ空間（エントランスプラザ）をつくり、開放性を高めている。また、建物の周囲に歩道状等の公開空地を確保しており、中之島地区における歩行者空間の整備に寄与している（**写真５**）。

(3)総合設計制度適用建築物の集積・連担

総合設計制度は個々の敷地に対して適用されるが、本市においては、昭和48年以来、総合設計制度が積極的に活用された結果として、中央区の船場地区（魚の棚筋等）においては、先行した建物がモデルとなり、周辺に制度適用建築物等が連担する地区が出てきている。

①魚の棚筋（図１）　最初に銀泉横堀ビルに総合設計制度が適用され、船場後退部分と合わせた歩道状公開空地に楠が列植された。この銀泉横堀ビル（**写真６**）がモデルとなり、設計者の呼びかけに事業者が応じるかたちで、北隣の山之内高麗橋ビルや住友海上大阪ビル（**写真７、８**）、淀屋橋ダイビルについても、建築の際に順次、歩道仕上げ、街路樹等が統一・連担した形態に整備された。また、既存の建築物（北ビル、新住友ビル２・３号館）についても、外装改修時に協力して同様のしつらえに改修されており、現在工事中の銀泉淀屋橋ビルの歩道状公開空地も同様に整備される予定である。

これらの結果、魚の棚筋沿いには、統一感のある連続した歩道ができあがっており、今後、潤いのある歩行者空間がさらに連担・延伸していくことが期待される。

おわりに

今回の紹介事例のように、総合設計制度は民間建築等を良好なまちづくりへと適切に誘導するのに役立っている。今後も本市の土地利用等の実態を踏まえながら、本制度の活用を積極的に推進し、市街地環境の整備改善、住宅供給の促進、文化施設や子育て支援施設等の居住支援施設の導入を図っていきたいと考えている。

（かとう　てるお）



写真５　大阪国際会議場外観(上)と大会議場(下)パース



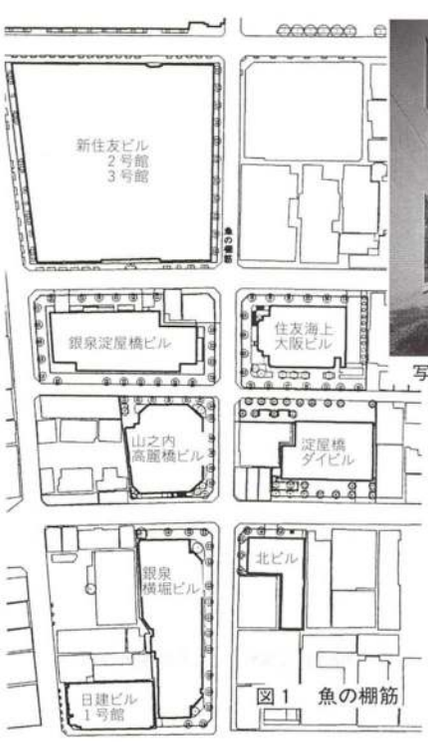


図１　魚の棚筋



写真６　銀泉横堀ビル前



写真７　住友海上大阪ビル



写真８　住友海上大阪ビル　写真３点撮影　古田雅文

無耐火被覆 CFT 構造の耐火設計

古平章夫　中島將好
㈱新都市ハウジング協会 CFT 構造審査委員会部会長　同技術管理部長

充填型鋼管コンクリート構造(以下 CFT 構造と呼ぶ)は、耐力が大きく靱性に優れた構造として特に阪神大震災以降、注目を集めているが、耐火性能に関しても、**図1**に示すような優れた特性を有している。すなわち、無耐火被覆 CFT 構造が火災時に加熱を受けると外側の鋼管は急激に温度上昇し火災温度に近い値となるが、内部のコンクリートはその熱特性により徐々に温度上昇する。鋼管は温度上昇に伴い耐力を失うが、作用荷重は鋼管から内部のコンクリートに移行し、コンクリートの温度上昇により耐力を失うまで支持される。

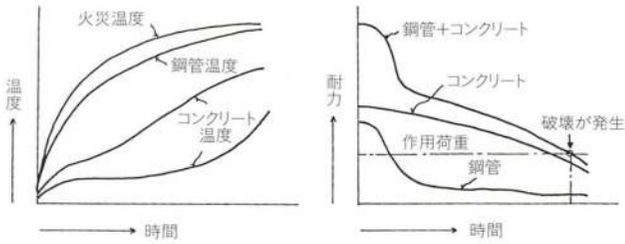


図1　CFT 構造の温度特性及び強度特性

このように構造性能と耐火性能に優れた CFT 構造であるが、設計時の性能を確保するためには、コンクリートの充填性など施工時の品質管理が極めて重要となる。そこで㈱新都市ハウジング協会では、その前身である新都市ハウジング研究開発協議会で実施された研究開発とそれ以降参加企業を中心に実施された研究開発の成果を取りまとめ、構造設計、耐火設計、施工計画からなる「CFT 構造技術指針・同解説」を作成した。本技術指針は平成8年11月に建築基準法第38条に基づく建設大臣の認定を取得しており、本技術指針に基づき設計・施工される建築物に対しては当協会が技術的な審査を行い、技術の健全な普及と育成に努めている。

ここでは「CFT 構造技術指針・同解説」の中の耐火設計の概要について述べるとともに、現在までに耐火設計の審査が終了した建築物の概要について紹介する。

耐火設計の概要

「CFT 構造技術指針・同解説」の「3章　耐火設計」は5つの節により構成されている。以下にその概要を示す。また**図2**に耐火設計の手順を示す。図中に示されている括弧内の数値は節または項の番号を示している。

1節　一般事項

本指針の適用範囲は耐火建築物の軀体を構成する CFT 柱で、耐火被覆が施されていない筒体部を対象とする。

2節　作用荷重および設計耐火時間

火災時に CFT 柱に作用する応力の算定には長期の応力算定用荷重を用いる。設計耐火時間は建築基準法施行令第107条の規定に基づき、建築物の階数に応じて定める。

3節　使用材料および部材

鋼管の形状は角形または円形とし、外径は200㎜以上とする。また、鋼種や径厚比は「2章　構造設計」の規定に準拠する。鋼管には火災時の蒸気圧の過度な上昇を防止するために蒸気抜きの孔を設ける。

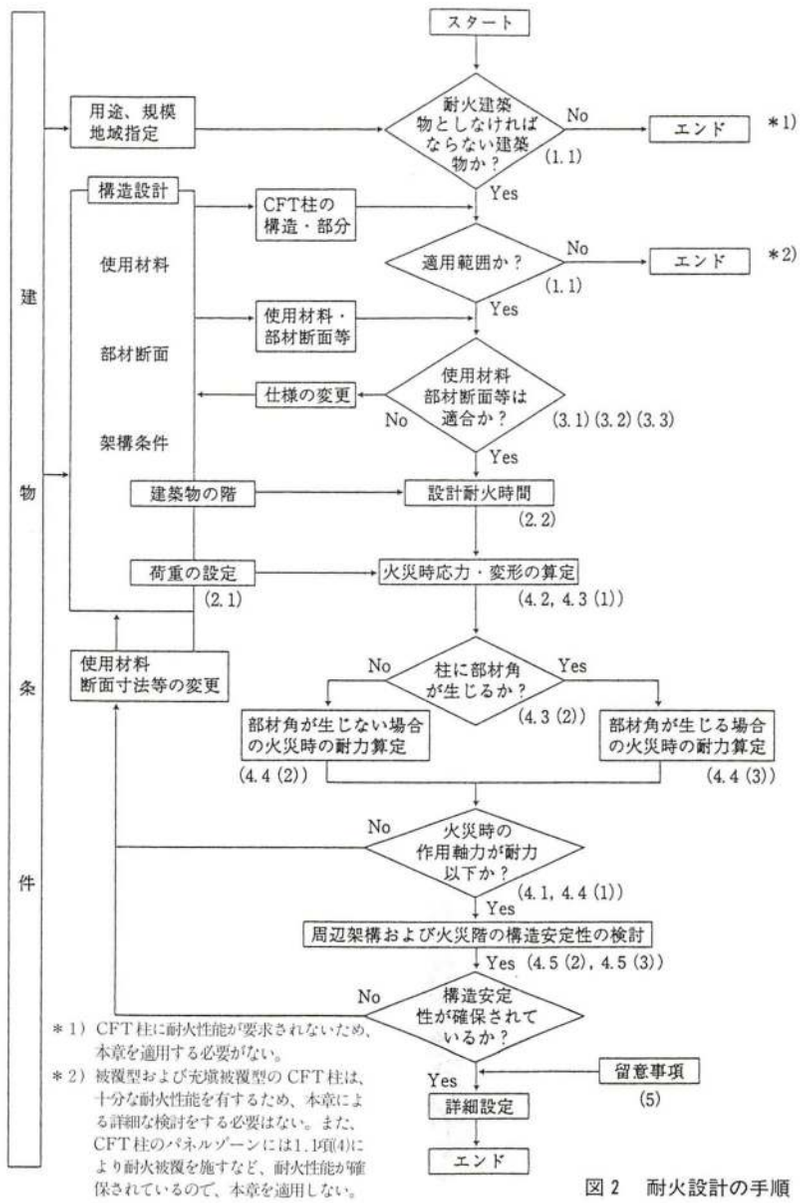
コンクリートは普通コンクリートとし、設計基準強度は24N/㎟から90N/㎟までとする。また、火災時の座屈による著しい耐力低下を防止するために、CFT 柱の径長さ比は8以下とする。

4節　耐火性能の評価

①火災時の作用軸力の算定　火災時に CFT 柱に作用する軸力を、作用荷重に基づいて算定する。

②柱頭水平変位　火災時には通常、梁の熱膨張により CFT 柱の柱頭に水平変位が生じる。この水平変位の算定法を示すとともに、水平変位を階高で除した部材角が1/50を超える場合は本指針の適用範囲外としている。また部材角の有無に基づき火災時の耐力を算定する。

③火災時の耐力　火災加熱を受けた CFT 柱の耐力評価の考え方について示すとともに、現在までに実施された数多くの耐火実験結果に基づいて定められた火災時の耐力算定式を示している。耐力算



*1) CFT 柱に耐火性能が要求されないため、本章を適用する必要がない。

*2) 被覆型および充填被覆型の CFT 柱は、十分な耐火性能を有するため、本章による詳細な検討をする必要はない。また、CFT 柱のパネルゾーンには1.1項(4)により耐火被覆を施すなど、耐火性能が確保されているので、本章を適用しない。

図2　耐火設計の手順

定式は設計耐火時間の関数となっており、上記の部材角の有無、断面形状、コンクリート強度別に定められている。この火災時の耐力と作用軸力の比較により、火災加熱を受けるCFT柱の耐火性能を評価する。

④構造安定性の検討　CFT柱が火災加熱を受けると曲げ剛性が著しく低下するため、周辺架構への応力再配分が生じる。また、架構の熱変形と上階からの鉛直力により火災階に二次的な応力が発生する。これらに対する周辺架構や火災階の構造安定性の検討方法と評価基準を示している。

5節　留意事項

CFT柱の耐火性能は、充填コンクリートに大きく依存することから、その強度や充填性に関する品質管理が重要である。また、万一火災が発生した場合の火害調査について述べている。

審査完了物件の概要

平成9年から平成10年10月までに耐火設計の審査が完了した物件は53件であり、審査建物の延べ床面積は950,000㎡に及んでいる。

審査の申込者は建設業、設計事務所、鉄鋼メーカー、官庁等であり、当協会の非会員からの申し込みも約20%を占めている。審査は申し込み後4週間以内にその約90%が完了している。

審査建物の用途は、**図3**に示すように事務所が全体の47%を占め、倉庫、学校、郵便局の順になっている。

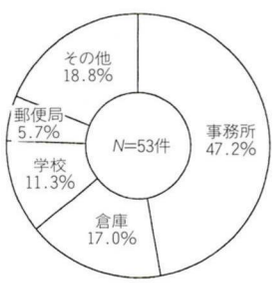


図3　審査建物の用途

建物の階数は、2階建から23階建まで様々であるが、全体の2/3は5階建から10階建の建物である。また、建物の高さは**図4**に示すように31m以下が全体の49%を占め、31mを超え45m以下が全体の41.5%を占めている。建物の延べ床面積は、3,000㎡以下の小規模な事務所から63,000㎡を超える複合用途建築物まで様々であるが、6,000㎡から48,000㎡の建物が全体の74%を占めている。

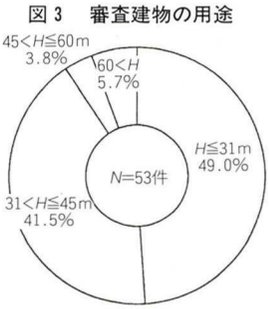


図4　建物の高さ

耐火時間は2時間耐火までであり、14階を超える高層建築物の低層部（3時間耐火を要求される階）は耐火被覆を施す計画となっている。また、14階以下の建築物でも作用軸力比が大きい場合や梁の伸び出しにより柱に生じる部材角が1/50を超える場合には、耐火被覆を省略することはできない。無耐火被覆CFT柱を採用した階における採用比率（無耐火被覆CFT柱の本数／CFT柱の本数）は100%のものが全体の26.4%であり、その多くは建物周辺を鉄筋コンクリート構造の柱や耐震壁とし、建物内部にCFT柱を採用した倉庫

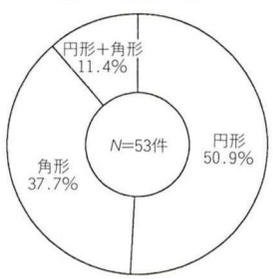


図5　CFT柱の断面形状（建物件数比）

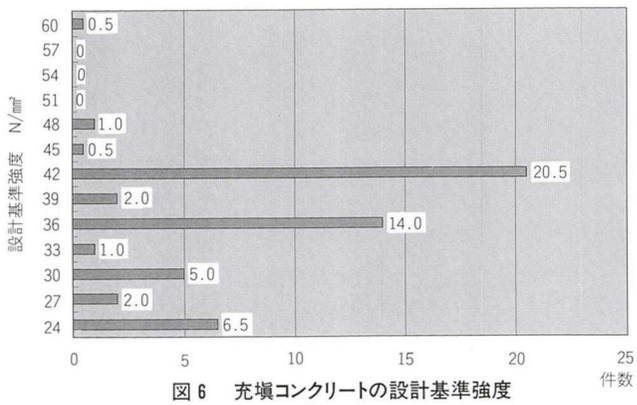


図6　充填コンクリートの設計基準強度

である。また、採用比率が70%を超える建物は全体の70%である。

CFT柱の形状は**図5**に示すように円形のみを採用した建物が全体の約51%を占め、円形と角形の両方を採用した建物がわずかに見られる。

充填コンクリートの設計基準強度は**図6**に示すように24N/㎟から60N/㎟まで幅広く分布しているが、多くは42N/㎟以下であり、36N/㎟から42N/㎟までが全体の65%を占めている。



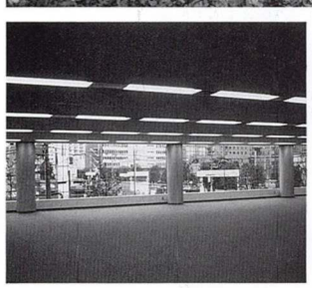




写真1
住友不動産飯田橋ビル
㈱日建設計、㈱鴻池組

写真1に無耐火被覆CFT構造が採用された建物の一例を示す。CFT柱は塗料等で美しく仕上げられており、耐火被覆を施しボード類で仕上げられたCFT柱に比べ、スレンダーな外観を呈している。

CFT構造の優れた構造性能、耐火性能が理解され、施工時の十分な品質管理のもとに今後ますます普及するよう期待したい。

（こだいら　あきお、なかじま　まさよし）

最近の蛍光ランプの技術動向

伊藤秀徳
東芝ライテック㈱管球技術部参事

蛍光ランプが実用化されて以来60年が過ぎたが、わが国では高効率、省エネルギー用光源として、業務用、家庭用に広く普及している。近年は、電球用ソケットにそのまま差し込むだけで使用できる電球形蛍光ランプも広く用いられている。また従来の蛍光ランプより全長を約二分の一から三分の一に短くした省スペース用のコンパクト形蛍光ランプも広く普及している。さらに直管形蛍光ランプや環形蛍光ランプの細管化による高効率化の動きもある。

地球環境問題に端を発した省資源、省エネルギー化の社会的ニーズがその背景にあり、蛍光ランプの小形化・高効率化の動きが加速している。また一方では、蛍光ランプを点灯させる電子点灯回路をシステムの中に取り込み、情報社会に適合した光源システムへ変わろうとしている。

直管形蛍光ランプと環形蛍光ランプの高効率化

施設用照明器具の主流である直管形蛍光ランプについては、高効率化と器具の小型・薄形化を目的に、実用化初期のT12管(管径38.0㎜)からT10管(29.0㎜)、T8管(25.5㎜)と段階的に細径化が進み、最近ではT5管(16㎜)が発表されている。特にT8管以降は、専用の電子安定器と組み合わせて高周波点灯することにより、システムで総合効率を上げる改善努力がなされてきた。ランプを高周波点灯するとランプ効率そのものが向上する。その上、調光が容易になる、点灯回路が軽量、コンパクトになるなどの利点があり、近年、高周波点灯回路との組み合わせで使用される機会が非常に多くなっている。

表1　ランプ仕様

ランプ	T5タイプ環形蛍光ランプ				比較用従来形環形蛍光ランプ	
形名	FHC27EN		FHC34EN		FCL32EX-N/30-H	FCL40EX-N/38-H
管径(㎜)	16.5		16.5		29	29
外径(㎜)	266		340		241	315
内径(㎜)	299		373		299	373
ランプ電力(W)	27(定格)	38(高出力)	34(定格)	48(高出力)	30	38
全光束(lm)	2510	3250	3270	4250	2510	3270
定格寿命(h)	9000		9000		6000	6000
質量(g)	120		145		215	275

注）他に光色として、ED(昼光色)、EL(電球色)もラインアップ

最近、環形蛍光ランプでも細径化が進み、T5管のランプが発売されている。**表1**にランプの特徴を、従来の環形蛍光ランプと比較して示す。スリムで軽量なために、照明器具の薄形・軽量設計が可能となり、器具デザインの自由度が高まった。また定格点灯では、従来形ランプに比べて約10%の省エネルギーが達成できる。高出力点灯では、約30%の明るさアップができる。

電球形蛍光ランプの高効率化

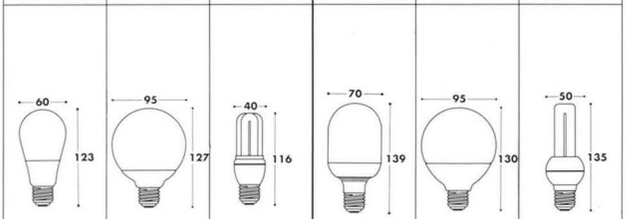
最初に登場した電球形蛍光ランプは、鉄心形安定器を内蔵したもので[1)2)]、白熱電球に比べて寸法も大きく、重いということで、使用上の制限があり、電球の代替え光源としてはまだ不十分であった。その後、点灯回路のインバータ化やガラス加工技術の進歩、管内の水銀蒸気圧制御方法の発達[3)]などにより、小形・軽量でかつ高効率のものとなり、使い勝手が良くなり、その結果、電球への代替え率も一段と進んでいる。

電球形蛍光ランプは、構造上の違いから、2種類のタイプに分けられる。一つは、発光管を透光性の外管グローブに収容した「外管グローブ付ランプ」と、もう一つは、発光管を露出した「露出形ランプ」である。

最近の動向としては、発光管の細管化によるコンパクト化と、発光管の高密度配置による高光束化が指向されている。いずれもインバータ化の技術と相俟って可能となった動向である。発光管の形状もガラス加工技術の進歩で、多様となった。

これらの技術が結集したものとして、最近、電球とほぼ同一サイズの電球形蛍光ランプが発売された。従来のランプでは、一般電球と比べて寸法が大きくて取り付けられない器具や、電子部品の熱的な制約条件により密閉器具などに使えないなどの使用上の制限があり、普及の妨げとなっている部分があったが、今回のランプはそれらの使用制限を大幅に解除するもので、電球への代替えがさらに加速されるものと期待されている。**表2**にランプの特性とランプの外形を示す。ランプの特徴として、従来品に比べて体積比で約60%と大幅な小形化を実現、60ワット白熱電球と比較すると同じ明るさで消費電力が四分の一、寿命は6倍の6000時間となっており、デザイン性や扱いやすさと省エネ・省資源の両立を実現している。

表2　小形電球形蛍光ランプと従来品の特性比較

小形電球形蛍光ランプ			従来品		
A形	G形	D形	T形	G形	D形
810lm	810lm	810lm	810lm	810lm	810lm
14W	14W	13W	15W	15W	13W
6000h	6000h	8000h	6000h	6000h	8000h
					

注）全光束は電球色の場合。寸法単位：㎜

露出形ランプは発光管の形状により、U字状バルブを2本ブリッジ接合したツインタイプのもの(**図1**)と3本ブリッジ接合したトリプルタイプのもの(**図2**)の2種類がある。一般にツインタイプは電球40ワットから60ワット相当用に、トリプルタイプは電球60ワットから100ワット相当用に用いられる。いずれも小形のダウンライトなどの白熱電球器具に適している。電球60ワット相当用として、最近、浴室や洗面所及び玄関灯などの防湿・防雨形器具や密閉形器具に適合可能なタイプが開発、商品化された[5)]。従来のタイプは、温度や寸法的な制約から、密閉形器具には使用できなかったが、このランプは**図3**に示すように、ツインタイプの小形の発光管とイ

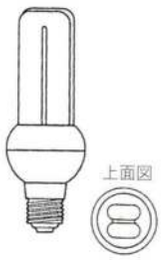


図1　露出形ランプ（ツインタイプ）

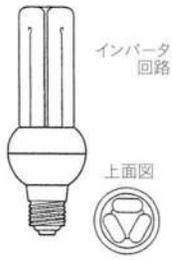


図2　露出形ランプ（トリプルタイプ）

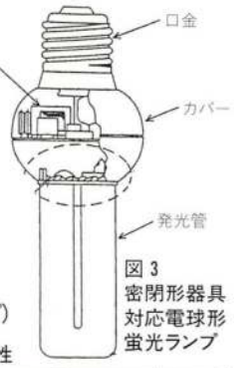


図3　密閉形器具対応電球形蛍光ランプ

表3　電球形蛍光ランプ（露出形）の定格特性

形式	寸法(mm)		口金	定格消費電力(W)	全光束(lm)	定格寿命(h)	質量(g)
	外径	長さ					
EFD13	50	135	E26	13	750	8000	90
EFD15	50	145	E26	15	900	8000	95
EFD23	55	160	E26	23	1550	8000	130

注）光源色はすべて3波長形電球色

ンバータの小形化技術によって、密閉形器具に収容可能な寸法が実現できた。さらに発光管の熱をインバータに伝えないためのランプ構造上の工夫によって、密閉形器具で点灯した場合の温度的な問題も解決している。**表3**に各種露出形ランプの定格特性を示す。いずれも白熱電球に比べて4倍近い効率を有し、寿命は6倍から8倍である。

露出形ランプは、外管グローブ付ランプに比べて、一般に輝度が高い特徴がある。その特徴を生かし、店舗照明等において輝きを強調した装飾照明効果も期待できる。

コンパクト形蛍光ランプの展開

コンパクト形蛍光ランプは、安定器は器具に内蔵され、蛍光ランプだけを交換使用するというコンセプトで生まれたランプである。高効率・コンパクトかつ高輝度というランプの特徴を生かして、従来の照明器具では実現できなかった省スペースの新しい照明デザインが展開可能となった。これまでに2本管形(FPLタイプ)、4本管形（FDL、FML、及びFWLタイプ）が製品化された。最近では、さらに高照度・コンパクト化が推し進められている。以下、最近開発・商品化された主なコンパクト形ランプの特徴を紹介する。

FPLタイプでは、2本のガラス管の接合または1本のガラス管の屈曲により発光管を成形することにより、直管蛍光ランプとほぼ同じ明るさで、全長を約2分の1ないし3分の1まで短くしている。4ワットから96ワットまで商品化されており、それぞれ用途が違う。4ワットから30ワットまでの低ワットタイプは、主にガーデンライトやスタンドに用いられている。36ワット以上の高ワットタイプは、主に天井のベース照明をはじめとして、店舗やオフィス照明の分野で普及している。最近、直管110ワットのベース照明の省スペース化・高効率化を目的に、105ワット形のコンパクト形蛍光ランプが開発・商品化された（**図4**）。従来の直管110ワット形の約半分の長さ、明るさは直管110ワット以上で、ランプ効率は100lm/Wと高効率を実現している。高周波点灯専用であり、器具の小形・薄形化も可能となり、オフィス、店舗、施設などのベース照明、さらにはトンネル照明などへと多様な用途が期待できる。

最近、コンパクト化・高照度化をさらに一歩推し進めたFHTタイプ（**図5**）が商品化されている。管径12.5㎜の細管を使用した3本のU字管または6本のガラスチューブを接合した構造のもの、あるいは4本のU字管または8本のガラスチューブを接合した構造のもので、いずれも高周波点灯専用である。現在32ワット形と42ワット形のものがあり、32ワット形は全光束2,400lmで白熱電球150Wの明るさに相当し、42ワット形は全光束3,200lmで水銀灯80ワットの明るさに相当する。いずれも、これまでのコンパクト形蛍光ランプでは光束が足りなかった高天井のダウンライトにも使用することができ、また街路灯にも適している。特に42ワット形は、その明るさとランプ寸法から、店舗照明用を中心に普及しつつある低ワット形コンパクトメタルハライドランプとの競合も予想される。



図4　高出力形コンパクト形蛍光ランプ（器具装着例：逆富士形器具）

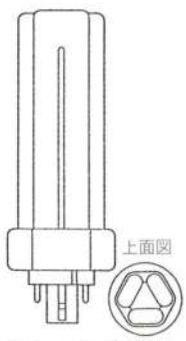


図5　コンパクト形蛍光ランプ（FHTタイプ）

点灯装置・器具を含めた照明システムトータルとしてのコスト・パフォーマンスで両者を比較すると、FHTタイプのコンパクト形蛍光ランプの優位性は高く、今後の伸長が大いに期待される[9]。

固有技術とシステム技術の発展に支えられて

地球環境保護のための省資源、省エネルギーへの社会的ニーズは、今後ますます高まりを見せるだろう。小形蛍光ランプの分野は、これらの社会的ニーズに応えるものとして需要の拡大が見込まれる。今後、さらに省資源のための小形化と省エネルギーのための高効率化の動きは加速されるものと思われる。

商品のグレードアップのためには、固有技術の地道な基本開発が、ますます必要となっている。固有技術として、小形化に伴う高い管壁負荷に対応した水銀蒸気圧制御方法の検討がランプとそれを用いる器具双方から必要であり、また新しい蛍光体や保護膜の開発も必要となろう。さらに器具の薄形化や高効率化に対応して、小形・高効率のインバータの開発も必要となってくる。それらのランプや点灯回路及び器具の固有技術と、それらを組み合わせたシステム技術の発展に支えられて、さらに小形で高効率、高出力で多機能なコンパクト蛍光ランプ及び器具が生まれてくることが期待される。

参考文献
1）亀井、林、長田ほか：35-8、pp.679-681（昭55）
2）三軒、荒鳥：照学全大16（昭58）
3）伊藤、林、佐藤ほか：東芝レビュー、39-11、pp.995-998（昭59）
4）東芝ランプ総合カタログ、平7年
5）筏ほか：照学全大3（平9）
6）東芝ランプ総合カタログ'97-'98、pp.105
7）八木敏治：照学誌、79-12、p.730-734（平7）
8）伊藤弘：照学誌、72-5、p.264-267（昭63）
9）柴田治男：照学誌、79-12、p.721-726

（いとう　ひでのり）

GBRCニュース

GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565-0873　吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-6872-0391 FAX.06-6872-0784
業務時間　9：00～17：15

平成11年、新しい年を迎えて

工業標準化法に基づく「指定認定機関」に指定される

これまで主務大臣によって行われているJIS工場の認定が、1997年9月の工業標準化法の改正施行により、主務大臣が指定する「指定認定機関」でも実施できるという途が開かれました。

当財団では、製品認定センターを1998年7月1日に新設し、「指定認定機関」の指定を受けるべく準備を進めてきました。

この度、1998年10月5日付で、通商産業大臣から、次のとおり、工業標準化法第19条第1項の指定を受けました。今後、業務規定等の認可申請をして業務を開始します。JISの表示認定を予定される方は、当センターまでご相談下さい。

1．指定番号　：15
2．指定認定機関の名称：財団法人日本建築総合試験所
3．所在地　：大阪府吹田市藤白台5丁目8番1号
4．認定を行う指定区分：JIS A（土木及び建築）
JIS K（化学（塗料及びプラスチックに限る））
JIS R（窯業）
JIS S（日用品（家具・室内装飾品に限る））
5．認定を行う区域　：全国（日本国内）
6．指定の期間　：平成10年10月5日から5年間

問い合わせ先：製品認定センター　工業標準部　認定検査課
TEL 06-6834-0561　FAX 06-6834-6657

「確認検査業務準備室」設置

1998年6月12日に交付された「建築基準法の一部を改正する法律」において、規制緩和による多様な選択と自由で競争性の高い建築市場の要請に応えるため、これまで特定行政庁の建築主事が行ってきた建築確認・検査業務を、必要な技術審査能力を備える公正中立な民間機関（新たに設けられる指定確認検査機関）も行うことができることとなりました。

当財団は、1974年に近畿地区特定行政庁の建築主事の要請により「建築技術安全審査委員会」を設置し、以来各建築主事の確認審査に係る諮問にお答えしてきました。今後は、この種の審査業務を実施する機関も「指定確認検査機関」の指定を受けることが必要となる可能性があります。

そこで、これらの諸問題について『確認検査業務準備室』を設置し、総合的に検討することとなりました。

シンボルマークのご紹介

このところの規制緩和に伴う社会経済システムの変革の中で、当財団には、試験を中心とした従来事業に加えて、認定、認証、審査など幅広い事業を展開することが要請されています。

当財団がこれまで使ってきました、シンボルマークは、1986年に制定したものですが、今後展開する多様な事業に相応しいシンボルマークへの変更が必要になってきました。

そこで当財団はこの度、この趣旨に副う新しいシンボルマークを定め、今後順次これに切り替えて参ります。新しいシンボルマークは「Japan」の『J』や日本列島をシンボライズした図示のようなデザインです。お見知りおき下さい。



ホームページ開設のお知らせ

当財団のホームページを開設しておりますので、ご活用下さい。
http://www.gbrc.or.jp

以上のように、新しい年に新しいシンボルマークを設定し、新しい事業の開始や高度情報化時代への対応にとりかかります。

昨今の日本経済は先行き不透明な厳しい状況の中にありますが、当財団としては、組織のスリム化や業務の効率化を推進するとともに、社会の広範なニーズに応える事業を果敢に展開していく所存です。

一層のご支援を賜りますよう、今年もよろしくお願い申し上げます。

消火器の設置

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

消火器の設置基準(一般建築物)

■消火器はどういう建物に必要か？

消防法施行令第10条に規定されています（表1）。

表1　防火対象物の区別

建物区分	劇場、映画館 キャバレー、 遊技場、地下街 重要文化財	百貨店、マーケット ホテル、共同住宅 病院、診療所 養老施設、幼稚園 工場、駐車場	学校 博物館、図書館 寺、神社、教会
設置義務	面積に関係なく必要	延べ面積150m²以上で必要	延べ面積300m²以上で必要
		地階、無窓階、又は3階以上は、延べ面積50m²以上で必要	
能力単位の算出	能力単位≧床面積/50m² ・設置する消火器の能力単位合計値 ・耐火構造の場合は50m²を100m²とする	能力単位≧床面積/100m² ・設置する消火器の能力単位合計値 ・耐火構造の場合は100m²を200m²とする	能力単位≧床面積/200m² ・設置する消火器の能力単位合計値 ・耐火構造の場合は200m²を400m²とする

＊付加設置の場合・電気設備のある場合は、床面積100m²ごとに1個設置
・多量の火気使用場所は、25m²ごとに1単位（A火災単位）

■消火器の設置個数はどうして決めるのか？

消防法施行規則第6条に規定されています。

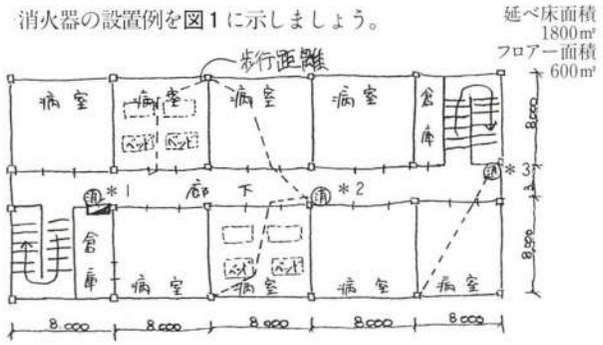
Ⅰ　建物の用途と構造によって消火器のA火災の消火能力単位を算出し、その合計数値以上の消火器の設置が必要です。

Ⅱ　歩行距離20m以下となるよう配置します。
（直線的な測定でなく、実際に歩行する距離で決めます）

Ⅰ、Ⅱ、の両方を満足することが必要です。

ちなみに、A火災とは、木材等の火災・一般火災・普通火災に有効、B火災とは、天ぷら油・ストーブ等の火災に有効、C火災とは、電気配線等の火災に有効です。

消火器の設置例を図1に示しましょう。



＊1消火栓組込型に設置　＊2消火器格納箱に設置　＊3消火器設置台に設置

図1　消火器の設置例

図1の建物が耐火構造の3階建て（病院）の場合、表1の能力単位の算出を参照して、消火器の設置個数を決めます。すなわち、
フロアー面積600m²÷200m²＝3単位（A火災の単位の消火能力）
×3フロア＝9単位の消火器が必要となります。

消火能力単位の計算は各階の床面積で算出し、その合計の消火能力単位が必要です。ABC粉末10型消火器を設置した場合、1本につきA火災の単位が3単位あるので、図1の場合は3本で消火能力単位は満足しますが、必ず歩行距離において20m以下となるように配置して下さい。

例題では能力単位でABC粉末10型消火器が3本となり、歩行距離では9本となるので、両方を満足させる必要があるため、歩行距離の9本設置となります。

以上のケースのように、歩行距離のみの算出にて両方を満足するのが一般的です。

消火器の種類と寸法

■どんな種類の消火器を設置すればよいか？

設置本数から見た選択方法を表2に示します。

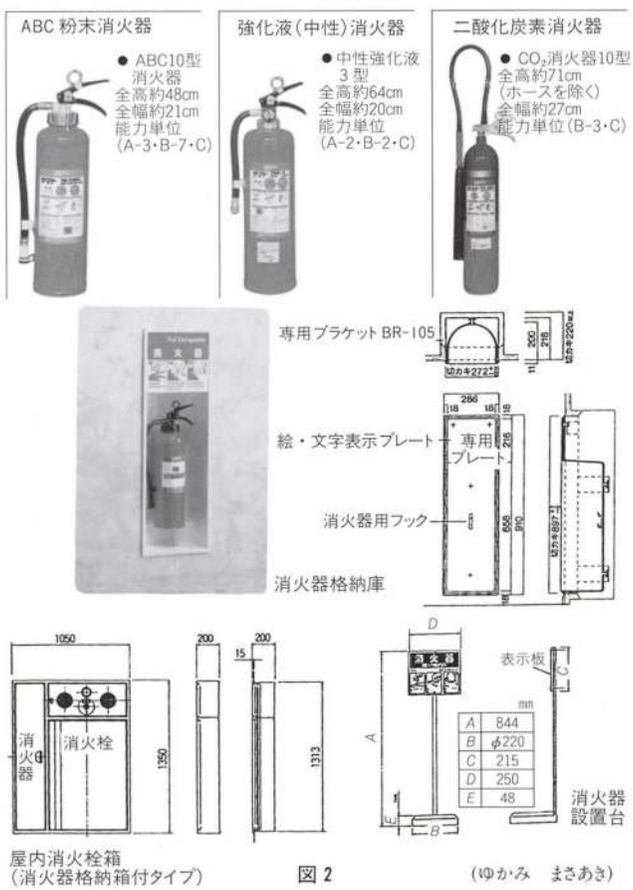
表2

火災種別	着火物	水系消火器		ガス系消火器	粉末消火器	水系消火器
		強化液消火器(霧状)	機械泡消火器	二酸化炭素消火器	ABC消火器	強化液消火器(中性)
普通火災	木製品等	○	○	×	○	◎
	紙・繊維製品等	○	○	×	△	◎
	ふとん類	○	○	×	△	◎
	ゴム・セルロイド類	○	○	×	△	◎
	合成樹脂類	○	○	○	○	○
油火災	ガソリン等	○	◎	○	◎	◎
	天ぷら油等	◎	△	×	○	◎
	灯油等	○	○	○	○	○
電気火災	電線被類（通電中）	○	×	◎	○	○

◎非常によく消火ができる　△完全に消火ができないが、火災を抑制できる
○消火できる　×消火できない
強化液消火器（中性）の消火特性は、ヤマトプロテック㈱の実験結果による。

■一般的な消火器の寸法は？

消火器格納箱や屋内消火栓箱（消火器格納箱付き）の大きさを、図2に示します。



屋内消火栓箱
（消火器格納箱付タイプ）

図2

（ゆかみ　まさあき）

BOOK STATION
ブックステーション

建築デジタルブックス03
サイバースペースの超建築
松永直美 編
1998.4.17刊　176頁　本体2800円

建築デジタルブックス04
いま学ぶ最強のデジタル・デザイン
風袋宏幸 著
1998.6.26刊　165頁　本体3000円

日経BP社　B5変形判



住まい学大系089
開かれたデザインと市場
アメリカの住宅生産
戸谷英世 著

住まいの図書館出版局
1998.1.20刊
小B6判　246頁　本体2400円



永住できるマンション
永住できるマンションPart2
矢田政弘 著

日経BP社
Part1　1997.7.26刊　253頁
Part2　1998.7.17刊　365頁
四六判　本体・Part1：1500円、Part2：1800円



木を育て森に生きる
山縣睦子 著

草思社
1998.9.30刊
四六判　277頁　本体1900円



新風景を求めて
コーディネーター　中村良夫
企画・構成　広島市

広島市都市計画局都市デザイン室
1997.3.31刊
A5判　460頁　1890円



わかりやすい免震構造
免震技術研究会 編著

鹿島出版会
1997.9.15刊
A5判　103頁　本体2800円



環境保全と景観創造
これからの都市風景へ向けて
西村幸夫 著

鹿島出版会
1997.9.30刊
A5判　328頁　本体4200円



建築とデザインのフラクタル幾何学
カール・ボーヴィル 著
三井直樹・三井秀樹 共訳

鹿島出版会
1997.12.20刊
A5判　191頁　本体2900円



1月12〜14日、神戸は防災シンポジウム一色に

■第6回「日米都市防災会議」

日米両国の防災の実務者と研究者が集まり、都市の地震防災性の向上をめぐる共通認識をつくり、より安全な都市づくりの方途を議論する。

日米の防災関係機関のネットワークを構築するということから、防災担当者だけでなく、各種NPO関係者ら幅広い分野の参加者を募っている。

会　期　1999年1月12日(火)〜14日(木)　9：00〜
分科会―1．被害想定と災害情報、2．緊急対応と指令体制、3．復興まちづくりと防災コミュニティ、4．住宅再建と社会システム、5．被災者対応とボランティア、6．経済再生と産業復興、7．ライフラインと建築物―
会　場　神戸国際会議場　TEL078-302-5200
神戸市中央区港島中町6-9-1
ポートライナー「市民広場前」下車
参加費　個人参加（予約）25,000円／（当日）30,000円
主　催　地域安全学会（ISSS）日本
申込先　日米都市防災会議実行委員会（神戸大学都市安全研究センター、TEL・FAX078-803-1012）

■地域防災セミナー'99in神戸

震災を経験して地域の防災活動に取り組もうとする人々を描いたミュージカルなども上演。入場無料。

講　演　宮田　修氏（NHKアナウンサー）
日　時　1999年1月13日(水)　13：00〜17：00
会　場　新神戸オリエンタル劇場
新幹線「新神戸駅」南
申込先　主催者の地域防災セミナー'99in神戸実行委員会事務局（TEL078-231-6431）

■「これからの都市の地震防災と深部地盤構造を考える」―日本応用地質学会主催―

日　時　1999年1月13日(水)　10：15〜16：45
会　場　神戸国際展示場2号館3F会議室
定　員　250名、入場無料
申込先　㈶神戸国際交流協会（TEL078-303-0029）

■事例発表と現状報告

①海外の災害事例「パプアニューギニアの状況報告」
講演者　草地賢一氏（県立姫路工業大学教授）
②地方自治体の現状報告―静岡県、横浜市、東京都―
日　時　1999年1月13日(水)
①11：00〜12：00　②13：00〜16：45
会　場　神戸国際展示場2号館2F会議室
定　員　いずれも150名、入場無料
申込先　㈶神戸国際交流協会

■「地域安全と免震―免震は建物を救う―」―日本免震構造協会主催―

日　時　1999年1月14日(木)　13：00〜16：30
会　場　神戸国際展示場2号館3F会議室
定　員　250名（事前申込制）
会　費　5000円（教本「免震とレトロフィット」代）
講　演　和田章・東京工業大学教授、井上豊・大阪大学教授、中島正愛京都大学教授ほか
申込先　日本免震構造協会（TEL03-3239-6530、FAX03-3239-6580）

■「防災とボランティア」ワークショップ

日　時　1999年1月14日(木)　10：00〜11：30
会　場　神戸国際展示場2号館2F会議室
定　員　100名、参加無料
講　演　「災害救援とボランティア活動」／渥美公秀氏（大阪大学人間科学部助教授）ほか
申込先　㈶神戸国際交流協会

■震災対応に対する講演会

日　時　1999年1月14日(木)　13：00〜17：00
会　場　神戸国際展示場2号館2F会議室
定　員　150名、入場無料
テーマ　「地盤情報データベース『JIBANKUN』の開発とその活用」「埋立地の液状化への対応」「災害医療におけるトリアージとそのシミュレーション」「神戸市の現状報告」
申込先　㈶神戸国際交流協会

スペースデザインゼミ「デザインプロデュース」開講

大阪ガスインテリアデザインスクールの2月のテーマは「デザインプロデュース」。アイディアを実現まで導くための手法を、様々な側面から考える。定員20名。

日　時　①1999年2月3日(水)　18：30〜20：50
②1999年2月17日(水)　18：30〜20：50
③1999年2月24日(水)　18：30〜20：50
テーマ　①「デザインマネジメント」大石達巳氏（AZETA PLANNING代表取締役）
――CIの始まりから現在までのCIの変化やデザインの開発の実際を事例とともに紹介。
②「空間プロデュース」島村美由紀氏（ラスアソシエイツ代表取締役）
――企画・調査〜計画、実施までの空間プロデュースの展開手法と商業施設開発の現状。
③「建築の企画と設計」三宗司郎氏（昭和設計代表取締役社長）
――建築を企画面から捉え、設計の前段階としての企画・デザインツールをソフト面から。
定　員　20名（定員になり次第締め切り）
会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール・教室
大阪市中央区備後町3-6-14備後町オークビル
申込先　電話またはFAXで大阪ガスインテリアデザインスクール（TEL06-6262-4089、FAX06-6262-7202）へ。

ISO14001構築セミナー開催

㈶住宅・建築 省エネルギー機構は、環境マネジメントシステム（ISO14001）構築セミナーの第4回開催を、1月末に予定している。定員24名。

■「住宅・建築業界のためのISO14001」
日　時　1999年1月28日(木)〜29日(金)　9：15〜18：00
場　所　㈶住宅・建築・省エネルギー機構
東京都千代田区二番町4-5
受講料　1名80000円（テキスト代、昼食代、税含む）
申込先　同機構企画・環境部EMSセミナー係
TEL03-3222-6737、FAX03-3222-6696

病院建築／福祉建築基礎講座

㈳日本医療福祉建築協会（JIHA）は大阪で「基礎講座」を開催。病院建築や高齢者施設建築の初心者を主対象に、基礎的な知識を平易に解説するもの。

会　期　1999年1月26日(火)、27日(水)、28日(木)
会　場　大阪科学技術センター・大ホール
定　員　200名（定員になり次第締め切り）
受講費　福祉建築／一般25000円、JIHA会員15000円
病院建築／一般40000円、JIHA会員20000円
福祉＋病院／一般60000円、JIHA会員30000円
申込先　受講申込書（法人名・所在地・担当者・TEL/FAX・受講者名・受講内容）を郵送またはFAXで、日本医療福祉建築協会事務局（東京都港区芝5-26-20、〒108-0014、TEL03-3453-9904、FAX03-3453-7573）へ。

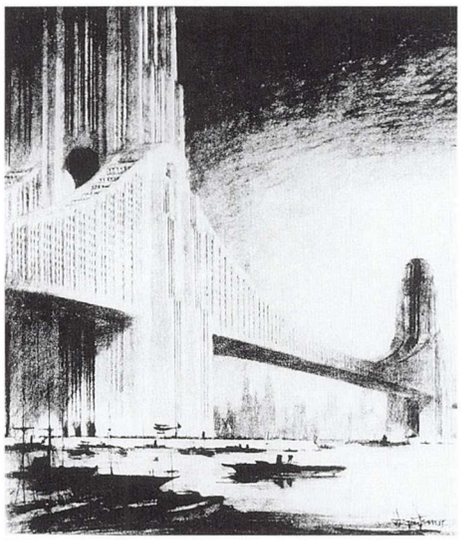
■「福祉建築基礎講座」1月26日(火)　9：30〜17：00
・福祉施設とは／外山　義氏（京都大学教授）
・施設体系と事業企画／氏原　強氏（聖隷福祉事業団）
・高齢者の生活環境／田中直人氏（摂南大学教授）
・高齢者のための施設計画／小滝一正氏（横浜国立大学教授）
・事例にみる高齢者施設／高橋公雄氏（公共施設研究所）

■「病院建築基礎講座」
●1月27日(水)　10：15〜17：00
・全体計画／長澤　泰氏（東京大学教授）
・外来・救急部／中山茂樹氏（千葉大学助教授）
・病棟部／上野　淳氏（東京都立大学教授）
・供給部／奥長敏隆氏（日建設計大阪本社）
●1月28日(木)　9：30〜17：00
・特別講義／大場則夫氏（共同建築設計事務所）
・設備／神代　豊氏（鹿島建設）
・手術・分娩部／今井正次氏（三重大学教授）
・検査・放射線部／辻　吉隆氏（国立医療・病院管理研究所）
・リハビリテーション部／佐々木厚司氏（京都工芸繊維大学専任講師）
・事例研究／加藤彰一氏（豊橋科学技術大学助教授）

「リビング・ブリッジ／居住橋ーひと住まい、集う都市の橋」巡回展

ヴェネツィアのポンテ・ディ・リアルトやフィレンツェのポンテ・ヴェッキオに代表される「居住橋」は、18世紀後半を最後に建設されていないが、建築家や計画家を現在まで刺激するものであり続けた。そして、ロンドンではテムズ川に架かる新しい橋を「居住橋」とする国際コンペが近年開催され、このユニークな形態の橋を見直す機会が生まれている。現在ロンドンやドバイ、ローマで実現性の高い居住橋のプロジェクトが検討されており、また、河川に代わって道路や線路をまたぐ新しいタイプの居住橋も提案されている。

21世紀に向かう現代の都市計画のコンテクストの中で、ビルディング・タイプとしての居住橋に焦点を当て、橋を利用した空間開発の可能性についていかに取り組むべきかの論議を生むことを目的として、本展覧会は企画され、北九州、大阪、そして夏には郡山を巡る。会場は、英国の建築家ナイジェル・コーツによるもので、流水タンクの列「時の川」に中世から現代まで、実在したもの、計画だけに終わったもの、これからつくられようとするものが1/200に縮小された模型で、年代順に並べられる。



設計：レイモンド・フッド≪橋の上のアパートメント計画案≫
ヒュー・フェリス『明日のメトロポリス』1929年より
New York Public Library

■北九州展
会期　1999年 1 月 2 日(土)〜 1 月19日(火)
会場　パステルホール（小倉井筒屋新館９Ｆ）
北九州市小倉北区船場町1-1

■大阪展
会期　1999年 2 月 6 日(土)〜 4 月 4 日(日)
会場　サントリーミュージアム［天保山］
大阪市港区海岸通1-5-10

「ふつうに建築やっています 19人展」

とくに有名ではないけれど、それぞれの組織で毎日の仕事として「普通」に建築をしてきた19人が開く展覧会。入場無料。

会　期　1999年 1 月17日(日)〜 1 月23日(土)
11：00〜17：30
会　場　AD & A gallery 赤レンガ倉庫
大阪市港区海岸通2-6-15　住友倉庫310
大阪市営地下鉄中央線・大阪港下車徒歩５分
出展者　赤井富弘／一尾晋示／大谷弘明／柏樹靖夫／川合順子／佐々木由美／澤村晋介／中田誠／花田佳明／弘本由香里／藤岡慶子／増田敬彦／松隈章／宮地雄一郎／村尾誠司／米井寛／龍野豪利／三輪郁夫／竹村楊子

HA/SHI/RA

リビングデザインセンター OZONE 主催の「日本人とすまい」シリーズの４回目は「柱」。柱を通じて日本人とすまいの関係を考える。企画は柏木博氏ら。

会　期　1999年1月9日(土)〜2月9日(火)　10:30〜18:30
会　場　パークタワーホール（新宿パークタワー３Ｆ）
東京都新宿区西新宿3-7-1
入場料　一般500円、学生以下無料

出版紹介●作本博昭著『変わりゆく「大工さん」』

大学を卒業して大手設計事務所に勤務後、父親の死を契機に昭和59年から家業の工務店を手伝い15年、大工の修業と仕事をしながら業界のさまざまな課題を見つめてこられた作本さんが、日本の「大工さん」への熱い思いとメッセージを、自費出版された。"職人としての社会的地位を今後も高めていきたい"（前書き）、"「誠実に仕事を行う」という姿勢は、近い将来必ず起きる経済至上主義の終焉、及びその反動という時代の混乱期に唯一生き残れる手段である"（終わりに）の言葉が印象的な、業界人のみならず世間一般の人にもおすすめしたい一書である。　（信）



問合先　☎0722-32-4606　FAX0722-33-6805
作本工務店／堺市香ケ丘町5-4-5　〒590-0011

第９回「松井源吾賞」公募

優れた建築構造設計をした建築構造設計者に対して贈られてきた「松井源吾賞」の公募が始まった。

応募資格　建築構造設計者
選考対象　1998年１月〜12月に雑誌等に発表された完成作品、または応募作品
応募方法　写真（10枚以内）、図面（10枚以内）、説明文（1000字程度）を添えて、松井源吾賞運営事務局㈱新建築社内、〒113-8501 東京都文京区湯島2-31-2　TEL03-3811-7101〉へ送付。
締　切　1999年２月10日(水)
発　表　1999年６月３日(木)
賞　松井源吾賞１名（賞牌、賞状、賞金）
選考委員　青木繁、内井昭蔵、菊竹清訓、小堀鐸二、佐々木睦朗の各氏

詳細問い合わせは、松井源吾記念会連絡所（TEL03-3407-9443・早稲田大学西谷章研究室内）へ。

設計コンペ「ゲーテの家」公募

エス・バイ・エル㈱が主催する「第９回エス・バイ・エル住宅設計コンペ」のテーマは「ゲーテの家」。設計者、建築エンジニア、美術関係者などから広く作品を公募している。応募資格は不問。

課　題　劇作家、詩人、小説家、画家、自然研究家であり、ワイマール公国の宰相として腕をふるったヨハン・ウォルフガング・フォン・ゲーテ。様々な側面を持ち、全体的人間を志向しながらも、その時その時を真摯に生き、その揺れ動く心情を隠そうともしなかったゲーテの拠り所としての家はどのような形で表現することができるか、時間を超え空間を超えた構想力豊かな提案を！
登録締切　1999年３月15日(月)　当日消印有効
応募希望者は官製ハガキに所要事項を記入し、下記応募先へ。応募者へは登録票と応募要項を返送。
作品締切　1999年４月12日(月)
提出作品　平面、配置、立面、断面及び透視図（模型や写真も可）、設計意図を表現する図面及び400字以内の説明文。表現は自由。
中判ケント紙あるいは600×840㎜の厚紙にまとめる。パネル化不可。
審査員　建築家の出江寛氏ー委員長ー／妹島和世氏／内藤廣氏／早川邦彦氏／村上徹氏ほか。
賞　金　大賞１点100万円、審査員賞６点各30万円、佳作５点各５万円
応募先　㈱新建築社「第９回エス・バイ・エル住宅設計コンペ」係（〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-2、TEL03-3811-7101）

特集／九州
建築を綾どる小粋なモノの仕掛人

都市や自然との係わりかたにおいて、建築（建築家）本来のあるべき姿の代弁者として、彼らインタープリター（解説者／通訳）としての役割は、最近とみに高まってきている。

今や建築は第三者の手を借りなければ社会とコミュニケートできない状況にあるのか、それとも建築が、よりヴィヴィッドであるために、彼らサラウンドなプロフェッショナルの参加を求めているのか、建築に携わる者としては、今一度彼らを介して建築と向き合うことも必要ではないだろうか。（村上記）

◇

《最近の建築作品》

6作品

◇

《建築を綾どる小粋なモノの仕掛人》

風・建築の客・環境デザイン
カロ・レストレポ・エスペランサ

『あってもいいもの』と『なくてもいいもの』との狭間で
江藤元昭

建築と街を関係づけるランドスケープデザインのありかたを探る
向山雅之

新素材・新工法へのチャレンジ
原　信幸

本特集特別編集幹事会

境　郁生　大建設計　　重松　雄二　東畑建築事務所
砂川　裕幸　竹中工務店　　村上　義孝　安井建築設計事務所
室川　康男　大林組　　森　薫　日建設計



エントランス廻り外観

熊本産業展示場
「グランメッセ熊本」

設計監理　東畑建築事務所九州事務所
施　　工　建築　清水・前田・三津野建設工事共同企業体
　　電気　九電工・西邦・広瀬建設工事共同企業体
　　空調　ダイダン・共栄・熊電建設工事共同企業体

所 在 地　熊本県上益城郡益城町福富1010
敷地面積　128,858㎡
建築面積　16,499㎡
延床面積　20,280㎡
構造規模　RC、S、一部PRC、3F
工　　期　1996年３月～1998年１月
アクセス　熊本空港・益城熊本空港I.C（本年４月開通予定）
撮　　影　橋本征親・石丸捷一・㈶グランメッセ熊本
　　近代建築社



南東側全景

九州自動車道と熊本第二空港線が交差する場に位置する敷地は、熊本の代表的な風景の一つである田園地帯が広がり、東方には阿蘇の外輪山が望める都市部と田園地帯の接点となるゲート的な場に位置する。

設計にあたり、熊本平野や阿蘇の草原に見られる広がりや伸びやかな姿をこの場の特性ととらえ、緩やかなRを持つ屋根、水平ラインとエッジを強調したスカイラインとして表現した。また、熊本の象徴である阿蘇の外輪山に見られる円形、求心性と永遠性を合わせ持つ「輪」をガラスのシリンダー（メインエントランスホール）として建築化し施設の中心的な位置に配置した。

そのシンボリックなシルエットが、空港及び新I.Cから市内へのゲート的なランドマークになればと考えている。

（河野和久／東畑建築事務所）



配置図　1：4000



南側外観



展示ホール



ガレリア



外観

春日市奴国の丘歴史資料館

設計監理　東畑建築事務所九州事務所
施　　工　建築　柿原組・永田建設JV
給排水設備　吉竹設備工業
電気設備　木村電気工事店

所在地　福岡県春日市岡本3-57
敷地面積　4,480㎡
建築面積　1,538㎡
延床面積　2,820㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1997年6月～1998年7月
最寄駅　JR鹿児島本線・南福岡駅
撮　　影　エスエス九州



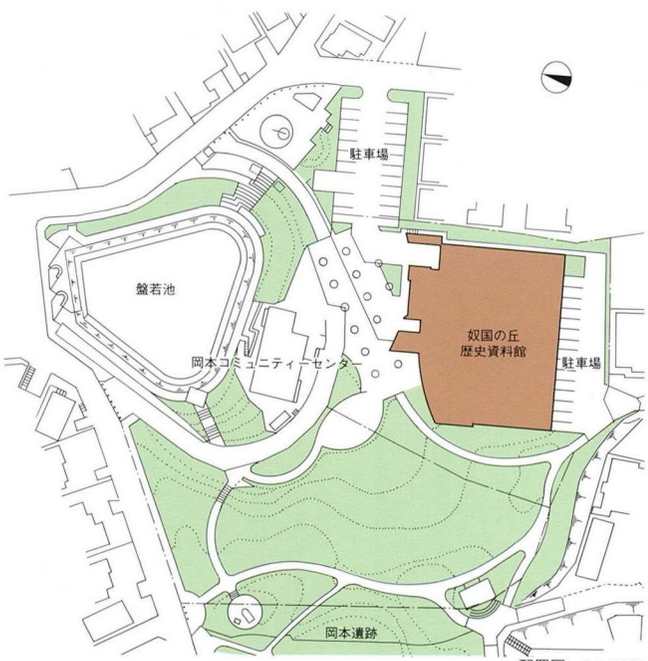
全景

福岡市の南に隣接する春日市は、弥生時代には奴国と呼ばれた地域の中心部だったと言われている。市内に点在する遺跡はこの時代のものが多く、敷地の隣にある岡本遺跡もそのひとつ。周辺が歴史公園として整備されるのに伴い、資料館が建設されることとなった。
敷地は小高い丘の上にあり、住宅地に囲まれて明るい静けさをたたえている。設計を進めるなかで、大地に浮かぶ方舟のような建築がこの場所にふさわしいと考えた。
この施設は、考古資料館の典型とも言え、1階に展示室・研修室など主として来館者の場を、2階に収蔵庫を含む調査・研究のための諸室を配している。用途上、開口部の少ない閉鎖的な室が多いが、エントランスホールと研修室は最大限に開口を設けた。特にエントランスホールは北に面しているため、照明にたよらず自然な明るさを確保することに苦心した。
建物が敷地境界に近いことから、地盤の高低差を利用してできるだけ高さを抑えた。ヴォリュームのある展示収蔵庫は、屋根の四隅を切り落とすことで威圧感を和らげると同時に、見る角度によって印象が変わる特徴的な形態とすることができた。
時をわたり、遥かな過去の遺産を守り伝えるという使命を、この一艘の方舟が果たしてくれることを願っている。

（豊澤　篤／東畑建築事務所）



2階テラス



配置図　1：1800



階段よりエントランスホールを見る



展示ホール

▼埋蔵文化財展示室





南東面全景

ネクサス香椎セントラルガーデン・ウエストサイド（5号棟セントラルタワー）

設計監理　大林組九州支店一級建築士事務所
施　　工　大林組九州支店

所 在 地　福岡市東区香椎浜4-11-1
敷地面積　7,563㎡
建築面積　942㎡
延床面積　12,890㎡
構造規模　RC（PC工法）、20F、 P2
工　　期　1996年9月～1998年3月
最 寄 駅　西鉄宮地岳線・名香野駅
撮　　影　エスエス九州

福岡市香椎浜地区はウォーターフロント開発が進行中であり、21世紀に向けて大きく発展が見込まれる地域である。その海岸近くに新たなスタイルの高層集合住宅が竣工した。

敷地は世界の６人の建築家が設計を担当した「ネクサスワールド」の隣地に当たり、「ネクサス村」とも呼べるこの周辺地域のシンボル的な存在となっている。今回、外観デザインはアメリカの設計事務所アーキテクトニカ、外構デザインは同じくアメリカのマーサ・シュワルツが担当している。バルコニーの緑の壁と白いフレームや庭園の中を泳ぐように配置された「フィッシュマウンド」と呼ばれるモニュメントが象徴的な姿を演出し、「ネクサスワールド」とも融合し、既に根付いた街並みの中に新しい風景をつくり出している。

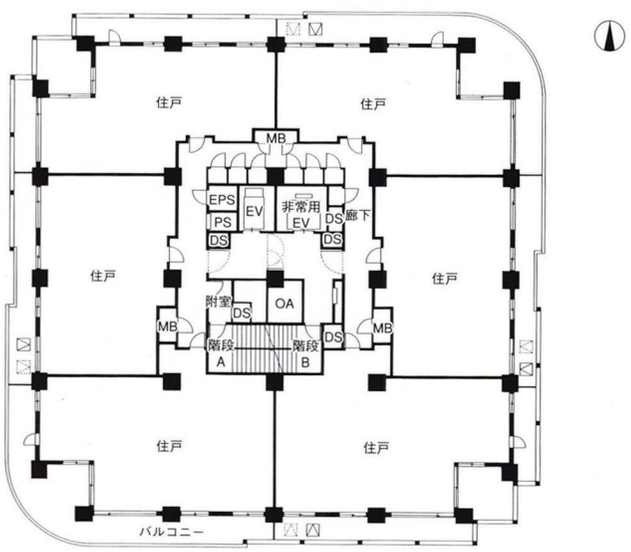
住戸では都市住宅における生活スタイルへの新たな提案として、リビングとキッチンとバルコニーの積極的な関連性について考慮した。バルコニーにはキッチンと連続したカウンターを設け、リビングとキッチンの外壁には最大限の開口を設けるなど、それぞれの空間の有機的な関連を目指している。

また、工事に当たっては大林組が開発したRC造の全天候型自動化建設工法「ビッグキャノピー」が採用され、PC化した資材を効率よく搬送、取付けることにより生産性と信頼性の向上が目指された。

（川西俊久／大林組）



「ビッグキャノピー」施工中



基準階平面図　1：400


玄関アプローチ夕景


コーナーバルコニー


１階EVホール


リビング・ダイニング

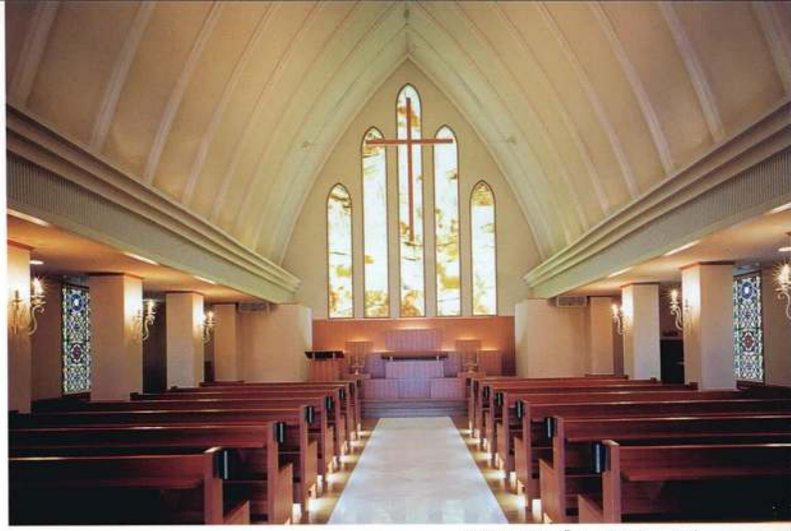
1階ロビーラウンジ



外観

タカクラホテル福岡

設計監理　大林組九州支店一級建築士事務所
施　　工　大林組九州支店



8階チャペル「ルーナ・ピエーナ」

「サロン的雰囲気を持つプチホテル」というオーナーコンセプトを基盤とし、増築・耐震改修を経て、福岡市中心街天神から徒歩約10分の好立地に、全面リニューアルオープンした。

ウォームグレイ色の花崗岩と擬石シート貼の低層部、セットバックしたタイル貼の客室フロア、最上階にチャペルとガーデンのあるバンケットフロアの3層構成により、外装に重厚さを醸し出した。

インテリアは、ルネッサンス的な香りが漂うコストパフォーマンスの高い空間に仕上がり、イタリアから直輸入された家具・調度品・シャンデリア等が優雅さを演出している。1階にはロビー・レストラン・バック部門、2・3階に宴会場と神式式場を集約し、4階は和のフロアとして、150帖の和宴会場・和客室をまとめ、5～7階は洋客室として構成した。

8階のチャペルには、正面に既設建屋に使われていたオニックスが転用され、側廊窓には、約200年前の英教会のステンドグラスが嵌め込まれ、本格的な空間が誕生した。

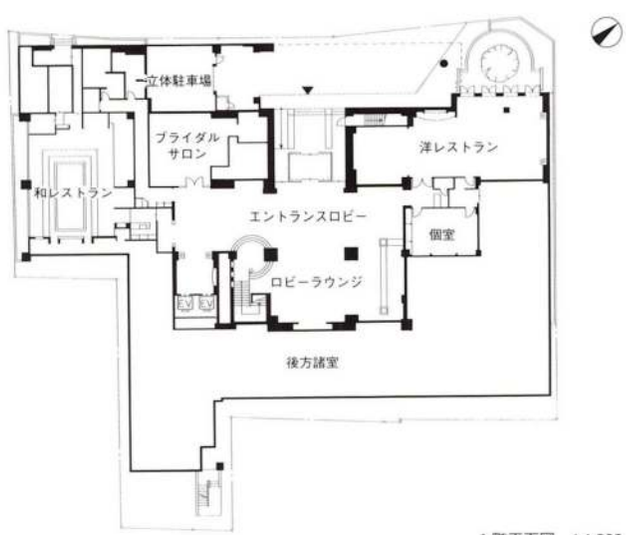
西暦2003年には地下鉄3号線の一部開通が予定され、都心部の拡大と活性化が期待される。当ホテルでは、主なターゲットを20代から30代の女性に絞り、個性化を計っている。　（今給黎佳仁／大林組）



2階大宴会場「富士」



1階洋レストラン「ブルースター」



1階平面図　1：800

▼客室（ツイン）



所 在 地　福岡市中央区渡辺通2-7-21
敷地面積　2,335㎡
建築面積　1,939㎡
延床面積　9,856㎡
構造規模　SRC：B1F、S：8F、P1F
工　　期　1997年6月～1998年9月
最 寄 駅　西鉄大牟田線・薬院駅
撮　　影　エスエス九州、アトリエ・フクモト

全景



メインエントランス（内部）



モール（専門店街）



レストラン街



センターコート

ザ・モール春日

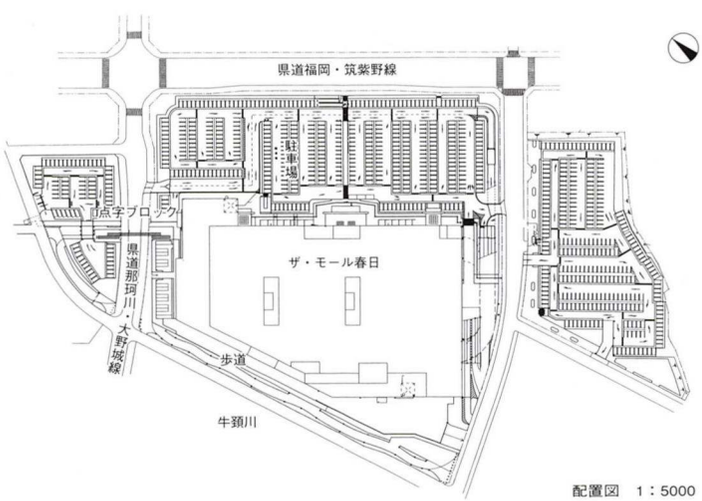
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　前田建設工業

ザ・モール春日は福岡市の南にベットタウンとして発展する、春日市内の県道福岡・筑紫野線に沿って位置している。
今回計画のポイントは、

①親しまれる建物（ランドマーク、夜の賑わい）　②敷地の高低差の利用　③駐車場のスムーズな動線　④ローコスト　であった。

建物はザ・モールシリーズの標準化されたファサードデザインであるグレーのストライプを踏襲し、デザインのポイントとして、レストラン街・専門店等の各入口部分に業態のコーポレイトカラーを使ったエントランスゲートを設けている。メインエントランスは敷地の高低差を利用して、１、２階の各店舗に直接アプローチできる様にスキップさせている。又、１、２階レベルにもエントランスを設けた。
200ｍに及ぶ長い店舗内には、２ヶ所のエスカレーターを配したコートと、店名の由来である長さ100ｍの開放的な吹抜けを持つ専門店によるモールを設け、ショッピングの楽しさを演出した。又、閉鎖的になりがちな外壁においては、建物コーナー部にガラスカーテンウォールを設けたりする事により、内部の光がもれる様にし、又、石井幹子デザイン事務所の協力により、建物のライトアップと駐車場の照明等を行ない、夜の賑いを演出している。
建設にあたって御尽力いただいた関係各位に感謝するとともに、今後ザ・モール春日が地域の人々に親しまれ、発展する春日市のランドマークになる事を願ってやまない。

（末広康久／安井建築設計事務所･東京事務所）



配置図　1：5000

所 在 地　福岡県春日市春日5-17
敷地面積　50,623㎡
建築面積　17,290㎡
延床面積　58,606㎡
構造規模　SRC、S、4F、P1
工　　期　1996年２月～1997年１月
最 寄 駅　JR鹿児島本線・大野城駅
撮　　影　エスエス九州



外観南東面



外観（夜景）



メインエントランス

▼レストラン街エントランス（夜景）



正面玄関

老人保健施設やすらぎ

設計監理　竹中工務店九州支店
施　　工　竹中工務店九州支店

所 在 地　北九州市八幡東区槻田1-924
敷地面積　8,174㎡
建築面積　2,648㎡
延床面積　4,799㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1996年12月～1997年10月
最 寄 駅　JR小倉駅
撮　　影　エスエス九州



北西面外観



1階平面図　1：500

ライフコート

計画当初、建築主との打合せの中で「モネの庭」が話題になった。今回の計画の重要課題である介護空間のあり方を模索していた時のことである。モネは庭を画題に選んだ。我々はその庭を、心の安らぎを与えてくれる優しい空間とイメージした。すなわち、今回のハード上のテーマは、施設入居者の家庭復帰を促す介護プログラムの幅を広げる、建物内外を含めた様々な「やすらぎ」空間の創造であった。

建物は1階が一般、2階は痴呆ゾーンとなっており、わかりやすさを目的としてサービスセンター・食堂を中心とするシンメトリープランを採用した。またプランの特徴は、療養室ブロック中央の中庭を挟んで、約10名程度のきめの細やかなグループケアにも対応できるようになっていることである。その中庭は、ややもすれば単調になりがちな入居生活に変化と息抜きを与える空間として、また半屋外の介護の場として手軽に活用されることを意図したものである。床には堅木のすのこを敷き詰め、さらに低木を配することにより、心が和む空間創出をめざした。

屋外エリアは、入居者と介護者協同によるガーデニングによって徐々に「やすらぎの庭」として形を整えていく予定である。この「庭」が、敷地内の一角に設けた職員用保育園の園児達と入居者達のふれあいの場となることを期待したい。

（廣松賢治／竹中工務店）



デイケアセンター



療養室（4人室）

風・建築の客・環境デザイン

カロ・レストレポ・エスペランサ
㈱TAC環境デザイン取締役

建築は「内」と「外」の二つの空間を持つ。この「内」と「外」は相互に密接な影響を造りだし、この結果、「内」と「外」で空間化された建築は、都市や自然の舞台の場所で「生き物」となる。これが私の建築観の出発点である。

次に、私が大切にしたいのは、「建築は訪れる客を扱う」という視点である。建築の「内」の「客」は、人間の「体」で、そして、人間の、家族の、人間群の「生活」であり、建築の「外」の「客」は、自然の四つの環境エレメント：光、風、水、土で、そのさまざまな現象である。次に、大切な視点は、建築の「内」の「客」は、人体というスケール、すなわち、人体スケールを持ち、一方「外」の「客」は、環境スケールを持つことである。従って、建築は、「内」と「外」との相互作用で空間化されることから、この二つのスケール、即ち、人体スケールと環境スケールの再構築が不可欠となる。

私の環境デザインの方法は、建築の「外」の「客」のために、つまり、自然の環境エレメントという「客」のために、「新しい空間」を創造することである。このために、私はまずこの「新しい空間」を環境スケールで創り出し、次いで、その空間の「質」を人体スケールで再構築するというデザイン方法を開発している。このデザイン方法によって、人々は自然の環境エレメント（特に意識しているのは、「風」であるが）に出会うとき、人体と環境という異なったスケールが「新しい空間」の中で同一化されることになる。

「風の窓プロジェクト」は、まず、その場所の気象台の１年間の風向・風速データを解析した上で、地形と季節による「風のベクトル現象」をとらえ、さらに、現地での一日断面で観測した風向・風速データによって「風の踊り現象」をとらえて環境スケールのデザインツールを開発した。風向（風速による風車型モニュメントではなく）に感度する「風のモニュメント：風の窓」を中心に配置することで、環境スケールと人体スケールの同一化をはかった。

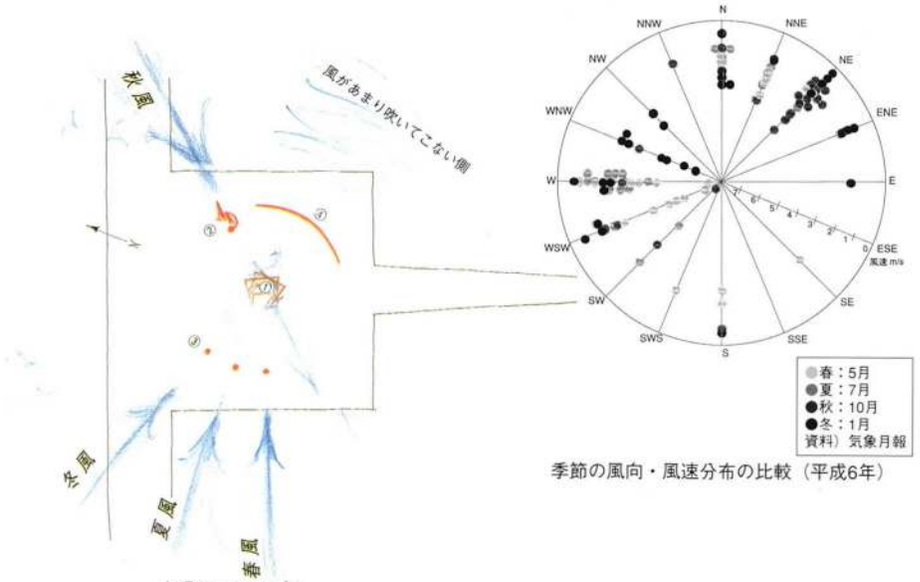
「風の羅針盤プロジェクト」は、まるでコスモスが秋の風になびくように、群によるモニュメント（ごく簡単なメカニック装置）が風向に感度するデザインを行い、訪れる人間（団地の子供たち）との一体化を意図した。

「風のオープンエアミュージアムプロジェクト」は、村全体を「風の博物館」とするプロジェクトで、自然の「客」である風のために、「風が楽しむ」遊び装置を山間に配置し、訪れる人間との共鳴を狙ったものである。

私は福岡を中心にデザイン活動をしているが、九州という大地の存在を感じている。私の感覚は、九州の大地がつくり出す「山」と「海」、そして、「風の活動」によって鋭敏化されている。九州全体を覆うスケールの「風」は、九州のダイナミックな「自然の道」を創り出している。私は、この「自然の道」を、小さなスケールの敷地まで取り込み、小さなプロジェクトであっても、九州の大きな環境スケールの自然の存在をデザインしたいと願っている。

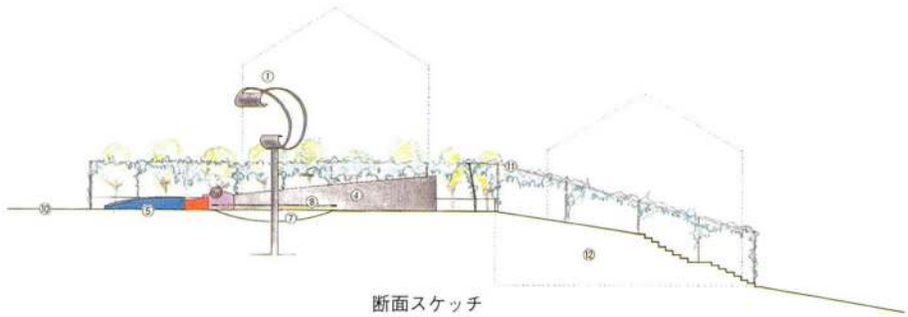


風の窓プロジェクト



広場のコンセプト

季節の風向・風速分布の比較（平成6年）



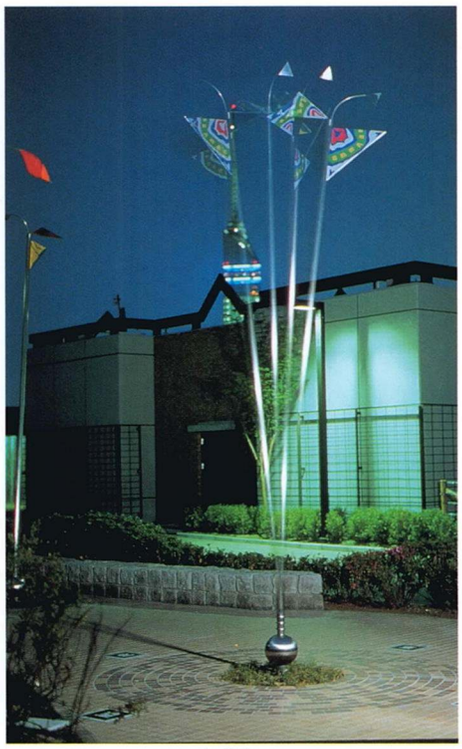
断面スケッチ

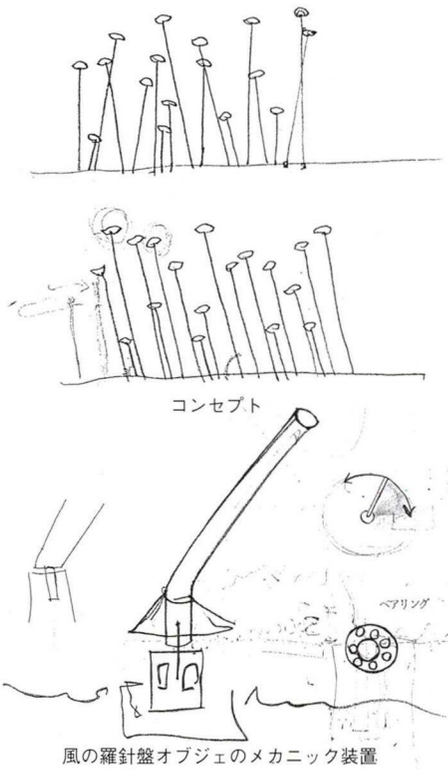
カロ・レストレポ・エスペランサ（Esperanza Caro Restrepo）

経歴

1982年　コロンビア共和国（ボゴタ）ロスアンデス大学建築学部卒業
1984～89年　自給自足実験集落ラスガビオタス開発チーフデザイナー
（コロンビア共和国ラスガビオタス公社）
1992年　九州大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1995年　九州大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程修了、工学博士（九州大学）
学位論文「戸建住宅の隣棟空隙の再構築に関する環境デザイン的研究」
1997年　株式会社TAC環境デザインにて取締役チーフデザイナー、現在に至る


風の羅針盤プロジェクト


オブジェ



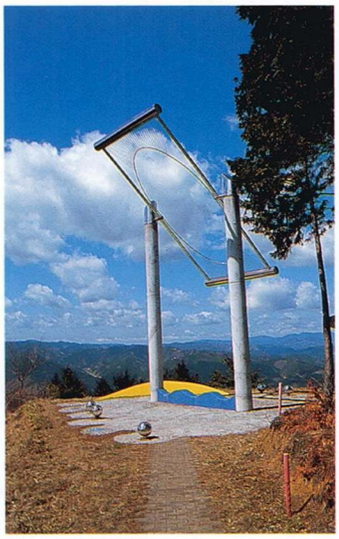
風の羅針盤オブジェのメカニック装置

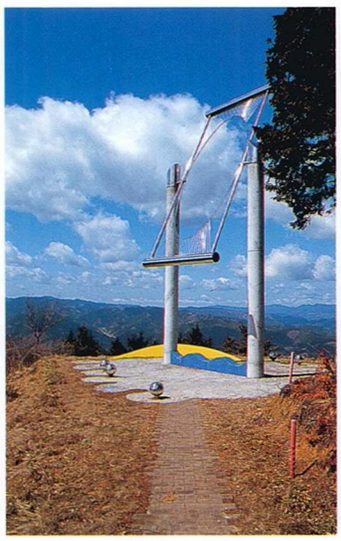


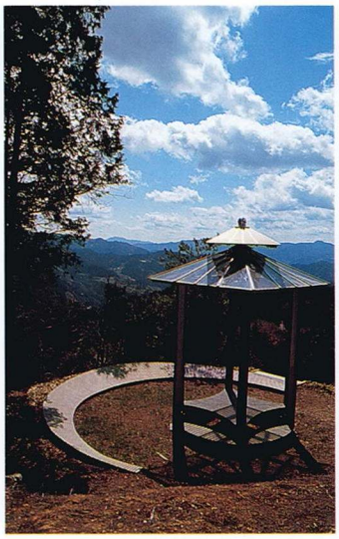
風の博物館コンセプト


風の舞台


ディテール


風のシーソー


風のシーソー

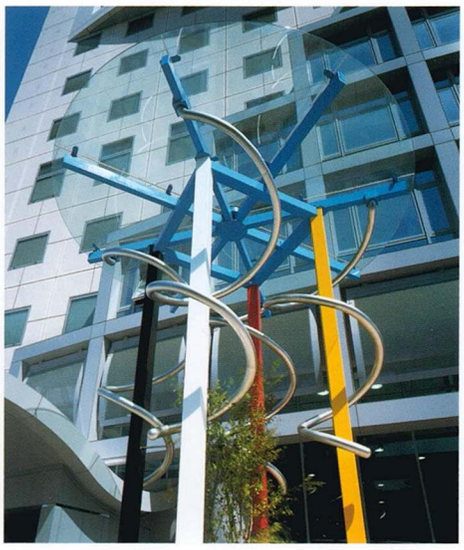

風の茶堂


ディテール

『あってもいいもの』と『なくてもいいもの』との狭間で

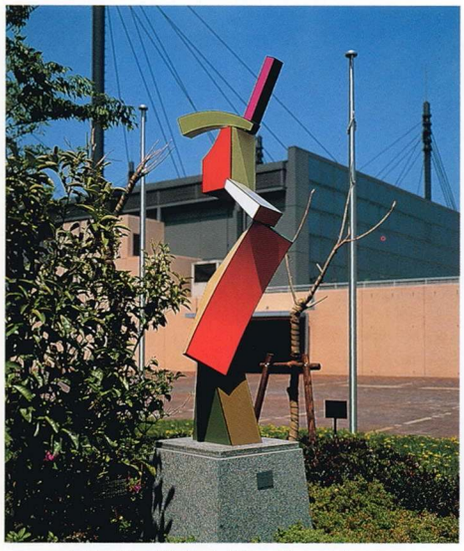
江藤元昭
㈲プランズ アム


空から降り来るヴィーナス（エットーレ ソットサス）


同左


作家原画（作家エットーレ　ソットサス直描）

■主な環境彫刻作品制作プロデュース
・1998年３月
「アタワルパの光」　ブラッド　ハーウィ（米国）
アジアー太平洋インポートマート（北九州市）
・1996年３月
「シンボルタワー」他
クリフォード　セルバート（米国）
キャナルシティ博多（福岡市）
・1995年３月
「空から降り来るヴィーナス」　エットーレ　ソットサス（イタリア）
「リサークル　Ⅲ」　崔在銀（韓国）
「バウンダリー　パノラマ」　酒井勝久（米国）
北九州市立女性センター（北九州市）
・1994年１月
「ザ　ファミリー」　エットーレ　ソットサス（イタリア）
横浜ポートサイド地区（横浜市）
・1993年７月
「リユニオン」　ダン　ガマー（米国）
「ハウス オブ ミュージック」　ダン　ガマー（米国）
北九州市国際村交流センター（北九州市）


アタワルパの光（ブラッド ハーウィ）


ハウス オブ ミュージック（ダン ガマー）

近年、高層ビルの公開空地や建物の外構など公共的な空間に、パブリックアートと称される多様な素材を用いた抽象的な造形物が多くみられるようになってきた。バブル期には、建築ラッシュとともに折からの（投機的な？）美術ブームを追い風に、この種の大型プロジェクトが計画され実現したいくつかをみることができる。東京都庁やファーレ立川のアートプロジェクトなどはその代表的なものと言えるだろう。

建築空間においては、建物自体が空間を決定づける最大の要素であるに違いないが、その内部・外部空間の彩り方が、設計者の意図をより鮮明化させるひとつの方途ではないだろうか。こうした考え方から、当方が意匠を依頼する作家にはまず現地を直に体感して貰うところから始める。施主側と会い設計者と話し合うことを含め、ここを意匠制作段階の始点としている。

施主側の意向、コンテキスト、特に設計者のコンセプト、それらを同時代を生きる違った感性をもつ作家がどう解釈しさらに造形物としてどう表現するか。ここはまさに妙味と言え、またプロデューサーとして興味深いエキサイティングな場面のひとつだ。

出来上がった作品が、建物ないしは建物を芯とした空間とうまくフィットした場合、互いが呼応しつつ良好な関係を保つというある種の相乗効果が創出されているように思う。こうした空間の中にあって、多くの人々がときに深い安らぎを感じたり新鮮な驚きや感動に包まれたりするとしたら、関わった者のひとりとしてたいへん嬉しい。

年々深刻さを増す経済低迷下にあって、こういったパブリックアートの類いは必要不可欠ではない不用なもの、いわば『なくてもいいもの』として、プロジェクトの途中でいつの間にか予算が削減されたり、ついには切り捨てられてしまうことも多い。

だが、それらが空間づくりをするうえで必要な『あってもいいもの』として捉える積極的な意志があれば、あとはすべてをどうバランスさせるかに収斂されていくのではないだろうか。

環境彫刻作品の企画提案から設置までを一貫してプロデュースする仕事を通して、これからも心地よい快適な空間づくりの一助を少しでも担っていければと願っている。

■プロフィール
江藤元昭（アートプロデューサー）
1950年　北九州市生まれ
1987年　プランズ　アム創業
1990年　有限会社　プランズ　アム設立

建築と街を関係づけるランドスケープデザインのありかたを探る

向山雅之
竹中工務店 九州支店 設計部



写真1



写真2



写真3

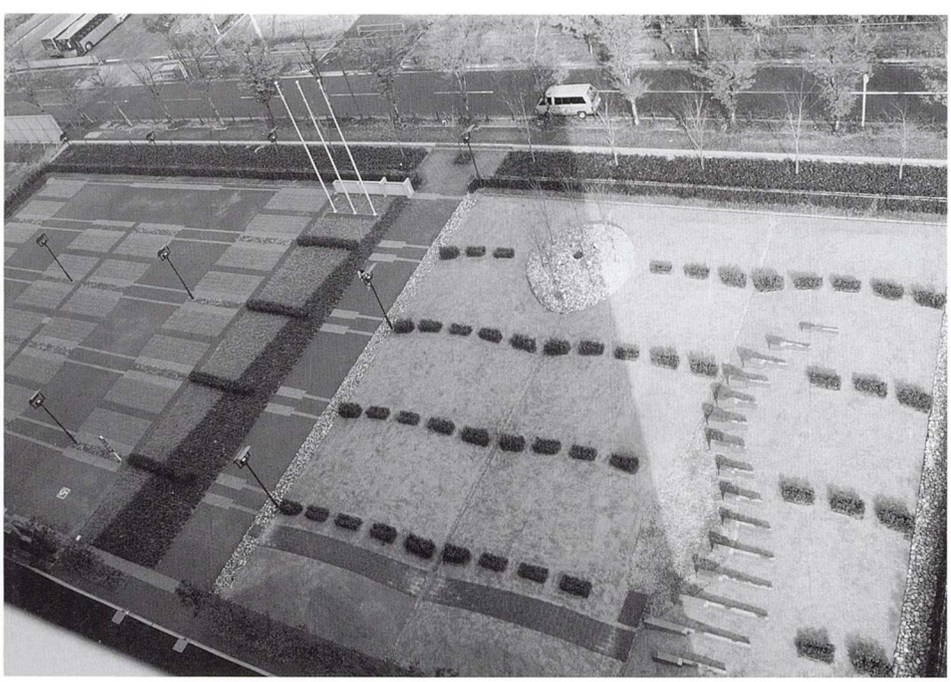


写真4

ランドスケープデザインは「風景」の創造である

建築の計画がなされ、その周囲のランドスケープデザインを進めていく上での最終的な目標は、「いかにしてその建築を地につけることができるか」ということである。建築を周囲の街につなぎとめる接点としての空間、あるいは前面道路からその建築に至るアプローチ空間として、建築と周囲の街を関係づけ、ひとつの「風景」をいかにしてつくり出すかが勝負である。

単純な構成の中に秘められた複雑さをつくる

写真1はある企業のビルの前庭である。ここを訪れた人は、この庭を右手に見ながらメインエントランスにアプローチすることになる。建築地は広々とした街区割の街で、前庭として約30m×30mのゆったりとしたスペースが取られている。そこに3つの波形を持つおおらかな芝生の地形をつくった。それを強調するために、高さを水平にそろえて刈り込まれた潅木をライン状に植え、写真2のように、同じく高さを水平にそろえて並べた短冊形の赤御影石を配置した。また写真3は、オブジェ的に設けたゴロタ石の築山で、桜を植えた。地上のレベルでは、見る場所によりそれぞれの要素が様々に折り重なり、見え方が複雑に変化する。ところが写真4のごとく、建物内部に入り上階から見下ろすと、ある基準線にのり単純な幾何学的ルールで各要素が配置されていることが見て取れる。これらの配置した要素は、昼と夜（光と影の見えかたなど）・季節（花や葉の色など）・天気（雨に濡れ輝きを増す石の表面や、青空に映える緑など）などによってその都度表情を変え、さらに複雑さを増す。

街と呼応するランドスケープデザインを行う

建築が建つ街の「空気」を受けとめ、単純な構成でありながら、そこを訪れる人々が五感を使って様々な意味を感じ取ることのできる複雑さを持った、豊かな「風景」を創造し、逆に街に対して影響を及ぼす。つまり、建築を縦糸とすれば周囲の街は横糸で、それらを綾織りつなげていくことがランドスケープデザインの目指すところである。

（むこうやま　まさゆき）

新素材・新工法へのチャレンジ

原　信幸
㈱ニッテツ・ビジネスプロモート北九州



写真1　ハイポールモニュメント（北九州市戸畑区）

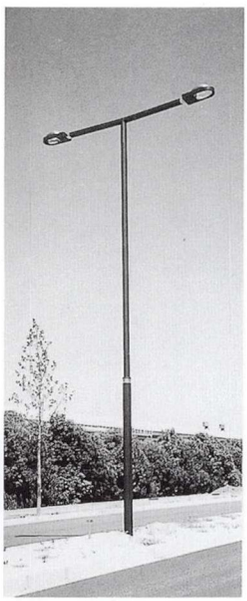


写真3　照明灯(北九州市八幡東区)



写真2　モニュメント（千葉県君津市）

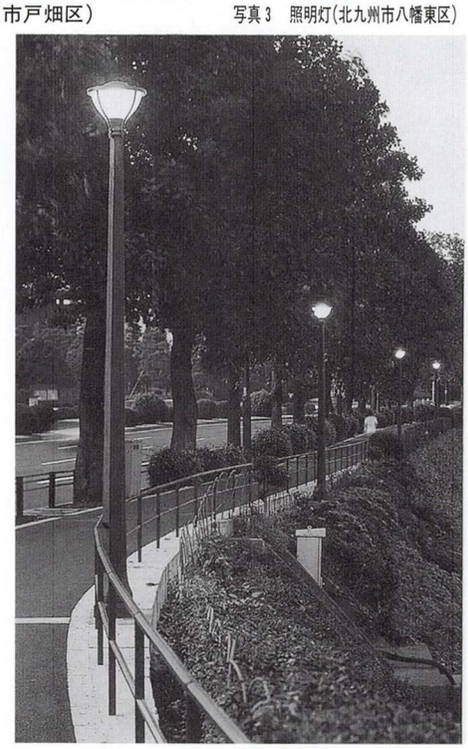


写真5　照明灯（東京都皇居周辺）

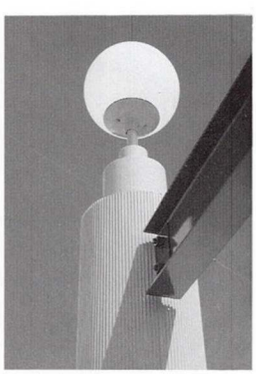


写真4　休憩舎（北九州市八幡西区）



写真6　アート（北九州市若松区）



写真7　ファニチャー、フェンス(広島県三原市)

私たちは、鉄づくりの歴史の中で育んだ素材技術力、エンジニアリング力をベースとして、景観材料（モニュメント・サインシステム・車止め・照明柱・木製品・舗装材等）のデザイン・設計・製作・施工までの一貫対応をさせて頂いております。

基本理念としては、潤いと彩りのアメニティ空間を常に高いクオリティで創造すること、時代のウォンツ（潜在ニーズ）をすばやく感じとり、新しい視点からのデザインとオリジナリティーに富んだモノ造りで、信頼性のある高感度商品であること、新しいマテリアルの特性が十分活かされていること等を掲げています。以下にその実例を紹介します。

写真1、2は、チタンを使用したモニュメントで、今まで民生品（ゴルフのクラブ、眼鏡のフレーム等）及び工業用に限られていたものを、軽くて強く錆びないこと、及び自由に発色できること等、特徴を活かしデザインしたもので、この他にもサイン、照明柱、ボラード等にも適用し、評価を頂いています。

写真3、4は、新日鐵㈱で開発した縦縞鋼管を使用した照明柱（チタンとの組合せ）、休憩舎で、デザイン上のシャープさと貼紙防止を兼ねた機能を持っており、他にサイン、ボラード等にも採用しております。

写真5、6は、鋳物の錆安定化処理技術を適用した皇居廻りの照明柱です。日本の中心地ということで、鋳物本来の風格と深みを出すというニーズに対応したものです。

写真7は、新日鐵㈱と共同で開発した「いす付防護柵」で、従来の防護柵に「いす」を備えたもので、人にやさしく、またスペースの有効利用に役立っています。

以上簡単に説明しましたが、本分野のパイオニアとして、今後共、世の中に役に立つモノを提案していきたいと思います。最後に、本稿のチャンスを与えて下さった関係者の皆様に感謝いたします。

（はら　のぶゆき）

日本建築協会

月間の動き

【平成10年10月分】

理事会

第4回定例理事会
28日　4時～4時30分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか21名
議　事　(1)入退会者承認の件
(2)後援協賛名義の使用承認の件
(3)事業報告、その他
第6回会勢理事会
28日　3時～4時・於本会会議室
出席者　岡本、錢高（代塩脇）両副会長ほか3名
オブザーバー／市川会長
議　事　入・退会状況と今後の進め方

編集委員会

第3回計画分科会―計画系―
5日　6時30分～9時・於本会会議室
出席者　小浦幹事ほか3名
議　事　2月号計画特集の企画
第7回会員企画小委員会
6日　6時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　塚口副委員長ほか4名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第7回素材と技術が生み出すデザイン幹事会
7日　6時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　本多幹事ほか5名
議　事　11、12月号のテーマの内容検討
第7回編集委員会（拡大）
8日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　内田委員長代行ほか9名
議　事　(1)11月号「会員作品―私の空間作法」「医療施設」特集経過報告
(2)12月号「第45回青年技術者」「ＪＲ西日本建築作品」特集経過報告
(3)11年1月号「らしさのデザイン」「九州」特集経過報告
(4)平成11年度特集掲載号検討
(5)平成11年1～6月号「建築の眼」執筆者
(6)表紙改訂
(7)経費節減のための方策
(8)収支状況報告
第6回広告企画小委員会
8日　5時～6時・於本会会議室
出席者　内田委員長代行ほか5名
議　事　(1)11月号「医療施設」特集広告経過報告
(2)12月号「ＪＲ西日本」特集広告経過報告
(3)1月号「九州」と「謹賀挨拶」広告経過報告
(4)独自特集企画経過報告
(5)作品作風
(6)平成10年度新建築調査の方法
(7)収支状況報告
第3回合同分科会
9日　7時～9時30分・於本会会議室
出席者　吉村委員ほか2名
議　事　平成11年1月号「建築の“らしさ”」特集企画
第7回法令分科会
14日　2時～3時・於本会会議室
出席者　炭崎幹事ほか2名
議　事　(1)改正建築基準法特集の企画
(2)「法令コーナー」の企画
(3)編集委員会の報告
第7回構造分科会
14日　6時～8時・於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか5名
議　事　「構造の頁」の企画
第7回作品作風小委員会
15日　7時～9時・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか4名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「gallery」「SKETCH BOOK」報告・予定
(4)11月号「会員作品」特集
第3回病院特集幹事会
22日　6時30分～10時30分・於本会会議室
出席者　久保田幹事ほか3名
議　事　医療施設特集の企画
第7回設備分科会
26日　6時30分～7時30分・於本会会議室
出席者　山根幹事ほか4名
議　事　(1)「設備の頁」の企画
(2)「基礎講座」継続企画案
(3)新シリーズ頁の企画の方向性
(4)設備特集の企画

事業委員会

第1回情報小委員会シーザーペリ分科会
6日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　天野主査ほか6名
議　事　講演会「シーザーペリの日本戦略（仮称）」
第6回若い会員の集い小委員会
7日　7時～9時・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか8名
議　事　(1)今後の予定
(2)当小委員会の今後のあり方及び新しい名称
第1回30's EYE 分科会
28日　7時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　米井主査ほか6名
議　事　「30's EYE」まとめ企画

教育委員会

第1回工高生教育小委員会
13日　6時～8時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか10名
議　事　第44回工高生デザインコンクール応募作品の予備審査、その他
第44回工高生デザインコンクール審査会
17日　1時30分～6時30分・於本会会議室
出席者　審査会：本多審査委員長ほか審査委員11名
委員会：片倉教育委員長ほか教育委員9名
議　事　工高生デザインコンクール応募作品の審査

建材委員会

第7回建材委員会
14日　3時30分～5時30分・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか4名
説明会　シート防水耐火屋根構法／機械固定防水工法研究会
議　事　今後の検討建材

出版委員会

第6回出版委員会
15日・5時30分～7時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか6名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)〈プロのノウハウ〉講座（第18回）開催の件

建築工事実務講習会

施工計画
20日　9時～5時・於大阪府建築健保会館
講師　関川詞之氏（大成建設㈱建築部工事計画室次長）
佐貫　久氏（鹿島建設㈱建築部生産計画室長）
受講者80名
積算・仮設見積
日・時間、会場同上
講師　仲村澄夫氏（㈱竹中工務店神戸支店見積担当課長）
梅原弘記氏（㈱大林組建築生産技術部副部長）
受講者70名

30's EYE―21世紀へのエスキス

末松利紀／末松利紀建築研究所
「静かなグルーヴ」
30日　6時30分～9時・参加者37名

見学会

伊丹市立文化会館見学会
7日　2時～5時30分・参加者42名
加古川ウェルネスパーク見学会
14日　2時～5時・参加者32名

建築クラブ

第318回朝食会
13日　8時30分～10時・於リーガグランドホテル
演　題　「水の良いとこ、悪いとこ」
講　師　村岡浩爾氏（大阪大学大学院工学研究科）
参加者　53名

入会者（敬称略）

〔個人会員9名〕

歌　一洋（歌一洋建築研究所）
佐々木由美（竹中工務店）
柴田　眞（アトリエファイブ）
西村　英夫（竹中工務店）
松本　竹史（竹中工務店）
八里　正人（環境開発研究所）
丸山　昭治（JR西日本コンサルタンツ）
山本　尊雄（松村組）
吉村　篤一（奈良女子大学）

平成10年度「大阪市ハウジングデザイン賞」決まる



ヒルトップハウス　阿倍野区晴明通



グランソレイユ日本橋　浪速区日本橋東



ステイツタ陽ケ丘五條宮前　天王寺区勝山



ファミール北大阪ライトコート　淀川区新高

ヒルトップハウス
事業者／朝日堂
設計／エーイー建築設計事務所
施工／ナカノコーポレーション、岡本建設

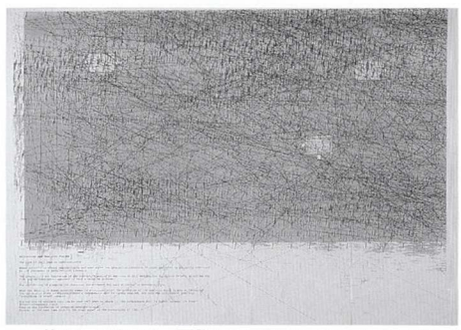
ステイツタ陽ケ丘五條宮前
事業者／野村不動産
設計／熊谷組
施工／熊谷組

グランソレイユ日本橋
事業者／三水
設計／小松建築事務所
施工／丸紅

ファミール北大阪ライトコート
事業者／丸紅
設計／都市建
施工／飛島建設

●審査委員会（平成10年度）
東　孝光氏／大阪大学名誉教授
高橋　叡子氏／大阪国際文化協会
巽　和夫氏／京都大学名誉教授
徳矢　典子氏／弁護士
宮井市太郎氏／NHKディレクター
三輪　雅久氏／大阪市立大学名誉教授
山口　完爾氏／住宅金融公庫
山下　英次氏／大阪市立大学
山本　晃氏／元大阪市局長

タキロン国際コンペ入賞者



第10回タキロン・国際デザインコンペティション'98
1等入選作品：西田勇人／鈴木健一郎

タキロン㈱主催の第10回タキロン・国際デザインコンペティション'98の課題は「都市におけるアトラクターと記号場」。

審査員・原広司氏（建築家）のもとに実施され、作品209点（海外20点）が寄せられた。

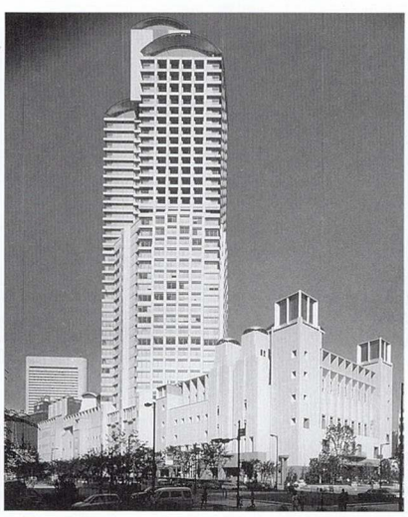
審査は昨年11月4日に行われ、17点が入賞（1等1点、2等1点、3等5点、入選10点）。表彰式は12月8日、東京の国際文化会館で行われた。

1等は大成建設㈱設計本部の西田勇人／鈴木健一郎氏。
2等は京都大学大学院の宮原賢次氏。

第18回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）入賞作品



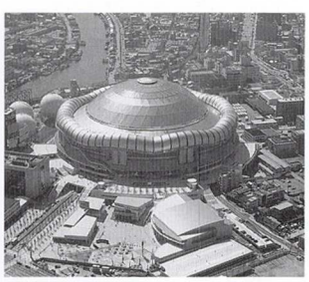
大阪府知事賞／PONTE FICO（ポンテ フィーコ）　羽曳野市誉田



大阪市長賞／ハービス OSAKA　大阪市北区梅田



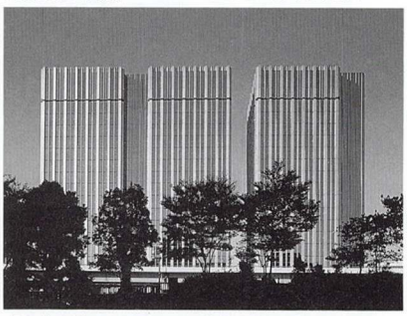
特別賞／大阪松竹座　大阪市中央区道頓堀



奨励賞／大阪ドーム　大阪市西区千代崎



奨励賞／アートコーポレーション本社　大東市泉町



大阪府建築士会長賞／アクア堂島ビル　大阪市北区堂島浜

PONTE FICO　設計／出江建築事務所　施工／松村組
ハービス OSAKA　設計／竹中工務店　施工／竹中工務店・大林組・鹿島建設・ハンシン建設共同企業体
アクア堂島ビル　設計施工／竹中工務店
大阪松竹座　設計／ユー・アソシエイツ・大林組　施工／大林組・清水建設共同企業体
ピアスタワー　設計／日建設計　施工／東急建設・大林組・錢高組共同企業体
大阪ドーム　設計／日建設計　施工／大阪ドーム建設共同企業体連合
アートコーポレーション本社　設計施工／熊谷組
ガーデンシティ・コープ金剛東　設計／藏建築設計事務所、瀧光夫建築・都市設計事務所　施工／三井建設



奨励賞／ピアスタワー　大阪市北区豊崎



奨励賞／ガーデンシティ・コープ金剛東　富田林市

新年のご挨拶

平成11年元旦

（50音順）

青山幸夫

株式会社　青山建築積算事務所　代表取締役

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-6-10本町西井ビル
電話06(6443)0430
〒610-1125 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

浅海伸之

浅海電気株式会社　代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号　電話06(6362)8701
〒665-0845 自宅・宝塚市栄町２丁目10番26―1102号
電話0797(81)1174

五十嵐定義

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5丁目8番1号　電話06(6872)0391

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役

〒547-0001　大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(6792)4425代
〒547-0041　大阪市平野区平野北2丁目9番15号
電話06(6796)1839

稲越二郎

中央電設株式会社　取締役社長

〒530-0051 大阪市北区太融寺町3番24号 電話06(6312)8881代表

上西圭治

株式会社　大気社　代表取締役会長

〒530-0005 大阪市北区中之島３－２－18 住友中之島ビル７階
電話06(6448)3603
〒659-0025 自宅・兵庫県芦屋市浜町12-14　電話0797(22)5949

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06(6244)1561代
〒599-8126 自宅・堺市大美野５―９　電話0722(37)1162

歌俊美

株式会社　歌建築設計事務所　代表取締役

〒649-6414 和歌山事務所：和歌山県那賀郡打田町打田316
電話0736(77)2711
〒537-0021 大阪事務所：大阪市東成区東中本3-16-23-304
電話06(6977)0625

多井幸男（オオイ）

多井建築研究所　所長

〒657-0063 神戸市灘区曽和町３―１―11 電話078(821)6133

岡本行善

株式会社　昭和設計　取締役会長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク１番街
Tel 06-6575-5555 Fax 06-6575-5556
URL http://www.showa-sekkei.co.jp



神戸ハーバーランド

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565-0821 吹田市山田東1―12―12　電話06(6876)2334
〒565-0821 自宅・吹田市山田東1―12―12
電話06(6877)1406

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654-0103 自宅・神戸市須磨区白川台２丁目39―13
電話078(792)5862

木内啓介

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(6543)2553

久米宏和

社団法人 大阪建設業協会　専務理事

〒540-0031 大阪市中央区北浜東1番30号 電話06(6941)4821
URL http://www.o-wave.or.jp/

小西岬 / 橋本正章 / 此谷浩

取締役会長　小西岬
取締役副会長　橋本正章
取締役社長　此谷浩

株式会社　小西設計

〒550-0012 大阪市西区立売堀１丁目12―16 電話06(6532)4051

小林四郎

住友電設株式会社　相談役

〒550-8550 大阪市西区阿波座２―１―４ 電話06(6537)3430
〒662-0093 自宅・西宮市西平町19―11　電話0798(74)6621

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540-0034 大阪市中央区島町２丁目４番７号 電話06(6943)1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町４の９　電話0798(72)1569

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長

〒530-0017 大阪市北区角田町2番15号 電話06(6372)7151代

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長

〒540-0004 大阪市中央区玉造２丁目25番20号
電話06(6765)5650代　FAX06(6765)5655
〒614-8056 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

新年のご挨拶

平成11年元旦

(50音順)

立野一郎

株式会社 ユニオン 会長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2丁目13番22号 電話06(6532)3188

蜷川守男

大阪装飾株式会社 代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目13番24号 電話06(6444)1410
〒665-0071 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号 電話0797(72)6045

牧英二

日建設計 取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06(6203)2361

玉川公弘

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531-0071 大阪市北区中津6丁目8番4号 電話06(6458)3628

福島健

大晃設備株式会社 取締役社長

〒554-0012 大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電話06(6466)4779
(ダイヤルイン)

松田恒彦

株式会社ART建築設計事務所 代表取締役所長

〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目3-10 トップス天満ビル
電話06(6357)5351代
〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2丁目8-7
電話06(6701)4571

名誉正会員

知見義夫

元・本会理事

〒601-8413 自宅・京都市南区西九条春日町48
電話075(691)3860

福原裕治

財団法人 大阪市建築技術協会 理事長

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1丁目2番7-1300号
あべのメディックス13階 電話06(6636)1777

松原満佐子

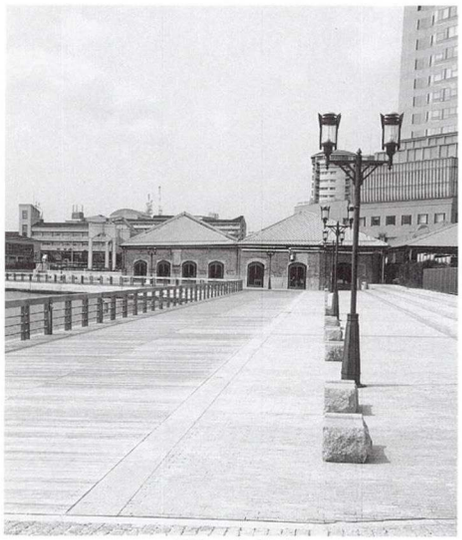
有限会社 柳々堂 代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3 電話06(6443)0167～8
FAX06(6443)1826

傳馬正明

ムツミ産業株式会社 代表取締役

〒550-0004 大阪市西区鞠本町1丁目17番15号
電話06(6441)0378大代
〒557-0042 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22—507
電話06(6651)0566



神戸ハーバーランド

三宗司郎

株式会社 昭和設計 代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街
Tel 06-6575-5555 Fax 06-6575-5556
URL http://www.showa-sekkei.co.jp

取締役会長 **徳岡昌克**
取締役社長 **徳岡浩二**

株式会社 徳岡昌克建築設計事務所

〒530-0047 大阪市北区西天満6-3-11-205 電話06(6314)1688
〒661-0965 尼崎市次屋3-6-60 電話06(6499)0701
〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-25-5 電話092(474)2112
〒520-0501 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157
電話0775(96)1149

副会長

薬袋公明

日建設計 取締役会長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号
電話06(6203)2361

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル 電話0794(62)4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話0794(62)4668

福谷剛

株式会社 ゼネラルプリンティング 代表取締役社長

〒542-0063 大阪市中央区東平1丁目4-17 電話06(6763)2541
〒666-0129 川西市緑台1丁目8—7 電話0727(93)0409

村石全

株式会社 クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社 代表取締役社長

〒556-0022 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号 電話06(6568)3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3 電話0724(37)2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
電話0736(22)7880

中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役

〒530-0054 大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町isビル
電話06(6312)3001

真塚達夫

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4—4—10
電話06(6202)0391
〒546-0044 自宅・大阪市東住吉区北田辺6—18—7

八木重喜

YAGISO BRICKS
八木惣株式会社 常務取締役

〒593-8322 堺市津久野町3丁28-10 電話0722(62)3838
〒593-8322 自宅・堺市津久野町3丁28-10 電話0722(61)0443

新年のご挨拶

平成11年元旦

（50音順）

山　本　貴　士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 電話06(6385)1361代
朝日ビルディング内
〒565-0873 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06(6871)0851

和　田　克　朗

財団法人　大阪住宅センター　理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(6253)0071

和　田　眞　一

株式会社　東　和　組　代表取締役社長

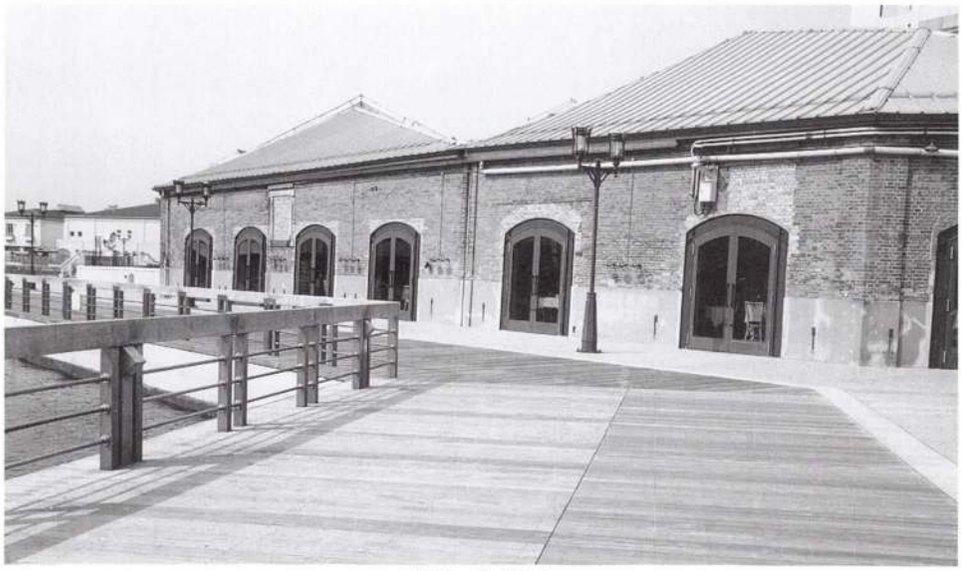
〒530-0047 大阪市北区天満4丁目5番14号
電話06(6363)4051代
〒659-0065 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

和　中　勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531-0072 大阪市北区豊崎5丁目8番11号
電話06(6371)0731～5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11－5　電話03(3464)9723
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地 電話052(481)7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798(67)0386

事務局職員一同



神戸ハーバーランド

新年のご挨拶

平成11年元旦

設計事務所有志

健康で豊かな生活文化の創造に貢献する

株式会社 A.R.I 建築事務所



代表取締役　建築家
亀井　晃治

■本　　社／大阪府大阪市中央区谷町7-3-4-203　〒542-0012
TEL 06-6768-1771　FAX 06-6768-1406
■東京支店／東京都千代田区東神田1-7-8　東神田大治ビル内
■神戸支店／兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-24
■創　　立／昭和37年4月1日　　■資　　本／7,600万円
■登　　録／一級建築士事務所　　大阪府知事　(り)第1848号
■作　　品／帝塚山学院大学、帝塚山学園大学、関西外国語大学、
大阪明浄女子短期大学など多数
■グループ／(株)arix

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　岡　本　清　彦

〒556-0016 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)6646-0161㈹

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　鋤　納　忠　治
代表取締役社長　織　田　愈　史

本　　社　〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目2番13号(名古屋センタービル)　電話<052>222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号(聖公会神田ビル)　電話<03>5294-6211

株式会社石本建築事務所

ISHIMOTO

代表取締役会長　古　畠　誠　一
代表取締役社長　菅　原　道　雄
取締役大阪支所長　山　内　恒　男

本　　社　〒102-0074 東京都千代田区九段南 4－6－12　電話03(3262)7161
大阪支所　〒541-0054 大阪市中央区南本町2-6-12(サンマリオン大阪)　電話06(6251)7507代
支　　所　札幌・名古屋・九州　　事務所　横浜・中国・PORTLAND

URABESEKKEI 株式会社 浦辺設計

URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530-0001　電話 06(6341)1680
岡山事務所　岡山市問屋町26－103　〒700-0977　電話 086(245)0090

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長 三 宗 司 郎

本 社 552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 オーク1番街 TEL 06-6575-5555
URL http://www.showa-sekkei.co.jp
東 京 160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル4F TEL 03-3357-8631
神 戸 650-0024 神戸市中央区海岸通り6番地 建隆ビル302号 TEL 078-331-4568

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役 瀬 戸 本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目1－1神戸郵船ビル TEL078-333-0138

株式会社 創 美 設 計

代表取締役 中 原 英 雄

大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町iSビル 〒530-0054 TEL.(06)6312-3001代表

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役社長 金井 萬造

本社・京都事務所・〒600-8007 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132(代) FAX.075-256-1764
大阪事務所・〒540-0001 大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-6942-5732(代) FAX.06-6941-7478
名古屋事務所・〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル13F
PHONE.052-265-2401 FAX.052-249-3925
東京事務所・〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130(代) FAX.03-3226-9560
九州事務所・〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ6F
PHONE.092-731-7671 FAX.092-731-7673

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長 市 川 宏
取締役社長 眞 塚 達 夫

本社大阪事務所 大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話 (06)6202-0391
東京事務所 東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話 (03)3581-1251
名古屋事務所 名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話 (052)223-3931
九州事務所 福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話 (092)472-8737

建築・土木の設計監理
日建設計

代表取締役会長 薬 袋 公 明
代表取締役社長 牧 英 二

大 阪 541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6－2 電話 (06) 6203-2361
東 京 112-8565 東京都文京区後楽2丁目1－3 電話 (03) 3813-3361
名 古 屋 460-0008 名古屋市中区栄4丁目15—32 電話 (052) 261-6131
支所・その他 東北(仙台)・神奈川(横浜)・北陸(富山)・神戸・広島・九州(福岡)
シンガポール・上海・台北・ソウル・クアラルンプール

株式会社 日積サーベイ

社長　加藤哲也
相談役　生島道春

本社　〒540-0012 大阪市中央区谷町３－１－９（ＭＧ大手前ビル）　TEL(06)6944－2755代表
ＳＳＤセンター　〒540-0012 大阪市中央区大手通２－１－６（ＭＧ大手通ビル）　TEL(06)6944－9348代表
㈱東京日積　〒110-0016 東京都台東区台東４－14－８（シモジン・パークビル）　TEL(03)3836－1271代表
日積設計監理㈱　〒550-0003 大阪市西区京町堀１－10－８（福岡ビル）　TEL(06)6444－2706

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　佐野吉彦

本社　〒540-0034 大阪市中央区島町２丁目４番７号　電話 06(6943)1371(大代)
支社　大阪・東京・名古屋・神戸・広島・福岡



神戸ハーバーランド

新年のご挨拶

平成11年元旦

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

株式会社 **淺沼組**

取締役社長　淺沼健一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話06(6768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州

空間に新しいエナジー

ANDO **安藤建設**

取締役社長　沖田幸作　　常務取締役支店長　柳澤淳右

本社　東京都港区芝浦3丁目12―8　電話(03)3457-0111㈹
大阪支店　大阪市福島区福島6丁目3―21　電話(06)6453-2190㈹

IMANISHI

株式会社 今西組

取締役社長　今西邦夫

本社　大阪市天王寺区上本町6丁目9番21号　TEL06(6779)3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　TEL03(3354)0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

OBAYASHI

株式会社 大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　向笠慎二

東京本社　東京都港区港南2―15―2　電話　03(5769)1111
本店　大阪市中央区北浜東4―33　電話　06(6946)4400
支店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

株式会社 **奥村組**

取締役社長　奥村正太郎

本社　〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号　電話 大阪(06)6621-1101(代表)
東京本社　〒107-8429 東京都港区元赤坂一丁目3番10号　電話 東京(03)3404-8111(代表)

快適な環境を創造する

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　梅田貞夫
常務取締役 関西支店長　井保武寿

本　　社　東京都港区元赤坂１－２－７　電話 03(3404)3311(大代)
関西支店　大阪市西区阿波座１－３－15　電話 06(6536)3311(大代)

KARATANI

株式会社 柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　　社　尼崎市玄番南之町４番地　電話大阪 06(6415)２８００(大代)
支　　店　大阪・神戸　　営業所　西宮・三田・高砂・西播磨

共立建設株式会社　関西支店

取締役支店長　飯塚英雄

支　店　〒540-0026 大阪市中央区内本町２－２－５　ＴＥＬ 06—6942—2491（代表）
本　社　〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂１—16—10　ＴＥＬ 03—3461—6141（代表）

公成建設

代表取締役社長　絹川治

本　　社　〒600-8322　京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531-0072　大阪市北区豊崎２丁目４番３号　☎06-6375-1121
東京営業所　〒141-0021　東京都品川区上大崎３－３－９—215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453-0023　名古屋市中村区若宮町３丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　　社　〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺１丁目14番29号　TEL 大阪06(6779)7731㈹
FAX 大阪06(6779)7133
関東支店　〒350-2211 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492(87)0301
FAX 埼玉0492(87)0300

SANWA

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本社・本店　大阪市淀川区加島１丁目55番６号 〒532-0031 電話 06(6301)6636
東京・京都・神戸・高槻

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　今村治輔
常務取締役大阪支店長　増島修二

本　　社　東京都港区芝浦１－２－３　電話 03(5441)1111
大阪支店　大阪市中央区本町３－５－７　電話 06(6263)2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　和田　勇

本　　社　〒531-0076　大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06(6440)3111
東京本社　〒151-8070　東京都渋谷区代々木2丁目1番1号（新宿マインズタワー）　☎03(5352)3111

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　　社　大阪市西区西本町２丁目２番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪(06)6531-6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国
九州
URL http://www.zenitaka.co.jp

TAISEI

大成建設株式会社

取締役社長　平島　治
専務取締役関西支店長　遠藤郁夫

本　　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル TEL03(3348)1111大代表
関西支店　大阪市中央区南船場１丁目14番10号 TEL06(6268)8500
支　　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国・千葉・関東・神戸

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町４丁目1—13　電話 大阪（6252）1201番(代表)

TEKKEN

信用と技術の

鉄建

常務取締役大阪支店長　田中義孝

大阪支店　〒541-0048 大阪市中央区瓦町３－３－７　電話 06(6201)1881(代表)
本　　社　〒101-8366 東京都千代田区三崎町２－５－３　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸　田　守　二
取締役大阪支店長　河　口　允　昭

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋１丁目７番１号　TEL 東京03(3562)6111
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町１丁目13番47号　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・神戸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

南海辰村建設

取締役社長　芦　田　　淳

〒556-0011　大阪市浪速区難波中３丁目５番19号　電話 06 (6644)7823番

不動建設株式会社

取締役社長　市　吉　正　信

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話０６（６２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東１丁目2番1号　電話０３（３８３７）６００９番
支　　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤　木　鐵　三

本　　社　〒540-0028　大阪市中央区常盤町 1-3-8　☎06-6966-0400㈹
東京本社　〒160-0008　東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600㈹
本 支 店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530-0042 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 ☎06(6353)1001㈹
支　店　東京・東北　　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡

Matsumura

株式会社 松村組

取締役社長　福　田　耕　作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満１丁目10番20号　電話 大代表 大阪(6353)1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜

望月建設株式会社

代表取締役会長　望月小太郎
代表取締役社長　松村利重

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　〒530-0015　電話 大阪 (6375)2345(代表)

株式会社 森組

取締役社長　岡本利一

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06)6201-2761
大阪本店　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06)6201-2762
東京本店　東京都中央区日本橋浜町3丁目23-1　電話(03)3808-2071
支　店　東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　栃木・埼玉・滋賀・京都・和歌山・紀泉・堺・高石・西宮・松山・北九州・長崎・熊本

保存と開発に取り組む…

数寄屋建築

株式会社 安井杢工務店

代表取締役　安井洋太郎

本　社　〒617-0006 京都府向日市上植野町御塔道42
TEL (075)933—0012㈹　FAX (075)933—4931

東京事務所　東京都練馬区東大泉3-22-11-401
TEL・FAX (03)3925—0798



神戸ハーバーランド

新年のご挨拶

平成11年元旦

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　白石静二

〒540-0011 大阪市中央区農人橋2－1－10(大阪建築会館5F)　電話 06(6943)7253

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　小宮三辰

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階)　電話052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　黒田征四郎

〒640-8045 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人　**日本建築材料協会**

会　長　柴田藤祐

〒550-0003　大阪市西区京町堀1丁目8番3号　電話06(6443)0345

OCT

学校法人　福田学園

大阪工業技術専門学校

建築・土木　CAD　機械

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27 ☎06(6352)0091 FAX06(6352)2861
URL http://www.oct.ac.jp/ e-mail info@oct.ac.jp 0120-0910-19

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業44年

株式会社　**建設日報社**

代表取締役社主　重村登龍
代表取締役社長　重村一

本　社　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-7-3 TEL06(6444)2405-9
別　館　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL06(6444)6431-4

建設通信新聞

株式会社　**日刊建設通信新聞社関西支社**

取締役関西支社長　霜崎等

〒540-0026 大阪市中央区内本町1－3－5　電　話 06(6944)9191代表
内本町山森・住友生命ビル　ＦＡＸ 06(6944)9197
本社・〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-13-7　電　話 03(3259)8711代表

大阪府耳順会

(大阪府OB建設技術研究会)

会　長　名手宏彦(ミサワホーム)　副会長　八木常美(大都工業)　桝谷芳明(藤木工務店)
幹　事　岡崎次良(因幡電機製作所)　豊田忠男(大末建設)　難波敏廣(環境開発研究所)
甫出裕紀(フジタ)　四方清敏(ダイキン工業)
会計幹事　伊地知徳春(東洋建設)　福家敬(鉄建建設)　監事　石橋輝雄(大鉄工業)　桜井安則(日立製作所)
定例会［第2・4金曜日；場所　㈳日本建築協会　☎06－6348－0635　FAX 06－6348－0634

会員の親睦と講演――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一
事務局　日本建築協会
〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第3ビル21階
電　話　(06) 6348－0635　　FAX (06) 6348－0634

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工
金属製屋根、外装、換気装置工事業

OSHIMA OHYO

代表取締役社長 貞利政和
本社／大阪本店 大阪市旭区太子橋1-15-22 TEL 06-6954-6521
支店、営業所 東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工場 新居浜・寝屋川
大島応用化学工業株式会社

人と文化のふれあいをつくる

SANSEI YUSOKI sansei

三精輸送機株式会社

代表取締役 本多孟

本社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564 ☎ 06 (6385)5621 (代)
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の29の11 ☎ 03 (3356)5651 (代)
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地 ☎ 0773 (27)1211 (代)
営業所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄

TAJIMA

株式会社タジマ

東京営業本部 〒101-0032 東京都千代田区岩本町3—11—13 電話(03)3862-5908
大阪営業所 〒550-0003 大阪市西区京町堀1—10—5 電話(06)6441-5951 FAX(06)6444-2596

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東京：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3—11—13 電話 (03)5821—7711
大阪：〒550-0003 大阪市西区京町堀1—10—5 電話 (06)6443—0431
FAX (06)6445—0895

DIC

大日本インキ化学工業株式会社

取締役支店長 中野近幸

土木建築材料
販売促進プロジェクト

〒541-0056 大阪市中央区久太郎3丁目5—19
TEL (06) 6252-6161

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

代表取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10（T S ビル）電話(06)6943—6571
東京本社　〒106-0032 東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル）電話(03)3479—2911

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　玉川公弘

本　社　大阪市北区中津６丁目８番４号　電話 大阪(06)6458-3628
支店･営業所　福岡・北九州・宮崎・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

〒530-0043　大阪市北区天満２丁目５—15　TEL06-6352-7502㈹　FAX06-6355-2714

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東２—23— ４　☎東京(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町１丁目12番22号　☎大阪(6533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

支部長　清水長次郎

大阪市西区新町１丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（6533）３１９１大代表

超高層ビルから 一戸建てまで
愛される夢を育てる

日立冷熱株式会社 代理店
日立化成工業株式会社 代理店
新明和工業株式会社 代理店
BRIDGESTONE 代理店

三協アルミニウム工業㈱ 代理店
立山アルミニウム工業株式会社 代理店
信越ユニット株式会社 代理店
昭和ロック株式会社 代理店
庭づくりのパイオニア GLOBEN

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550-0004 大阪市西区靱本町１丁目17番15号　電話（06）大代表6441—０３７８番 出張所：東京・京都・北九州

山本窯業化工株式会社

YAMAMOTO YOGYO

代表取締役社長　山　本　泰　通

本　　社　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20　TEL(06)6338-8601　FAX(06)6338-8606
大阪営業部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町8-7　TEL(06)6338-8701　FAX(06)6384-0557
支店・営業所　東京・北関東・名古屋・静岡・広島・岡山・福岡・仙台／福崎工場

ITEMS
- ●建築用ドアハンドル
- ●レバーハンドル
- ●ケアシステムーハンドバー
- ●クロセットドア
- ●ドアストップーエッセ
- ●フロアシステム
- ●消火器収納ケースーアルジャン
- ●サインシステムーピクト
- ●都市景観ランドポール・エキスポール
- ●キャスタル+メタルアート
- ●アーキパーツ

http://www.artunion.co.jp/


大阪ショールーム

建設環境金属製品の

UNION 株式会社ユニオン

UNION CORPORATION

代表取締役 社長　立野純三

■本社――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)3188 ㊠06(6533)3747
■大阪支店――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)3731 ㊠06(6532)0568
■大阪ショールーム――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)8920 ㊠06(6533)0224
■東京支店――東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ☎03(3630)2811 ㊠03(3630)2816
■東京ショールーム――東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ☎03(3506)1717 ㊠03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム――名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 ㊠052(363)5255

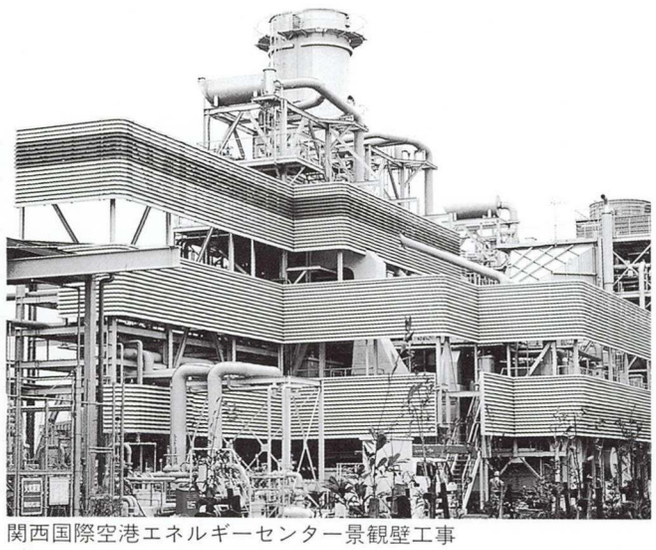
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア（ETC-F）
・オリエンタルスチールライト（STL）
・オリエンタルユニライト（UNL）


関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕
ボーロイド（断熱材）D.G.　※カタログをご請求ください。

オリエンタルメタル株式会社

本　　社　〒335-0002 埼玉県蕨市塚越5－12－2 TEL（048）442-3111
東日本支社　〒335-0002 埼玉県蕨市塚越5－12－2 TEL（048）442-3115
西日本支社　〒660-0802 兵庫県尼崎市長洲中通3-24-35 TEL(06)6487-2121
支　　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　　場　熊　谷・東　条・姫　路

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電 0720—49—2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話06-6949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長　依藤孝行

青葉印刷株式会社
〒534-0027　大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)

(株)ホクシンクロス

〒583-0881　大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL（0729）39－3610

工場　〒580-0046 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597-0051 大阪府貝塚市王子501

夢×技=∞（無限大）
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄
本　社　大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル５階)
電　話　０６（６３６１）３６７１(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町２丁目１７番３号
電　話　０３（３６６６）１４７８(代)
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

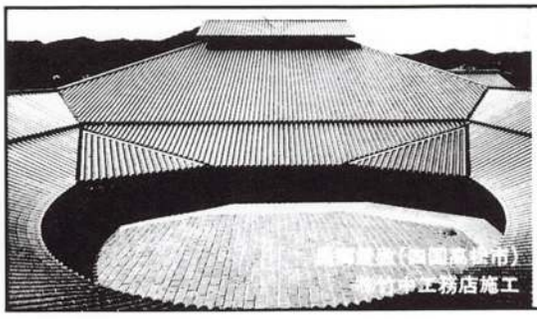
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信
大阪市中央区高麗橋４丁目３番７号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納秀一
本　社　〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL.06(6364)1471・FAX.06(6364)5533
東京支社　〒105-0003 東京都港区西新橋1-8-5(ランディック第3ビル)　TEL.03(5472)3311・FAX.03(5472)0085
名古屋支店　〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX.052(914)7535
神戸支店　〒657-0035 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル　TEL.078(842)6411・FAX.078(842)6416
原研究所　〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX.0722(27)1424

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町１の13の33
TEL.06－6532－0641(代表)
FAX.06－6535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町４９

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス　六五六一～七四五四
六五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
専門事業務店施工

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530-0043　大阪市北区天満２丁目５番15号
TEL.06(6352)7502㈹　FAX.06(6355)2714

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294
Master Builders Technologies

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(6391)1081～2 FAX06(6395)2109 名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765 厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

快適な明日を提案する

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社　http : //www.toyo-shutter.co.jp

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1－2－10（TSビル）TEL(06)6943－6571（代）

■東京/横浜/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/滋賀/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に

●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに

●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に

●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入

●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社

TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社

TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

そくそく登場
水まわりまるごと抗菌
KILAMIC INAXのキラミック

INAX

洗面室



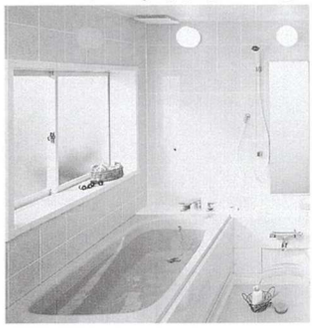
キッチン



トイレ



バスルーム



抗菌だからお手入れカンタン！
しかも、お値段そのまま！！

清潔快適、汚れに強い
抗菌効果で水まわりを清潔に保つうえ、
黄バミ・ヌメリを抑え、お手入れ簡単。

抗菌仕様が標準仕様
水まわりのほとんどを抗菌化。お客様に
トータルでご提案いただけます。

●キラミックのことならお問い合わせください。 株式会社INAX
関西統括支社　大阪市西区新町一丁目34番15号　大阪グレンチェックビル TEL 06-6539-3500

Natural selection at its best.
Milliken Carpet

最も進化した床材として今、注目されています！

comfor+plus

－ コンフォートプラス －

ポリウレタンクッションと密度の高いパイルの二重衝撃吸収構造
◆優れた機能性　◆快適な歩行感　◆洗練されたデザイン

MILLIKEN

MILLIKEN JAPAN K. K　－ミリケン・ジャパン株式会社－

OSAKA SALES OFFICE　〒530－0043 大阪市北区天満2－1－20天満松茂ビル4F
PHONE 06－6353－1611　FAX 06－6353－1699

TOKYO SALES OFFICE　〒105－0001 東京都港区虎ノ門3－8－21虎ノ門33森ビル8F
PHONE 03－3434－3600　FAX 03－3434－3620



Kinden CORPORATION

May I Help You?

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん ネットワーク工事担当
架空配電設備
地中配電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 電力工事担当
発・変電設備
架空送電設備
地中送電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 情報通信(広域)工事担当
CATV設備
移動体無線通信設備
光通信設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 情報通信設備(構内)担当
データ通信設備
統合ネットワーク設備
LAN設備　構内映像設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 内装設備担当
システム天井
OAフロア インテリア内装
小規模建築

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 空調・衛生設備担当
空気調和設備
給排水・衛生設備
クリーンルーム設備
公害処理設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 一般電気設備担当
ビル電気設備
工場電気設備
施設電気設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 計装設備担当
ビル計装設備
工場計装設備
パワープラント計装設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 国際事業担当
アジアエリア
太平洋エリア
中近東エリア
他海外ネットワーク

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん エネルギー有効利用システム担当
地域冷暖房設備
コージェネレーション設備
氷蓄熱空調設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 防災・防犯設備担当
自動火災報知設備
避難誘導設備
防犯設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 新エネルギーシステム担当
太陽光発電設備
燃料電池発電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん ファシリティ・マネジメント担当
設備診断
設備改善提案
リニューアル・メンテナンス

きんでんがお手伝いできることは結構多い。

私たちの事業分野にご注目ください。すでにご存じの人もいらっしゃるでしょうが
おや、こんなこともやっていたのかという人もいらっしゃるはずです。
きんでんは、「情報」「エネルギー」「環境」をテーマに技術領域を拡げ
それらの技術を有機的に結合させることで新たなる価値を創造する
総合設備エンジニアリング事業を展開しています。
そのなかで生まれたのがこれらの事業です。その多彩さは
きんでんが現代の都市や社会が求めるニーズにフレキシブルにお応えしている証と言えるでしょう。
今日の都市をより豊かにするために、明日の社会をさらに創造的にするために。
私たち きんでんが、いろいろとお手伝いしていきたいと思います。

いろんな技術が集まって、きんでんです。

株式会社 きんでん
本　店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号
東京本社 東京都品川区東五反田5丁目25番12号

国内事業所185ヵ所／海外事務所12ヵ所／国内関係会社19社／海外関係会社4社／海外合弁会社7社

KOKUYO



あらゆる色に対応する焼付塗装パネル
表面に美しい焼付塗装を施したスチールパネルは、デザイン性と施工制に優れた引っ掛け式の底目地タイプ。豊富なカラーバリエーションにより、室内のイメージに合わせたコーディネートが可能です。

Planner Wall 21

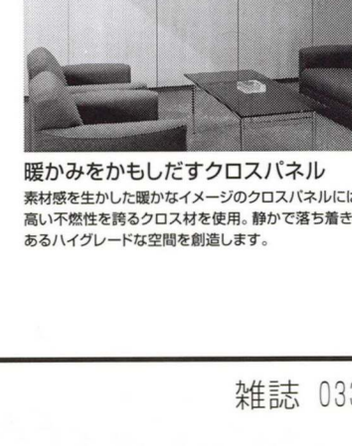
プランナーウォール®21

「人と環境にやさしい、快適なスペースを創出。」

時代や職務内容の変化に対応した、フレキシブルで効率的なスペース活用。
その機能性と快適性に優れた、個性豊かなスペースづくりに欠かせないものが、間仕切りです。
コクヨのプランナーウォールは、単に大きな空間を分割するのではなく、
人の動きや視線を充分に考察し、ニーズに応じたスペースを確保するとともに、環境に配慮した素材を採用。
オフィスをはじめ、ホテル、公共施設、病院、学校など、
あらゆる施設で人と環境にやさしいスペースづくりを実現しています。



地球に、人にやさしいエコパネル
エコパネルとは金属とは思えない柔らかい温みのある手触りを有する木目調、抽象柄の高意匠性ラミネート鋼板を使用したパネルです。従来の化粧シート鋼板と異なり塩化ビニール材を一切使用しておりません。地球に、人にやさしく温かみのあるクオリティーの高い空間を構成します。



暖かみをかもしだすクロスパネル
素材感を生かした暖かなイメージのクロスパネルには、高い不燃性を誇るクロス材を使用。静かで落ち着きのあるハイグレードな空間を創造します。

コクヨ株式会社
本 社
〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
TEL(06) 6976- 1221
ホームページURL http://www.kokuyo.co.jp
お問い合わせ、ご相談はフリーダイヤル(全国共通)
お客様相談室 0120-201594
お客様相談室FAX 0120-060660

Vol.80通巻922号 平成11年1月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
社団法人 日本建築協会 〒530-0014 大阪市北区梅田1-9-5 ☎06(6344)2001 電話大阪06(6348)0635 FAX06(6348)0634 振替口座00970-1-13975
定価1,200円(●本体1,143円●消費税57円●送料共) 正会員の購読料は会費に含めて徴収